

平成 25 年度

病 院 年 報



三浦市立病院

三浦市立病院憲章

基本理念

三浦市立病院とその職員は、健康啓発、疾病の予防と治療、そして社会復帰に至るまでの医療全般にわたり、当院の持ち得る資源を最大限に活用して市民皆様に貢献します。

基本方針

1 患者様中心の医療の実践

患者様の声を尊重し、相互の信頼関係に基づいた医療サービスを提供するとともに、患者様の医療に関する権利を確保します。

2 救急医療への対応

地域中核病院として本市救急医療体制の中心的役割を担います。

3 安全で安心な医療の推進

安全かつ安心して医療を受けられる環境を整備します。

4 医療技術の向上

常に適切な医療技術を提供します。

5 人材の育成・確保

病院職員としての倫理を遵守し、患者様の生命を尊重した安全で安心の医療を提供できる職員づくりに取り組みます。

6 地域連携の強化

地域医療機関と連携し、地域医療体制を強化します。

7 療養環境の向上

快適な入院生活が送れるよう、医療行為はもちろんその他の部分も含めてきめ細やかな対応を図ります。

8 経営改善と安定経営

公共性を確保するとともに、合理的かつ効率的な病院経営に努め、健全で自立した経営基盤を確保します。



はじめに

三浦市立病院総病院長 小澤幸弘

1年とは早いものです。5年ぶりに年報を出したかと思っていいたら、もう平成25年度の年報を出す時期となりました。3年続けて、今年も幸い経常収支の黒字化を果たせたのも依然不足する医療スタッフにもかかわらず、職員の努力と院外の協力のもと急性期医療がなんとか機能していたおかげと思っています。その上で、「三浦ならではの」地域医療の確立のために、今年は大膽な職員採用からはじめました。看護師8名も異例、病院独自の事務職3名の採用も異例です。特にリハビリテーション科では、理学療法士7名、作業療法士2名の採用は画期的で、計15名のリハビリスタッフでの運用となりました。

いまや世の中では2025年問題を前に医療と介護の連携は急務となっていますが、かねてより「三浦ならではの」地域医療の確立を目指して、地域における保健・医療・福祉の一体化を図ってきた当院にとって、リハビリテーション科の拡充は大きな転換点となりました。実際に介護事業所としての「みなし指定」をうけ訪問リハビリテーションを開始するとともに、土曜日リハビリテーションも始めました。「三浦ならではの」高齢者医療・介護連携のための調査研究事業を継続し、多くの市民を集めたシンポジウム「在宅看取りを考える」を開催することができました。また、市内の訪問看護ステーション、特養、老健、グループホーム、クリニック、診療所、行政、保健福祉事務所などを対象に①感染対策②褥瘡対策③緩和ケア④リハビリテーションの各項目で連続した公開講座を始めました。これも病院職員が一体となって院外との連携を求めてくれたおかげと感謝しています。

そして、病院にとって大きな転換点となったのが、年が明けて1月13日に電子カルテシステムを導入したことです。136床の小さな当院にとってひとつの大きな冒険でした。しかし、予想を超えて順調に機能しています。これにより患者サービスの向上や医療安全のレベルアップを図ることができます。また、この電子カルテシステムが、近い将来市内診療所や介護事業所と共有する地域医療・介護ネットワークの基盤となることを期待するものです。

今年も年報を編纂することができましたが、三浦市立病院が将来にわたって地域になくしてはならない病院として安定して機能し続ける記念の一冊となることを祈念するものです。

以上

三浦市立病院年報（平成25年度） 目次

三浦市立病院憲章

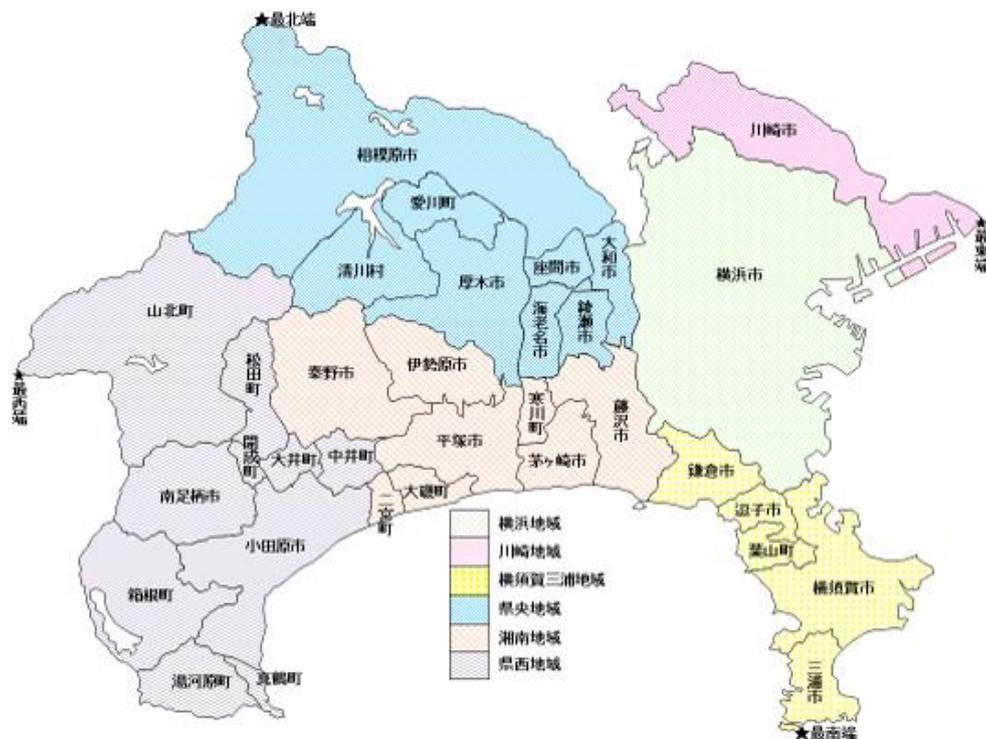
はじめに

I 病院の概況	- 1 -
1 位置	- 1 -
2 沿革	- 3 -
3 施設の概要	- 8 -
(1) 土地・建物	- 8 -
(2) 設備	- 8 -
4 配置図	- 9 -
5 現況	- 12 -
6 施設基準	- 13 -
(1) 基本診療科	- 13 -
(2) 特掲診療科	- 13 -
7 組織及び職員配置状況	- 15 -
(1) 組織図	- 15 -
II 各科の活動状況	- 17 -
1 医務科	- 17 -
(1) 医局	- 17 -
(2) 内科	- 19 -
(3) 神経内科	- 21 -
(4) 外科	- 22 -
(5) 整形外科	- 25 -
(6) 産婦人科	- 26 -
(7) 眼科	- 28 -
(8) 小児科	- 30 -
(9) 耳鼻いんこう科	- 32 -
(10) リハビリテーション科	- 33 -
(11) 麻酔科	- 37 -
(12) 脳神経外科	- 38 -
(13) 泌尿器科	- 39 -
(14) 皮膚科	- 40 -
(15) 放射線科	- 41 -
(16) 病理検査科	- 44 -

(17) 地域医療科.....	- 46 -
(18) 研修医.....	- 57 -
2 看護科.....	- 58 -
(1) 看護科.....	- 58 -
(2) 2階病棟.....	- 61 -
(3) 3階病棟.....	- 64 -
(4) 4階病棟.....	- 67 -
(5) 外来.....	- 70 -
(6) 手術室・中央材料室.....	- 73 -
(7) 教育担当.....	- 75 -
3 薬局.....	- 87 -
4 給食.....	- 89 -
5 事務局.....	- 91 -
III 委員会の状況.....	- 93 -
1 三浦市立病院リスクマネジメント委員会.....	- 93 -
2 三浦市立病院感染対策委員会 (ICC).....	- 98 -
3 三浦市立病院褥瘡対策委員会.....	- 107 -
4 三浦市立病院接遇向上委員会.....	- 113 -
5 三浦市立病院 NST 委員会.....	- 116 -
6 三浦市立病院CS向上委員会.....	- 120 -
7 三浦市立病院糖尿病疾病管理委員会.....	- 123 -
8 三浦市立病院薬事委員会.....	- 126 -
9 三浦市立病院情報処理委員会.....	- 128 -
IV 経営状況.....	- 132 -
1 決算概要.....	- 132 -
(1) 経常収益比較.....	- 132 -
(2) 損益計算書.....	- 133 -
2 三浦市立病院改革プラン及び実施状況.....	- 136 -
V 各種統計資料.....	- 141 -
1 入院患者数実績.....	- 141 -
2 外来患者数実績.....	- 142 -
3 救急患者数実績.....	- 143 -
VI スタッフ一覧.....	- 145 -
VII 編集後記.....	- 148 -

I 病院の概況

1 位置



※神奈川県ホームページ及びわが街がっくより画像転載

本市は、首都 60km 圏内にあたる三浦半島の最南端に位置し、三方を海に囲まれて気候温暖、農耕に適している。海岸線は 42.9km に及び、漁業のみならず、海洋レクリエーションなども盛んである。城ヶ島を天然護岸とし、昔から遠洋、近海及び沿岸漁業の基地として発展した全国的に有名な三崎漁港を有している。

市域面積	東西	南北	東経	北緯
32.16 k m ²	6.8 k m	9.4 k m	139° 37' 24"	35° 08' 27"

2 沿革

昭和 26 年	三崎町町議会にて、三崎町立国民健康保険病院の開設を議決する
昭和 26 年 12 月	初代院長 継 茂 就任
昭和 27 年 1 月	旧三崎町立伝染病院「南岬院」の建物を診療管理棟に増改築 病棟（30 床）新築工事着工
昭和 27 年 6 月	『三崎町国民健康保険直営病院』開設 内科・外科・産婦人科・眼科 4 科
昭和 28 年 2 月	第 2 病棟（28 床）看護婦宿舎（15 人）医師住宅（5 戸）新築工事 着工
昭和 30 年 1 月	『三浦市国民健康保険直営病院』と改称
昭和 32 年 2 月	第 3 病棟（35 床）伝染病棟（27 床）医師住宅（3 戸）新築第 1・第 2 病棟、看護婦宿舎増改築工事着工
昭和 32 年 10 月	小児科新設 5 科
昭和 38 年 5 月	基準寝具制度の実施
昭和 38 年 9 月	整形外科新設 6 科
昭和 39 年 4 月	『国民健康保険三浦市立病院』と改称
昭和 39 年 10 月	診療管理棟（鉄筋コンクリート地下 1 階、地上 3 階）新築工事着工
昭和 40 年 8 月	診療管理棟完成（完成後の病床数 一般 65 床、結核 18 床、伝染病 27 床、計 110 床）
昭和 41 年 6 月	国民健康保険三浦市立病院運営委員会設置
昭和 42 年 4 月	『三浦市立病院』と改称 地方公営企業法の財務規程を適用
昭和 42 年 9 月 1 日	未熟児指定養育医療機関となる
昭和 43 年 10 月	第 2 次整備事業として、病棟（地下 1 階、地上 3 階 150 床）伝染病 隔離病舎（27 床）看護婦宿舎（32 人）医師住宅 3 棟（10 戸）新築 工事着工
昭和 44 年 10 月	病棟・伝染病隔離病舎完成（完成後の病床数 一般 136 床、結核 14 床、伝染病 27 床、計 177 床）
昭和 45 年 3 月	看護婦宿舎、医師住宅完成
昭和 47 年 3 月	初代院長 継 茂 退職
昭和 47 年 4 月	初代院長 継 茂 名誉院長に就任 2 代院長 丸山 理一 就任
昭和 47 年 6 月	病院開設 20 周年記念行事実施
昭和 49 年	石油ショックによる人件費・材料費高騰、医療費改定の幅が小さく、 赤字増大する

昭和 50 年 6 月 20 日	三浦市救急医療体制「三浦方式」が発足し、当番制実施
昭和 54 年	病院事業経営健全化開始（5 か年継続事業） 不良債務 3 億 7, 1 5 0 万円の解消をはかる
昭和 55 年 7 月 29 日	救急指定病院 認可される
昭和 55 年 12 月 1 日	基準看護特 2 類 承認される（保険第 3062 号）
昭和 56 年 4 月 1 日	耳鼻いんこう科新設 7 科
昭和 56 年 5 月 1 日	総合病院の認可（神奈川県指令医整第 70 号）
昭和 57 年 4 月 1 日	三浦半島広域病院群輪番制開始
昭和 57 年 6 月	開設 3 0 周年となる
昭和 59 年 3 月	病院事業経営健全化終了（5 か年継続事業）
昭和 59 年 9 月 3 日	病院売店オープン
昭和 60 年 9 月	全身用 C. T. 設置される
昭和 62 年 3 月 31 日	名誉院長 継 茂 退任
昭和 62 年 7 月 1 日	三浦市立病院運営審議会設置
昭和 62 年 10 月 19 日	三浦市立病院運営審議会へ諮問「三浦市立病院の将来のあり方について」
昭和 63 年 3 月 31 日	2 代院長 丸山 理一 退任
昭和 63 年 4 月 1 日	3 代院長 五十嵐 捷介 就任
昭和 63 年 7 月	病棟に冷暖房機器整備される。
平成元年 3 月 29 日	三浦市立病院運営審議会より「三浦市立病院の将来のあり方について」中間のまとめが報告される
平成元年 4 月 1 日	坂本理事就任
平成元年 11 月 17 日	病院の経営診断を実施し、経営診断等結果報告書及び経営改善事業計画策定に関する報告書が完了
平成 2 年 1 月 8 日	院内に病院改善推進委員会を設置
平成 2 年 2 月 23 日	三浦市立病院運営審議会より「三浦市立病院の将来のあり方について」答申される
平成 2 年 4 月 1 日	二次診療までを主体に救急 2 4 時間 3 6 5 日応需体制を開始する
平成 2 年 5 月 25 日	三浦市立病院運営審議会へ再諮問 「三浦市立病院の経営改善の進行について意見を伺う」
平成 3 年 8 月 19 日	三浦市立病院運営審議会より、「三浦市立病院の経営改善の進行について意見を伺う」中間のまとめが報告される
平成 4 年 2 月 29 日	病院の再整備計画を実施し、三浦市立病院再整備計画策定業務に関する報告書が完了
平成 4 年 3 月 31 日	看護婦宿舎 1 棟（6 戸）完成
平成 5 年 3 月 31 日	三浦市立病院運営審議会より、「三浦市立病院の経営改善の進行に

	ついて意見を伺う」答申される
平成 5 年 12 月 2 日	三浦市立病院運営審議会へ諮問 1. 新病院建設までの間における、当面の現施設のリニューアル及び効率的な病院運営について意見を伺う 2. 新病院建設に向けてのプロセスについて意見を伺う（保健・福祉との連携、新病院建設場所の選定も含む） 3. 日常の病院経営・病院運営について審議会より常時建議して頂く
平成 7 年 3 月 10 日	付属棟完成
平成 7 年 3 月 23 日	坂本理事退職
平成 7 年 7 月 21 日	小児科外来を診療管理棟 3 階旧会議室に移転
平成 7 年 8 月 25 日	診療管理棟 2 階旧小児科に内科救急診療室及び内視鏡室新設
平成 7 年 11 月 29 日	三浦市立病院運営審議会より、平成 5 年 1 2 月 2 日付諮問に対する中間のまとめが報告される
平成 8 年 3 月 6 日	病院敷地内に三浦藤沢信用金庫現金自動設備及び附帯施設の整備
平成 8 年 4 月 1 日	神経内科新設 8 科
平成 8 年 12 月 2 日	病院へ京浜急行バスの運行
平成 8 年 12 月 5 日	C T 更新
平成 9 年 3 月 31 日	3 代院長 五十嵐 捷介 退任
平成 9 年 4 月 1 日	4 代院長 佐藤 實 就任
平成 9 年 4 月	整形外科・午後予約診療開始
平成 9 年 6 月	内科外来・膠原病の午後外来開始
平成 9 年 7 月	救急 2 4 時間 3 6 5 日応需体制の一部委託化（預り金制度廃止）
平成 9 年 9 月	薬局薬袋氏名のラベル化導入
平成 9 年 12 月	会計処理のシステム化（ポスシステム導入）
平成 10 年 2 月 10 日	三浦市立病院運営審議会より、「新病院建設に向けてのプロセスについて意見を伺う」答申される
平成 10 年 3 月	適時適温給食の開始
平成 10 年 3 月 31 日	4 代院長 佐藤 實 退任
平成 10 年 4 月 1 日	5 代院長 大塚 尚之 就任
平成 10 年 6 月 1 日	新看護 2. 5 : 1 (A) 看補 6 : 1 採用
平成 10 年 8 月 14 日	耐震診断調査委託実施
平成 10 年 10 月 23 日	病院建替えに係る基本調査委託実施
平成 11 年 2 月 1 日	新看護 2 : 1 (A) 採用
平成 11 年 6 月	消化器、肝臓病の午後外来診療開始
平成 11 年 8 月	ペースメーカー移植術
平成 11 年 12 月	内科外来予約診療開始

平成 12 年 3 月	三浦市立病院基本計画策定
平成 12 年 4 月	医療相談室設置
平成 12 年 5 月	検体・検査管理加算（1）認可（検1）第86号
平成 12 年 7 月	SPD（診療材料）システム導入
平成 12 年 11 月	インフルエンザ予防接種出張接種（施設）
平成 13 年 3 月	院外処方箋発行へ移行（全科）
平成 13 年 5 月	内科に第5診療室を設置
平成 14 年 3 月	第1病棟休止
平成 14 年 5 月	ウィン号マイクロ無料送迎バスの運行開始
平成 14 年 7 月	人間ドック無料送迎サービスの運行開始
平成 14 年 9 月	新病院（地下1階、地上4階）新築工事着工
平成 15 年 3 月 31 日	5代院長 大塚 尚之 退任
平成 15 年 4 月 1 日	6代院長 五十嵐 俊久 就任
平成 15 年 5 月	小児救急試行開始
平成 16 年 3 月 17 日	新病院開院（免震構造、病床数 136 床） オーダーリング・システム導入
平成 16 年 4 月 1 日	リハビリテーション科新設 9 科
平成 16 年 8 月 16 日	運営懇話会 発足
平成 16 年 9 月 30 日	新病院完成（地上4階地下1階、免震構造、病床数 136 床、駐車場 約 170 台分）
平成 17 年 2 月 22 日	ドクターヘリ・シミュレーション実施
平成 17 年 4 月 1 日	麻酔科新設 10 科
平成 17 年 8 月 25 日	経営懇話会 発足
平成 19 年 3 月 31 日	6代院長 五十嵐 俊久 退任
平成 19 年 4 月 1 日	7代院長 小澤 幸弘 就任
平成 20 年 4 月 1 日	病院給食業務の民間委託開始
平成 20 年 10 月 1 日	脳神経外科新設 11 科
平成 21 年 3 月	三浦市立病院改革プラン策定
平成 21 年 3 月 1 日	SPD システム業務委託開始
平成 22 年 4 月 1 日	地方公営企業法全部適用 総病院長（病院事業管理者） 小澤 幸弘 就任
平成 22 年 4 月	地域医療科設置
平成 22 年 5 月	訪問診療開始
平成 23 年 7 月	皮膚科新設 12 科
平成 23 年 7 月	泌尿器科新設 13 科
平成 24 年 1 月	来院者駐車場用地の貸付開始

平成 25 年 9 月	介護保険指定居宅サービス事業者及び指定介護予防サービス事業者 の指定 訪問リハビリテーション開始
平成 25 年 10 月	入院患者対象土曜リハビリテーション開始
平成 25 年 10 月 1 日	16 列型マルチスライス CT へ更新
平成 26 年 1 月 13 日	電子カルテシステム導入
平成 26 年 3 月 15 日	「在宅看取りを考える」シンポジウム開催

3 施設の概要

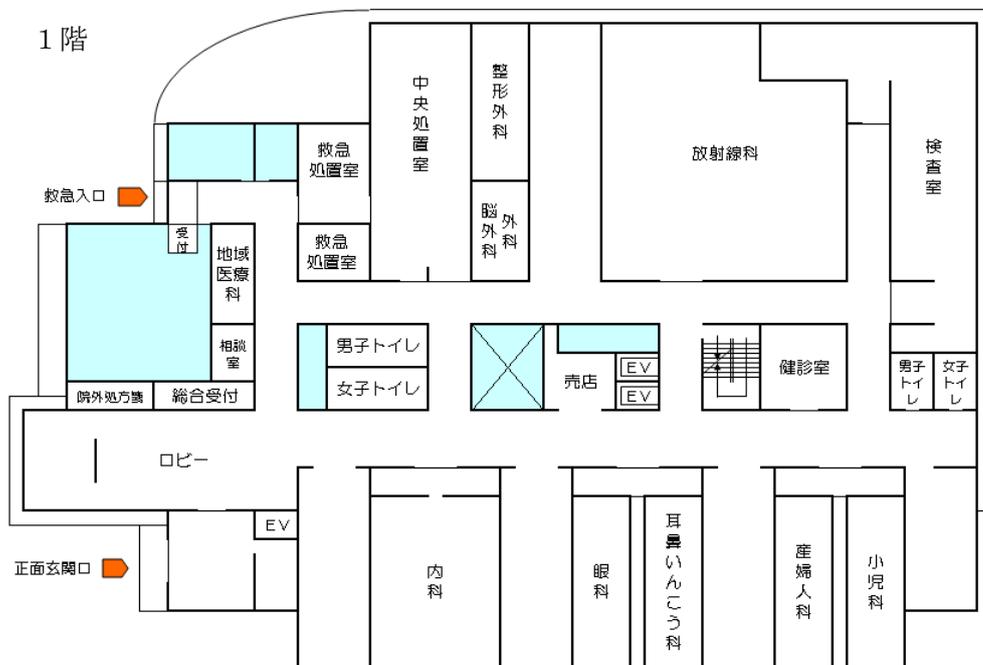
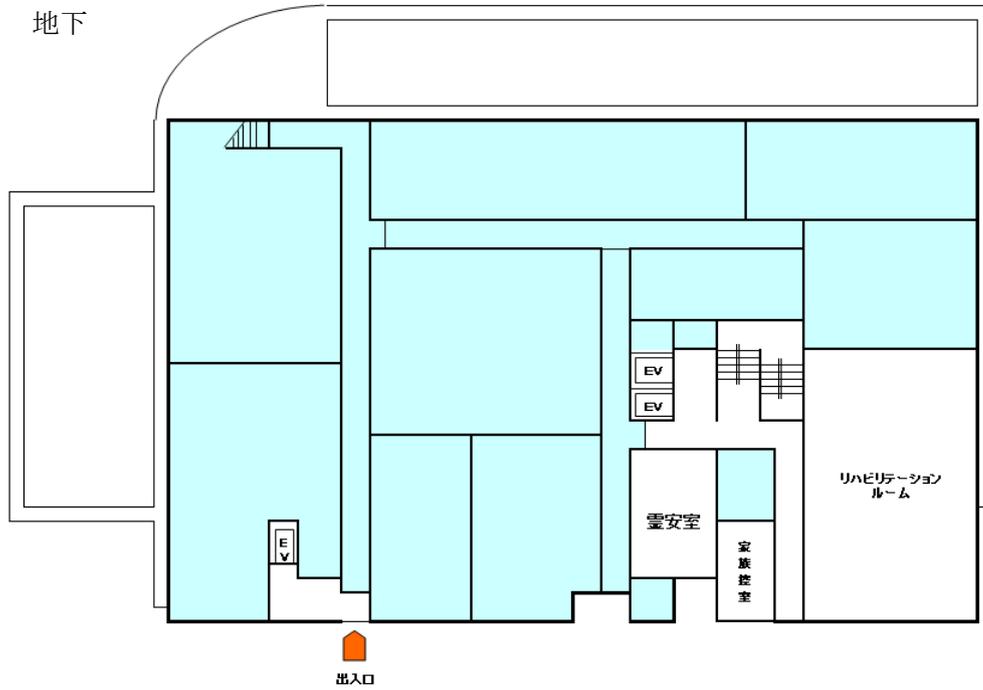
(1) 土地・建物

<土地>	13,756.53 m ²
<建物>	3,080.96 m ²
病院（地下1階、地上4階、免震構造）	2,870.32 m ²
キャノピー(1)	92.89 m ²
キャノピー(2)	12.98 m ²
ブロー室（地上1階）	15.91 m ²
マニホールド室（地上1階、空気機械室）	18.80 m ²
附属棟（地上2階、作業室、図書室）	70.06 m ²

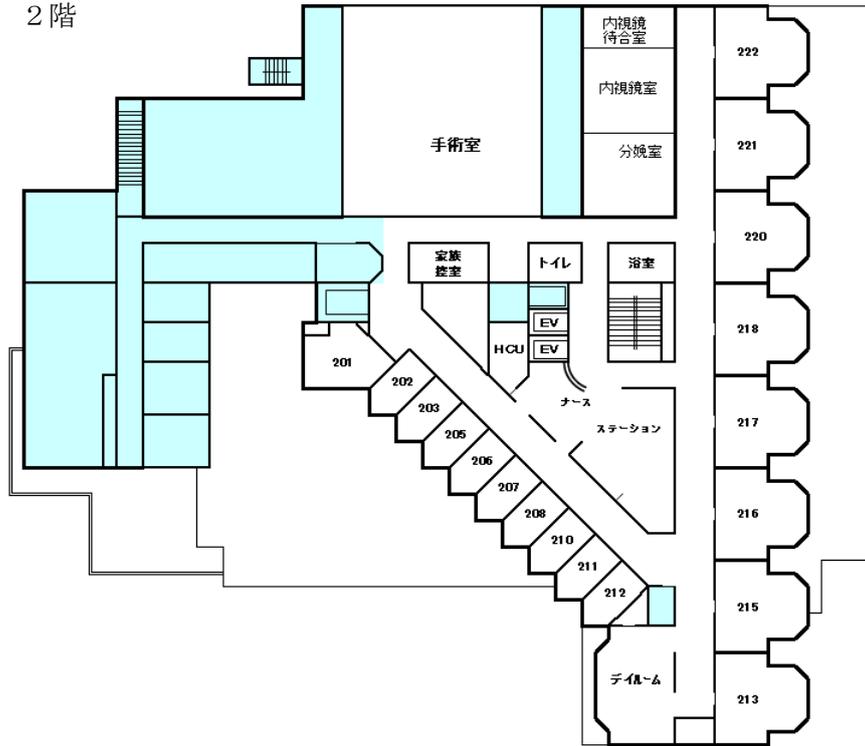
(2) 設備

<電気設備>	845KW 受電、負荷容量 2,000KVA
<蓄電池設備>	10 分間蓄電池
<無停電設備>	瞬断バックアップ方式（手術室、HCU、乳児室）
<弱電設備>	インターホン、ナースコール、ITV 設備、TV 共聴設備電気時計設備、院内 LAN
<電話設備>	蓄積プログラム方式、一般内線 162 台、院内 PHS72 台、ナースコール対応 PHS12 台
<自家用発電機>	自動始動発電機、開放保護形自己通風三相交流発電機 500 KVA ガスタービン発動機、単純開放サイクル軸式、自己空冷式、灯油、燃料、燃料オイルタンク 30,000ℓ
<消火設備>	消火器設備 10 型 40 箇所、20 型 6 箇所、スプリンクラー設備、特殊消火設備電気室、発電機室、ボイラー室
<医療ガス設備>	酸素、笑気、窒素、圧縮空気、吸引、余剰ガス排出
<昇降機設備>	5 基（寝台用 3 基、乗用 1 基、配膳・荷物用 1 基）
<給水設備>	上水入水槽 55 m ³ 、雑用水入水槽 144 m ³ 、緊急用浄水ろ過装置
<自動火災報知設備>	自動火災報知設備、防火扉閉鎖設備、ガス漏れ警報設備
<空気調和設備>	冷暖房、水熱源ヒートポンプシステム（補助熱源貫流ボイラー） ファンコイルユニット 188 基、パッケージ方式 55 基
<消毒設備>	オートクレーブ 2 基、簡易滅菌装置 3 基
<給排水衛生設備>	給水設備、給湯設備、浄化槽設備
<免震設備>	南関東地震対応、国土交通大臣認定 鋼材型ダンパー 3 基・鉛ダンパー 6 基・オイルダンパー 12 基

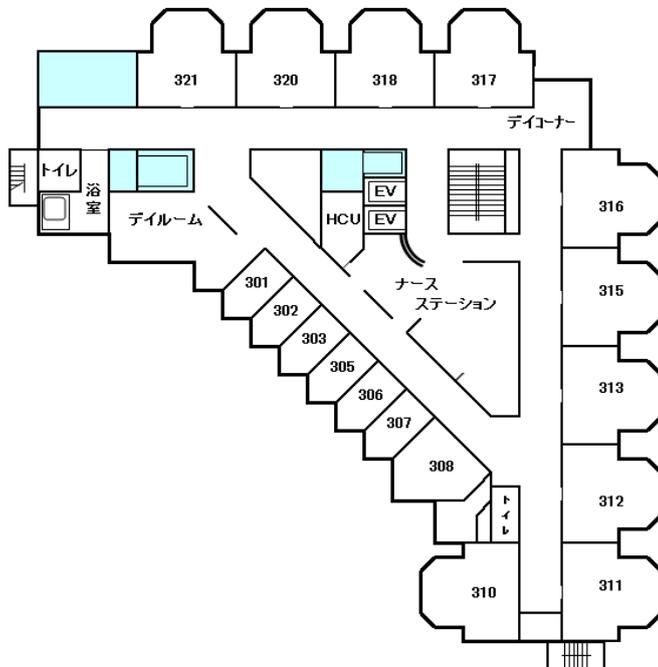
4 配置図



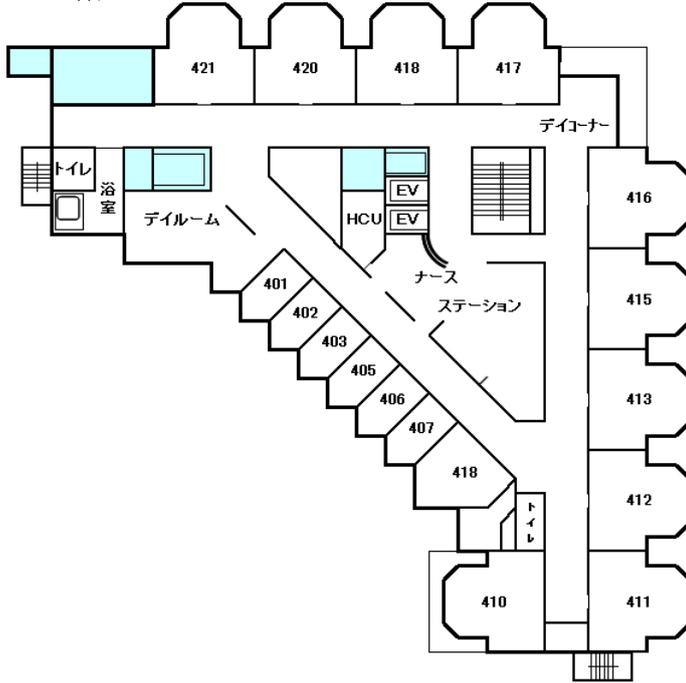
2階



3階



4階



5 現況

施設名	三浦市立病院
開設者	三浦市長 吉田 英男
管理者	総病院長 小澤 幸弘
所在地	神奈川県三浦市岬陽町4番33号
開設年月日	昭和27年6月4日
診療科目	13科（内科、神経内科、外科、整形外科、産婦人科、眼科、小児科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、麻酔科、脳神経外科、泌尿器科、皮膚科）
病床数	一般病床136床
地方公営企業法全部適用	平成22年4月1日
敷地面積	13,756.53㎡
建物面積	建築面積 3,080.96㎡ 延べ床面積 9,349.56㎡（附属棟 136.08㎡含む）
指定等	保険医療機関、生活保護法指定医療機関、結核予防法指定、労災指定、船員保険法指定、救急告示病院、身体障害者福祉法指定医、母体保護法指定医等

6 施設基準

(1) 基本診療科

一般病棟入院基本料 10対1
急性期看護補助体制加算 50対1
一般病棟看護必要度評価加算2
救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算
診療録管理体制加算
医師事務作業補助体制加算
療養環境加算
退院調整加算
亜急性期入院管理料
データ提出加算
感染防止対策加算(1)
感染防止対策地域連携加算
救急搬送患者地域連携紹介加算
救急搬送患者地域連携受入加算
患者サポート体制充実加算
医療安全対策加算1
地域加算6級地

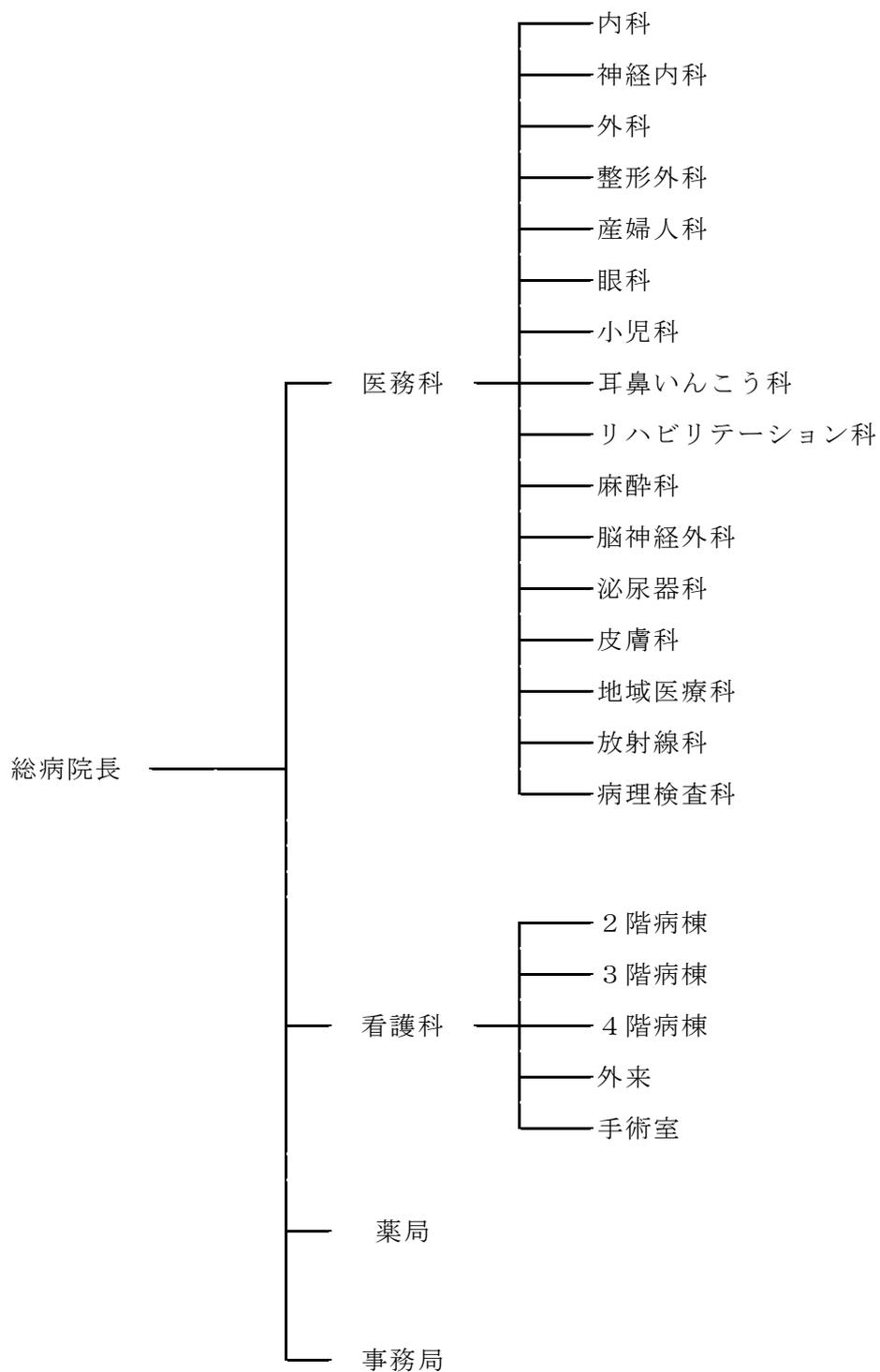
(2) 特掲診療科

がん性疼痛緩和指導管理料
肝炎インターフェロン治療計画料
薬剤管理指導料
HPV核酸同定検査
検体検査管理体制加算(II)
検体検査管理体制加算(III)
無菌製剤処理料
運動器リハビリテーション料(I)
脳血管疾患等リハビリテーション料(I)
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6に掲げる手術
輸血管理料及び輸血適正使用加算
在宅療養支援病院(「第14の2」の1の(1)に規定する在宅療養支援病院〔機能強化〕)

在宅時医学総合管理料及び特定施設入居時等医学総合管理料
在宅がん医療総合診療料
病院勤務医の負担の軽減及び処遇の改善に対する体制
遠隔画像診断による写真診断（送信側）
コンタクトレンズ検査料（Ⅰ）
糖尿病合併症管理料
がん患者カウンセリング料
外来リハビリテーション診療料
夜間休日救急搬送医学管理料
喘息治療管理料
糖尿病透析予防指導管理料
院内トリアージ実施料

7 組織及び職員配置状況

(1) 組織図



(2) 職員の状況

(単位：人)

職名	平成24年3月31日 現在職員数	平成25年3月31日 現在職員数	平成26年3月31日 現在職員数
管理者	1	1	1
医師	14	14	14
看護師 准看護師	(2) 76	(1) 75	(1) 79
医療技術員	15	19	29
事務員	8	7	10
その他	(1) 0	(1) 0	(1) 0
計	(2) 114	(2) 116	(2) 133

() は、外書きで、再任用短時間勤務職員

Ⅱ 各科の活動状況

平成26年度より組織の名称が変更となっているが、平成25年度の年報のため旧組織名称で記述する。

1 医務科

(1) 医局



診療部長 木谷 勇一

○活動状況

(1) 平成25年度のトピックス

ア 平成25年5月新たな医局会要領の作成に伴い、副医局長に大庭先生（産婦人科）が任命される。

イ 平成26年1月電子カルテ導入となる。

ウ 平成26年1、2月降雪のため休日非常勤医が来院できないことがあり、平成25年度は当直できる医師が少なくなった1年であった。

(2) 業務実績

区分	H20	H21	H22	H23	H24	H25
内科	橋本 治光	橋本 治光	齊藤 真	齊藤 真	齊藤 真	齊藤 真
	石川 純也	齊藤 真	来田 亮二	来田 亮二	来田 亮二	来田 亮二
	大野善太郎	来田 亮二	兒玉 康史	兒玉 康史	兒玉 康史	兒玉 康史
			堀内 俊治	堀内 俊治	堀内 俊治	堀内 俊治
				森 琢磨	森 琢磨	森 琢磨
(地域医療科)			兒玉 末	兒玉 末	兒玉 末	兒玉 末
外科	木谷 勇一	木谷 勇一	木谷 勇一	木谷 勇一	木谷 勇一	木谷 勇一
	鈴木 誠	鈴木 誠	鈴木 誠	鈴木 誠	和田 博雄	和田 博雄
		和田 博雄	和田 博雄	和田 博雄	青山 徹	青山 徹
整形外科	吉田 成寿	吉田 成寿	内川 健	内川 健	内川 健	内川 健
			吉田 成寿	石田 良太	石田 良太	石田 良太
			石田 良太			
小児科	小澤 礼美	小澤 礼美	欠	欠	五味渕一三	五味渕一三
眼科	中里 悟(孫)	中里 悟	望月 至	望月 至	望月 至	望月 至
	勝木 剛		飯野 真理			
産婦人科	大庭 信彰	大庭 信彰	大庭 信彰	大庭 信彰	大庭 信彰	大庭 信彰
麻酔科	欠	欠	欠	欠	欠	欠

(2) 内科



医長 齊藤 真

○活動状況

(1) 平成25年度のトピックス

ア 外来診療

午前は新患及び予約のない再診外来と予約一般外来を行っている。午後の外来は主に専門医による専門外来を行っている。平成25年度は引き続き循環器外来、呼吸器外来、糖尿病外来及び健診結果外来を設け診療にあたった。

イ 入院患者の疾患分類

平成25年度の入院患者数は前年度に比べ減少した。当院の特徴として、入院患者の半数以上が高齢者であるため、肺炎の入院頻度が他の地域と比べて極端に多くなっている。

(2) 業務実績

ア 外来業務

(ア) 業務実績

平成25年度は平成24年度に比べ外来患者数が増加した。今後も専門外来に力を入れ、様々な疾患に対応していきたい。

(イ) 外来患者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H25	3,189	3,412	3,200	3,394	3,550	3,162	3,627	4,230	3,774	3,378	3,242	3,430	41,588
H24	3,173	3,360	3,113	3,371	3,590	2,944	3,725	3,518	3,462	3,686	3,325	3,341	40,608

イ 入院患者

(ア) 業務実績

平成25年度は平成24年度と比べ入院患者数が減少した。肺炎の入院頻度が他の地域と比べて極端に多いので、疾患分類に対応した診療をしていきたいと思う。

(イ) 入院患者

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H25	1,663	1,847	1,803	2,010	1,917	1,684	1,868	1,833	1,718	2,035	2,091	2,064	22,533
H24	1,738	2,054	2,098	2,101	1,825	1,778	1,821	2,099	1,888	1,866	1,840	1,861	22,969

(3) 神経内科



○活動状況

(1) 平成25年度のトピックス

神経内科外来は毎週月曜、火曜、木曜、金曜日の午後に横浜市立大学から医師が派遣され、パーキンソン病、脳血管疾患及び神経難病の患者の診療にあたっている。

(2) 業務実績

ア 外来業務

平成25年度の外来患者数は2,007人、平成24年度の外来患者数は1,955人、平成23年度は2,102人であった。

イ 外来患者数

(単位：人)

区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度
外来	2,102	1,955	2,007

(4) 外科



診療部長 木谷 勇一

○活動状況

(1) 平成25年度のトピックス

ア スタッフ

平成25年度外科スタッフは、前年度と変わらず木谷勇一、和田博雄、青山徹の3人体制で診療いたしました。

イ 診療範囲

消化器、呼吸器、乳腺・甲状腺等に限らず、体表・軟部組織、外傷等、年齢に制限なく診療することを目標と致しています。また、該当疾患の診断、手術・非手術を含めた治療及び併存疾患を含めた全身管理を研鑽する努力をいたしています。

また、抗癌剤等の後療法にも力を注いでいます。

(2) 業務実績

ア 年度別外科手術件数

(単位：件)

区分	術式	H23	H24	H25
甲状腺	甲状腺切除	0	0	0
	甲状腺切除＋頸部リンパ節廓清	0	0	0
	頸部リンパ節廓清	0	1	1
乳腺	Bt＋Ax	7	6	10
	Bp＋Ax	4	2	1
	Bp	1	1	2
	乳腺腫瘍生検	1	3	6
肺	開胸肺葉切除	0	0	0
	開胸肺部分切除	0	0	0
	開胸ブラ切除	0	0	0
	胸腔鏡下肺部分切除	0	0	0
	胸腔鏡下ブラ切除	1	1	1
食道	胸部食道切除術	2	0	2
	食道バイパス術	0	1	0
	アカラシア手術	0	0	0

区分	術式	H23	H24	H25
胸壁	胸壁腫瘍摘出術	0	1	0
胃	幽門側胃切除	12	12	6
	胃全摘術	4	6	1
	単開腹	0	0	0
	残胃全摘	0	1	1
	胃空腸吻合	1	0	0
	局所切除	0	0	0
十二指腸潰瘍穿孔	穿孔部閉鎖、大網被覆	1	0	0
肝癌	経皮ラジオ波焼灼術	0	0	0
	開腹ラジオ波焼灼術	0	1	0
	区域切除	1	0	0
	葉切除	0	0	0
胆管	総胆管切除	0	0	0
	肝管空腸吻合	0	0	1
	拡大胆摘	0	0	1
	腹腔鏡下胆嚢摘出術	6	6	5
	開腹胆嚢摘出術	2	3	3
	総胆管結石採石術	3	5	0
膵	幽門輪温存膵頭十二指腸切除術	0	1	0
	膵腫瘍切除	0	0	0
	膵壊死部切除	0	0	0
小腸	イレウス解除術	3	3	0
	小腸部分切除	4	0	1
	腸吻合・腸縫合	1	1	0
結腸	結腸切除	14	14	10
	腹腔鏡補助下結腸切除	0	0	0
	人工肛門造設	4	3	2
	人工肛門閉鎖	2	0	0
虫垂	虫垂切除	7	7	3
直腸	高位前方切除	3	1	1
	低位前方切除	3	1	0
	直腸切断術	0	0	5
	ハルトマン手術	0	1	1
	経肛門的切除	2	4	1
	G a n t - 三輪法	0	0	0
腹腔内腫瘍	腫瘍摘出	1	0	0
後腹膜腫瘍	単開腹	0	0	0
	腫瘍摘出	0	0	0
腸間膜腫瘍	腹腔鏡下腫瘍摘出術	0	0	0
ヘルニア（鼠径）	鼠径ヘルニア根治術	17	26	26
（大腿）	大腿ヘルニア根治術	2	3	1
（小児鼠径）	小児鼠径ヘルニア根治術	2	1	1
（臍）	臍根治術	0	1	0
（腹壁癒痕）	腹壁癒痕ヘルニア根治術	1	1	0
（閉鎖孔）	閉鎖孔ヘルニア根治術	2	1	1

区分	術式	H23	H24	H25
体表	植皮	0	2	0
	皮下埋め込み型CVポート設置	13	25	11
	リンパ節生検	3	1	1
	皮下腫瘍	5	3	3
その他	その他	2	1	1

イ 年度別外科インターベンション数

(単位：件)

区分	術式	H23	H24	H25
EMR	食道癌	0	1	0
	胃癌	6	8	8
	胃良性（胃癌の疑い）	0	2	0
	大腸癌	15	19	11
ステント	食道ステント	3	2	0
	十二指腸ステント	0	1	1
	胆道ステント	5	4	0
経皮経肝ドレナージ	P T C D	5	12	4
	P T G B D	0	1	1
	P T A D	1	2	0
血管造影	腹部血管造影	3	4	1
	T A C E	2	3	4
	経皮経肝門脈造影	0	0	0
	C Vカテ摘出	1	0	0
食道静脈瘤	食道静脈瘤E V L	0	0	1
	食道静脈瘤硬化療法	2	0	0
内視鏡的ブジー	G F バルーンブジー	3	0	4
	C Fバルーンブジー	1	2	1
その他内視鏡的治療	P E G	0	0	0
	G F止血術	0	0	4
	G F A P C止血術	2	3	0
	G Fエタノール注入	3	0	0
	G F異物除去	0	3	1
	C F異物除去	0	0	0
	S状結腸捻転解除	0	0	2
	E R C P / E S T	3	5	7

(5) 整形外科



科部長 内川 健

○活動状況

(1) 平成25年度のトピックス

三浦市立病院整形外科は医師2名にて外来診療、病棟業務、救急対応及び手術を行っています。私も石田医師も忙しい中、元気に日々仕事をさせていただいています。外来数、手術件数もプラトーに入ってきていますが、ひとつひとつのことを丁寧確実に誠意をもって診療にあたりたいと考えています。

また、リハビリテーションも優秀な理学療法士及び作業療法士が揃い熱心に仕事をしています。三浦市は高齢化率が高く、高齢者の転倒による骨折が多いのですが、手術後のリハビリはもちろん、転倒予防 骨粗鬆症予防としてのリハビリテーションの充実を平成25年度は目標の一つとして行ってきました。

平成25年度も大きな事故なく、無事に仕事をする事ができたのも病院の皆様のおかげと感謝しております。

(2) 業務実績

ア 手術実績

(単位：件)

部位	種別	合計
上肢骨折		27
下肢骨折	大腿骨近位部骨折	68
	その他	4
人工股関節		1
人工骨頭(股)		11
その他		25

イ 患者数実績

(単位：人)

区分	一日平均患者数	合計
外来患者数	121	29,725
入院患者数	30	11,043

(6) 産婦人科



科部長 大庭 信彰

○活動状況

(1) 平成25年度のトピックス

ア 子宮頸がん検診の報告形式

子宮頸部細胞診はこれまでのⅠ～Ⅴの5段階クラス分類(日母分類)からベセスダシステムに変更された。ベセスダシステムでがん検診を行う際の問題点は、結果表記が数字でなく記述的であるため一般の人にはわかりにくいことである。たとえば、“異常なし”は”NILM”と記され、主に軽度異形成が疑われる場合は”ASC-US”と記述される。後者の日本語訳は【意義不明な異型扁平上皮細胞】であり理解困難である。これらは医学上正確を期するための表記だが、一般の受診者にそのまま伝えると理解できず、そのことが無用な不安を招く結果となっている。最近、他の検診機関で検診を受けた人がベセスダ表記の結果報告を受け取り、意味不明のため心配して当院を受診するケースが目立つようになった。そのような受診者に対しては、当科では図を用いなるべくわかりやすく説明するように努力しており、その結果ほとんどの方に理解納得して頂いている。

イ 子宮頸癌予防ワクチンの積極的勧奨の中止

子宮頸がんの原因がパピローマウイルスと判明して以来、それに対するワクチンが待ち望まれていた。そしてようやく開発されたワクチンは世界各国で使用されるようになり、日本では2009年12月に発売、2013年4月より予防接種法に基づく定期接種となった。しかし接種してまもなく原因不明の疼痛、しびれ、痙攣など神経症状を訴える人が続出したため2013年6月に積極的勧奨は中止された。その原因について厚労省ワクチン副反応検討部会は「接種後の疼痛が心身の反応によって慢性化した可能性がある」との見解を示している。だが、最近増加した若年性の線維筋痛症の過半がこのワクチンの副反応によるものだったという調査もあり、心身の反応のみで説明できるか疑義が呈されている。現在厚労省から医療機関へは、接種を希望する人には疼痛・運動障害の報告があることなどを十分説明するように勧められているが、勧奨が中止されて以降、当科へのワクチン希望者は問い合わせも含めて一人もいない。

ワクチン接種が今後広まるかどうかは現状難しい情勢だが、しかし一方ワクチンを打たなくても子宮頸がんは死亡率を下げるができる性格のがんである。だが、そのためには検診を定期的きちんと受けて早期発見する必要がある。海外で子宮

頸がんの死亡率が改善している国が多いのは、その高い検診受診率にある。アメリカの85%を筆頭に、ドイツ79%、イギリス78%、デンマーク64%、オランダ64%と日本よりはるかに高い。日本の検診受診率は38%と低く、その結果日本人の子宮頸がんの死亡率はこの20年減少せずほぼ一定である。海外では高い検診受診率に加えてワクチン接種で子宮頸がんに対抗する努力をしているのに比較し、日本がこのまま有力な対策を講ぜず“低い受診率+ワクチン接種なし”の状況が続くと、世界に取り残される恐れがある。ワクチンと副反応の因果関係については今後も十分慎重に検討することは当然だが、ワクチンなしの状況でもがん死亡率を改善するために検診の受診率を上げるさまざまな努力もより一層行うべきだと望まれる。

ウ 婦人科休診 2か月半

婦人科常勤医の急病で平成25年11月後半から、翌年1月まで休診となった。常勤一人体制のためやむを得ず婦人科外来を閉じたが、通院中の方々など多方面にご迷惑をかけることとなった。

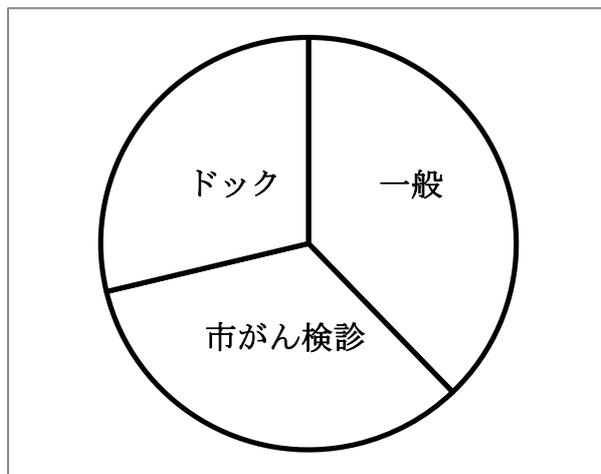
(2) 業務実績

ア 子宮がん検診業務

(ア) 業務実績

平成25年度の子宮がん検診受診者は702人であった。

(イ) 分類	人数	
一般	228人	そのうち体がん検査も受けた人=75%
市がん	255人	そのうち体がん検診も受けた人=68%
ドック	219人	そのうち体がん検診も受けた人=69%



(7) 眼科



医師 望月 至

○活動状況

(1) 平成25年度のトピックス

ア 外来診療

平成26年1月より、電子カルテが導入され、患者数の減少が懸念されたが、現在のところ、減少はしていない。今後電子カルテを生かした、更なる外来診療の質の向上、待ち時間の短縮が課題となっている。

イ 手術

白内障手術の水晶体乳化吸引装置が、平成25年4月、新規のものとなり、手術時の短縮、術中、術後合併症の発症減少につながっている。

(2) 業務実績

ア 外来業務

(ア) 外来患者数

外来患者数、入院件数はともに増加している。平成26年度はさらなる外来患者数を増加させ、待ち時間を減らす新たな案の熟考を要す。

(イ) 入院・外来患者数

(単位：人)

区分	平成24年度	平成25年度
外来	6,958	7,158
入院	27	61

イ 手術業務

(ア) 白内障手術件数

手術件数はやや増加している。理由とし最大手術件数を平成25年8月より週8件から14件に増加させたことが考えられる。今後、更に増加させる新たな案の熟考を要す。

(イ) 手術件数

(単位：件)

区分	平成24年度	平成25年度
白内障手術	315	379
その他の手術	6	2
合計	321	381

(8) 小児科



科部長 五味渕 一三

○活動状況

(1) 平成25年度のトピックス

ア 外来業務

平成25年度も引き続き、午前中は一般外来、午後は予約外来として、月曜日及び水曜日はぜんそく外来、火曜日及び木曜日は予防接種外来、第3木曜日は横浜市立大学病院附属病院小児科医による腎臓専門外来を行っている。また、行政機関の依頼による結核接触者健診並びに福島県外避難者県民健康管理調査も受託している。

イ 地域との連携

現在、常勤医1名であり、小児の入院受入れは行っていないため、周辺の医療施設との連携が必須となる。そこで、市内の医院からの患者紹介を受け、そこで入院適応のある場合には、横須賀市立市民病院、横須賀市立うわまち病院、神奈川県立こども医療センター、横浜市立大学付属病院などに紹介するようにしている。

(2) 業務実績

ア 院外活動

(ア) 業務実績

院外活動として、三浦市の児童虐待対策や乳児健診などにも携わっている。特に児童虐待対策については、神奈川県、三崎保健福祉事務所、三浦市の児童虐待対策会議に参加している。児童虐待対策は、早期発見が重要な社会的な課題であるため、今後は地域で児童虐待対策チームなどを立ち上げ、活動していく必要性を感じている。

(イ) 業務実績

近年は、医療の進歩などにより、慢性疾患の子どもたちが、思春期～成人期を迎えることも多くなったため、小児科から成人診療科への継続的な移行が必要である。そこで、どうすれば、患者が安心して、小児科から成人診療科へ移行できるのか？この疑問を解決する糸口として、木曜日午前中に、内科初診外来を担当して1年あまりになった。小児と成人では、診療への考えが異なるこ

とを経験し、現在は、小児から成人へと成長していく患者たちを継続して診療することに非常に役立っている。このような機会を与えてくれた病院と診療面で、大変お世話になっている内科医師をはじめ、関連のスタッフのみなさんに、この場を借りて深謝したい。

(9) 耳鼻いんこう科



○活動状況

(1) 平成25年度のトピックス

当院では、毎週月曜・火曜・水曜・木曜・金曜日午後に横浜市大、横須賀共済病院及び横浜栄共済病院の応援を得て、耳鼻いんこう科外来を実施している。

(2) 業務実績

ア 外来業務

外来患者数は、平成23年度は4,746人、平成24年度は5,632人、平成25年度の外来患者数は4,205人であった。平成23年度から平成24年度にかけて外来患者数は増加したが、平成25年度は外来患者数が減少した。今後も、患者様から信頼される診療をしていきたいと思う。

イ 外来患者数

(単位：人)

区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度
外来	4,746	5,632	4,205

(10) リハビリテーション科



技師長 清水 隆人

○活動状況

(1) 平成25年度のトピックス

ア スタッフの拡充

4月より理学療法士が7名、作業療法士が2名入職し15名体制となった。

イ 介護保険下訪問リハビリテーションの開始

9月より介護保険下の訪問リハビリテーションを開始した。

ウ 休日（土曜日）リハビリテーションの開始

10月より入院患者対象に土曜日のリハビリテーション(理学療法)の実施を開始した。土曜日1日の出勤スタッフは理学療法士4名より開始し、平成26年度現在も継続して実施中である。

(2) 業務実績

ア 実施患者数・単位数

(ア) 業務実績

入院の実施患者数は15,962件、実施単位数は29,516単位であった。(前年比 患者数1.72倍、単位数1.97倍)

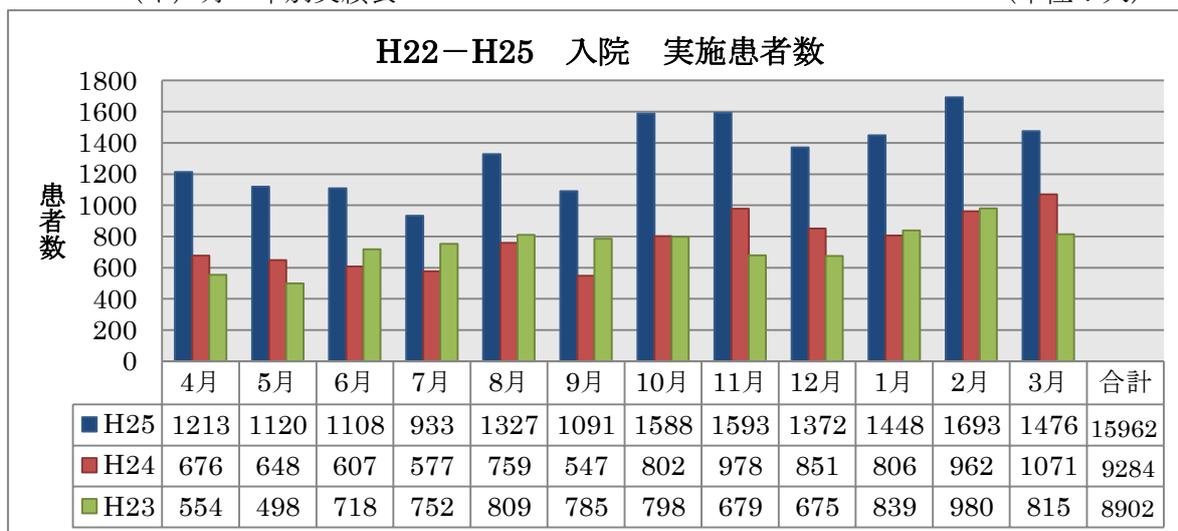
外来の実施患者数は7,321件、実施単位数は8,842単位であった。

(前年比 患者数1.71倍、単位数1.25倍)

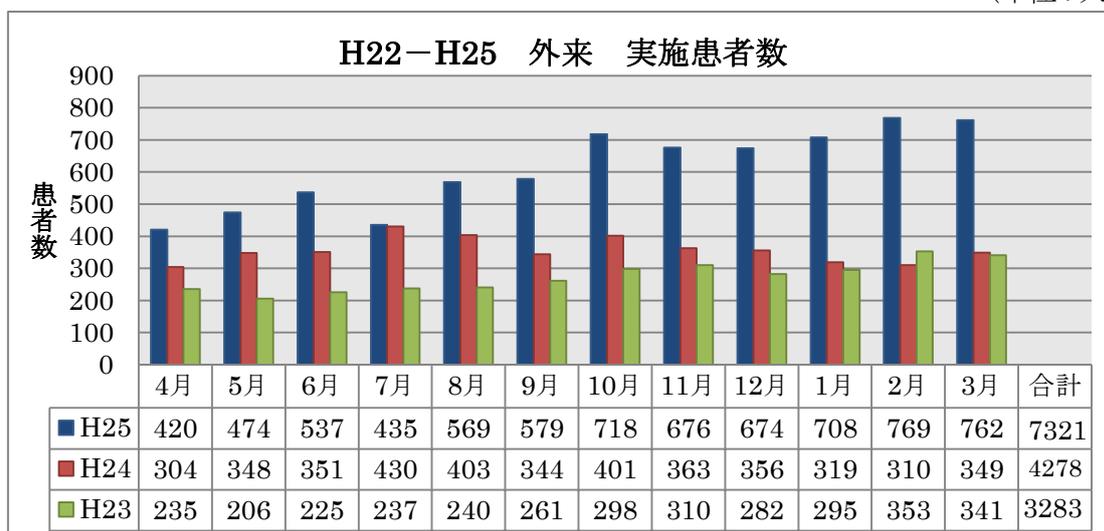
訪問リハビリテーションの実施患者数は医療保険下10件、介護保険下48件、実施単位数は医療保険下66単位、介護保険下312単位であった。

(イ) 月・年別実績表

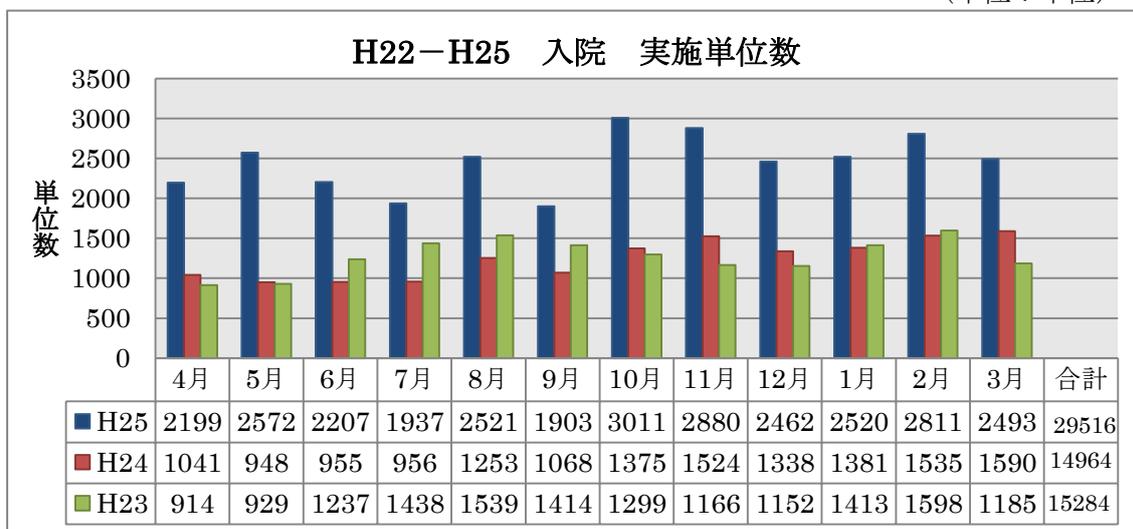
(単位：人)



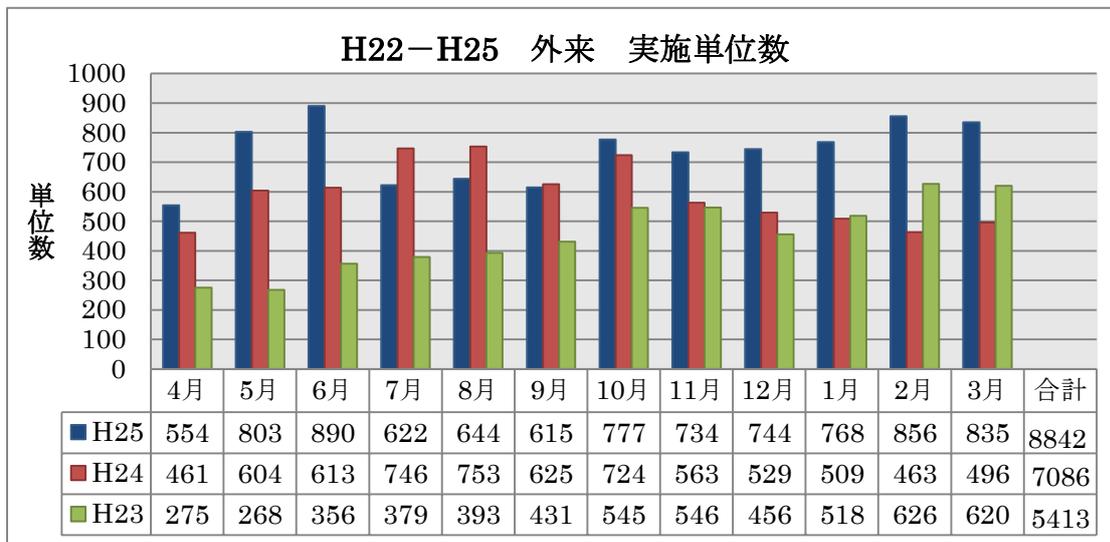
(単位：人)



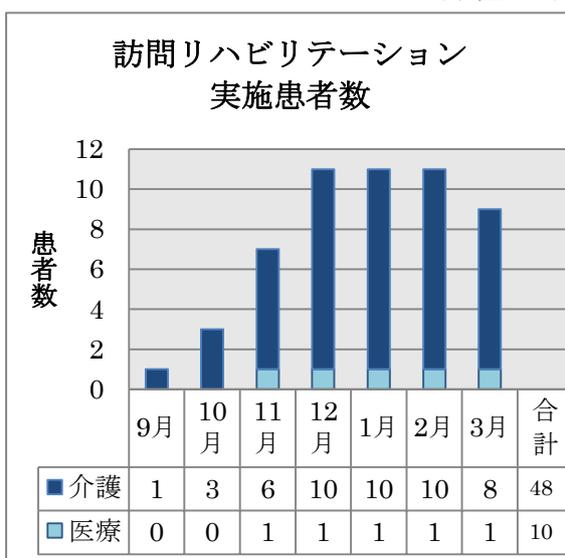
(単位：単位)



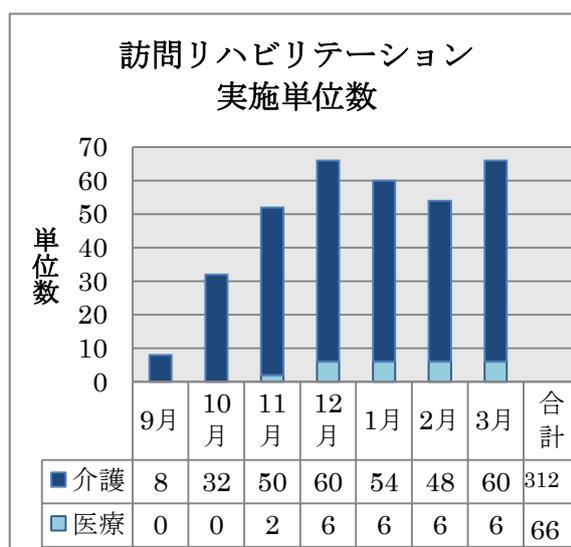
(単位：単位)



(単位：人)



(単位：単位)



※介護保険下訪問リハビリテーション開始した9月より記載

イ 実習生受入れ

	学校名	人数
4年次臨床実習	横浜リハビリテーション専門学校	2名
1年次見学実習		6名

ウ 公開講座

No	月 日	テーマ	参加者数
1	7月3日	移乗動作の介助方法について	19名
2	10月16日	転倒予防について	8名
3	2月26日	高次脳機能について	14名

エ 院外研修会

月 日	テーマ	参加者数
7月23日	市民対象 転倒予防教室	65名
10月30日	第7回 Brain Attack Network 施設紹介	

(11) 麻酔科



○活動状況

(1) 平成25年度のトピックス

当院では、毎週月曜・火曜・水曜・金曜日の午後に横須賀共済病院及び横浜南部病院の応援を得て、麻酔科を実施している。手術前の患者様に手術の説明から術中覚醒までの麻酔管理を行っている。

(2) 業務実績

ア 平成25年度麻酔実施状況

平成25年度は局所麻酔の件数が425件、全身麻酔が169件、全麻、硬麻は26件、腰椎麻酔が11件、硬膜外0件という実績であった。

イ 麻酔件数表

(単位：件)

区分	外科	整形 外科	眼科	内科	婦人科	その他	計
全麻・硬麻	26	0	0	0	0	0	26
全身麻酔	63	106	0	0	0	0	169
硬膜外	0	0	0	0	0	0	0
腰椎麻酔	1	10	0	0	0	0	11
伝達麻酔	0	0	0	0	0	0	0
局所麻酔	26	13	380	6	0	0	425
計	116	129	380	6	0	0	631

(12) 脳神経外科



○活動状況

(1) 平成25年度のトピックス

当院では、毎週水曜・金曜日の午後に、横須賀共済病院脳神経外科の応援を得て、脳神経外科外来を実施している。また脳ドックの読影についても実施している。

(2) 業務実績

ア 外来業務

外来患者数は平成23年度1,638人、平成24年度1,571人、平成25年度1,706人であった。平成23年度から平成24年度にかけては外来患者数が減少したが、平成24年度から平成25年度にかけては増加した。

イ 外来患者数

(単位：人)

区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度
外来	1,638	1,571	1,706

(13) 泌尿器科



○活動状況

(1) 平成25年度のトピックス

当院では、毎週月曜日・木曜日午後に、横須賀共済病院泌尿器科の応援を得て、泌尿器科外来を実施している。

(2) 業務実績

ア 外来業務

平成24年度の外来患者数は2,083人で、平成25年度の外来患者数は2,317人であった。

イ 外来患者数

(単位：人)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H25	202	217	188	191	178	177	219	176	198	191	178	202	2,317
H24	157	173	169	169	172	158	182	180	202	172	162	187	2,083

(14) 皮膚科



○活動状況

(1) 平成25年度のトピックス

毎週火曜日午後に横須賀共済病院の応援を得て、皮膚科外来を実施している。また、病棟における入院患者の皮膚疾患管理も担っている。

(2) 業務実績

ア 外来業務

平成24年度の外来患者数は1,575人で、平成25年度の外来患者数は1,898人であった。平成25年度は皮膚科外来が始まって3年目であり、外来患者数も増加した。今後も三浦市ならではの診療ができるようにしていきたいと思う。

イ 外来患者数

(単位：人)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H25	178	155	177	191	151	164	205	146	178	139	94	120	1,898
H24	130	152	151	172	113	139	140	117	111	103	119	126	1,573

(15) 放射線科



技師長 久保 隆

○活動状況

(1) 平成25年度のトピックス

(ア) CT装置が、マルチスライスCTへ更新される。

被ばく線量を少なく、広範囲を短時間で撮影可能になった。また、様々な角度からの観察や3D処理も可能となった。

(イ) 電カル化に伴う、フィルムレスへの移行

サーバー画像のデジタルデータをモニター診断するにより、各科診療ブースでの画像処理が可能となった。

(2) 業務実績

ア 一般撮影

(ア) マンモグラフィー検査は検診が減少。外来・入院患者数に比例し一般撮影全体では前年度比0.90倍。

(イ) 一般撮影実績

	外来患者数(人)	入院患者数(人)	総患者数(人)	総部位件数(件)
胸部	9,065	1,453	10,518	10,537
腹部	2,334	1,135	3,469	3,959
骨部・他	4,808	2,272	7,080	8,679
(体幹)	(2,314)	(1,883)	(4,197)	(5,371)
(四肢)	(2,498)	(385)	(2,883)	(3,305)
(ポータブル)	(669)	(2,384)	(3,053)	(3,228)
乳房	920	1	921	921
合計	17,127	4,861	21,988	24,096

イ X線TV検査

(ア) 血管・泌尿器造影検査数は前年度と変わらず。下腹部造影数は変わらないが、上腹部造影検査数は胃バリウム検査が胃リスク健診・胃カメラに移行し減少。CT・MRIへ移行した検査も有り、X線TV検査全体では前年度比0.91

倍と減少。

(イ) X線TV検査実績

	外来患者数(人)	入院患者数(人)	総患者数(人)	総部位件数(件)
心 血管	0	10	10	10
消化器	395	95	490	490
泌尿・生殖器	4	5	9	9
その他	43	93	136	136
合計	442	203	645	645

ウ X線CT検査

(ア) CT更新により、四肢検査は増加。総患者人数は変わらないものの広範囲の検査が可能になったため、総部位件数は減少。更新により検査不可能の期間もあり、CT検査全体では前年度比0.94倍。

(イ) X線CT検査実績

		外来患者数(人)	入院患者数(人)	総患者数(人)	総部位件数(件)
単純	頭部	1,303	138	1,441	1,450
	躯幹	1,073	550	1,623	1,663
	四肢	26	18	44	44
	小計	2,402	706	3,108	3,157
造影	頭部	2	0	2	2
	躯幹	420	110	530	541
	四肢	5	0	5	8
	小計	427	110	537	551
合計		2,829	816	3,645	3,708

エ MRI検査

(ア) 造影検査は増加したものの、脳ドック数は減少。MRI検査全体では、前年度比0.94倍。

(イ) MRI 検査実績

		外来患者数(人)	入院患者数(人)	総患者数(人)	総部位件数(件)
単純	頭部	1,053	78	1,131	1,133
	軀幹	394	257	651	700
	四肢	46	56	102	102
	小計	1,493	391	1,884	1,935
造影	頭部	15	5	20	20
	軀幹	29	0	29	29
	四肢	0	0	0	0
	小計	44	5	49	49
合計		1,537	396	1,933	1,984

(16) 病理検査科



技師長 鈴木 正芳

○活動状況

(1) 平成25年度のトピックス

ア 検体検査

(ア) 平成25年5月より尿 Alb、シスタチン C の検査が院内検査として導入される。

(イ) 平成25年7月よりフェリチンの検査が院内検査として導入される。

イ 生理機能検査

(ア) 平成26年1月より電子カルテが導入される。これによりペーパーレスの運用が始まる。

(イ) 平成26年1月より血圧脈波検査が導入される。

(2) 業務実績

ア 検体検査部門

区分	一般	血液	細菌	生化学	血清	輸血	外注	院内検査	合計
件数	30,518	56,345	1,645	81,670	20,870	1,784	14,790	192,832	207,622
点数	952,553	1,076,967	250,595	6,972,384	1,870,456	67,227	2,669,762	11,190,182	13,859,944

	H23 年度		H24 年度		H25 年度	
	件数	点数	件数	点数	件数	点数
院内検査	192,481	10,826,882	194,538	11,178,325	192,832	11,190,182
外注検査	16,832	3,123,436	16,534	3,013,798	14,790	2,669,762
合計	209,313	13,950,318	211,072	14,192,123	207,622	13,859,944

- ・過去2年と比べて院内検査数はほぼ横ばいとなっている。
- ・外注検査はフェリチンを院内検査で実施するようになったこと、産婦人科が一時期休診

していたことなどの影響を受け、件数が減少したと考えられる。

イ 生理機能検査部門

	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度
件数	14,445	13,688	15,287	15,575	16,438
点数	3,797,210	3,771,014	3,966,689	3,875,742	4,297,402

- ・今年度は糖尿病患者に対しての頸動脈エコー、腹部エコー及び心エコーを実施した。
- ・エコーに関しては検査件数も上向きに推移しているのでこの状態を維持したい。
- ・血圧脈波の検査は糖尿病の患者を検査する目的で導入された。しかし、検査件数が伸びなかったので来年度は動脈硬化を疑われる患者のスクリーニング調査として医師にも積極的に周知を図り、検査件数の増加を目指していきたい。

ウ 検査部門総評

- ・検査総収入は約2億388万円で、昨年に引き続き収益が前年度を上回る状態が続けられている。
- ・利益率は49%で、昨年と比べて横ばいの数値となった。
- ・超音波検査を糖尿病患者に実施したことにより検査件数が増加したが、糖尿病外来がない曜日はエコー枠にかなり余裕があったので、来年度は更に検査件数を伸ばせるよう医師に周知を図りたい。
- ・検体検査は検査件数が多いものは院内検査化しているので、検査結果を更に素早く各科に返せるように努力を続けていきたい。

(17) 地域医療科



科長 嘉山 静子

○活動状況

(1) 平成25年度のトピックス

診療報酬改定では入院医療について、一般病床を「高度急性期」から「一般急性期」と機能分化される方針となり、平均在院日数はさらに短縮され高度急性期からの受け皿としての役割は大きくなった。「時々入院、ほぼ在宅」と打ち出されたことから病院から施設・在宅への流れは加速化され、増加する高齢者、要介護者、独居、老老介護、身寄りなし、経済的困窮者など困難を抱える患者、さらに医療依存度の高い患者の支援が重要となってきた。

「医療相談室」から「地域医療科」と名称変更し4年目、退院支援・調整業務の増加、訪問診療の拡大されていく中、必要とされる支援に早期に介入し希望する退院場所に適正な入院期間で退院できるように調整を行った。

- ア 在宅医療
- イ 退院支援・調整
- ウ リンパ浮腫外来
- エ 転院相談・受入れ
- オ 紹介・逆紹介
- カ 「三浦ならでは」の高齢者医療・介護連携の確立のための調査研究

(2) 業務実績

ア 在宅医療

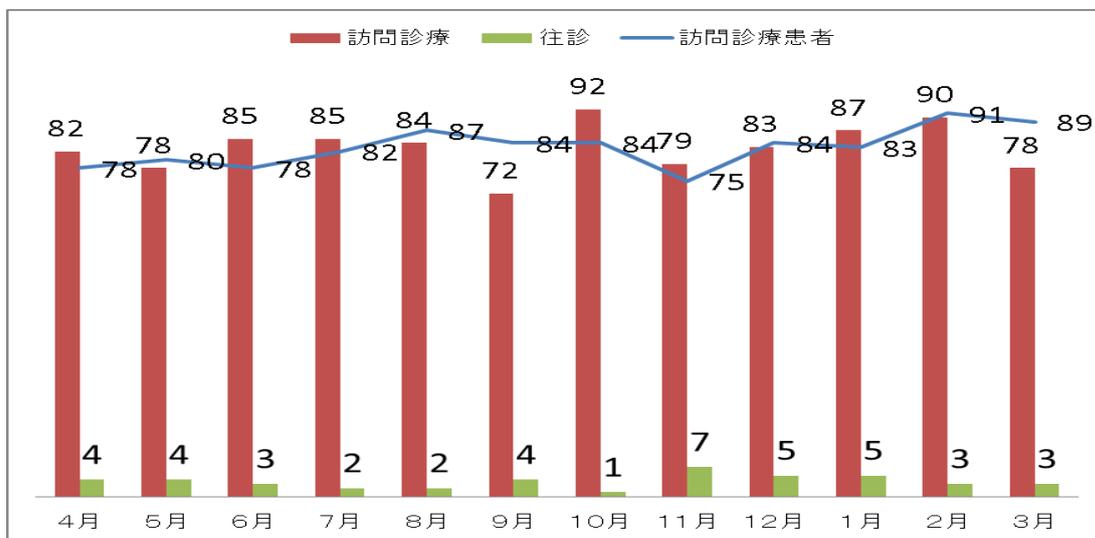
(ア) 訪問診療・訪問看護

訪問診療において「機能強化型在宅療養支援病院」となり、医師3名で対応している。約90～100名の患者を訪問診療で管理。月平均85名、訪問診療回数は995件・往診は43件実施した。訪問看護は2件で地域の訪問看護ステーションにつなげた。

在宅看取りは18件で、24年度より減少しているが、ターミナルの患者が少なかったのが要因と思われる。

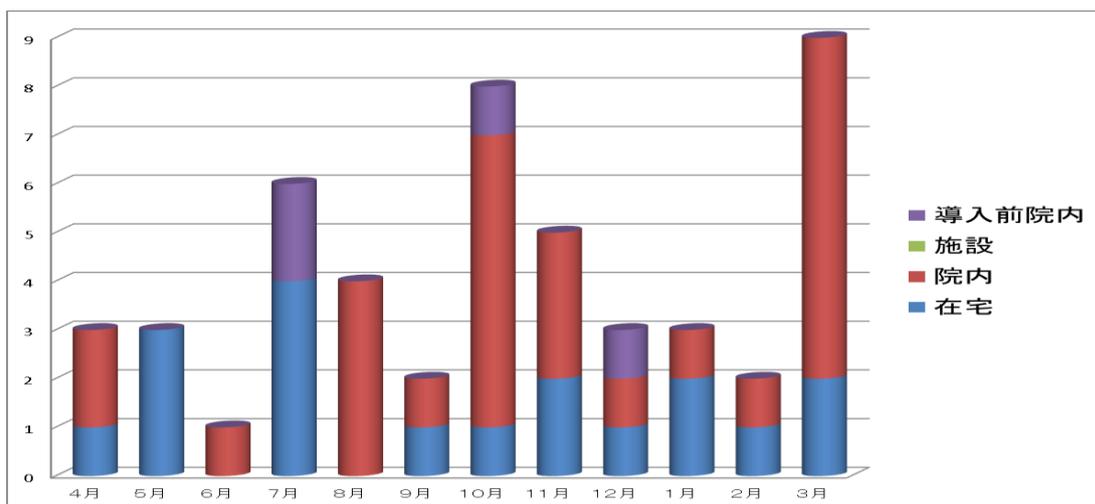
(イ) 訪問診療

(単位：件)



看取り内訳

(単位：件)

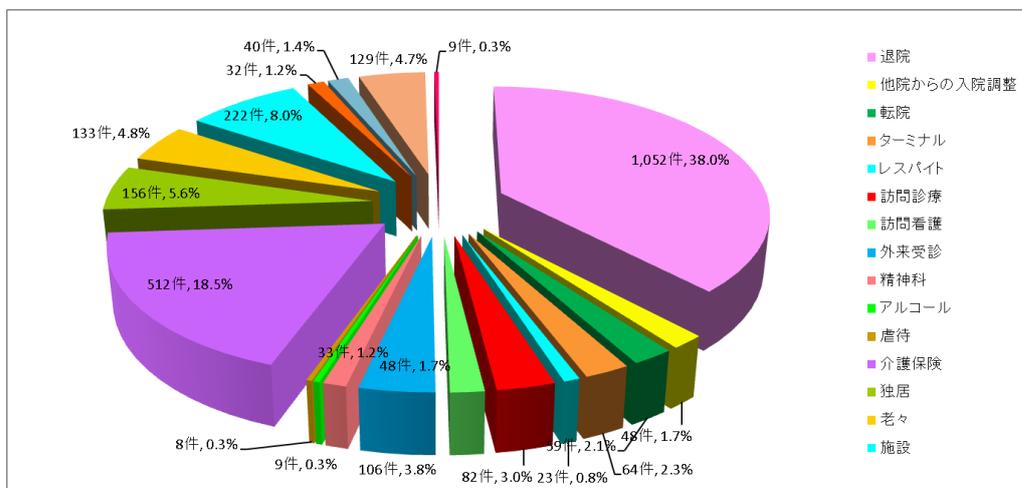


イ 退院支援・調整

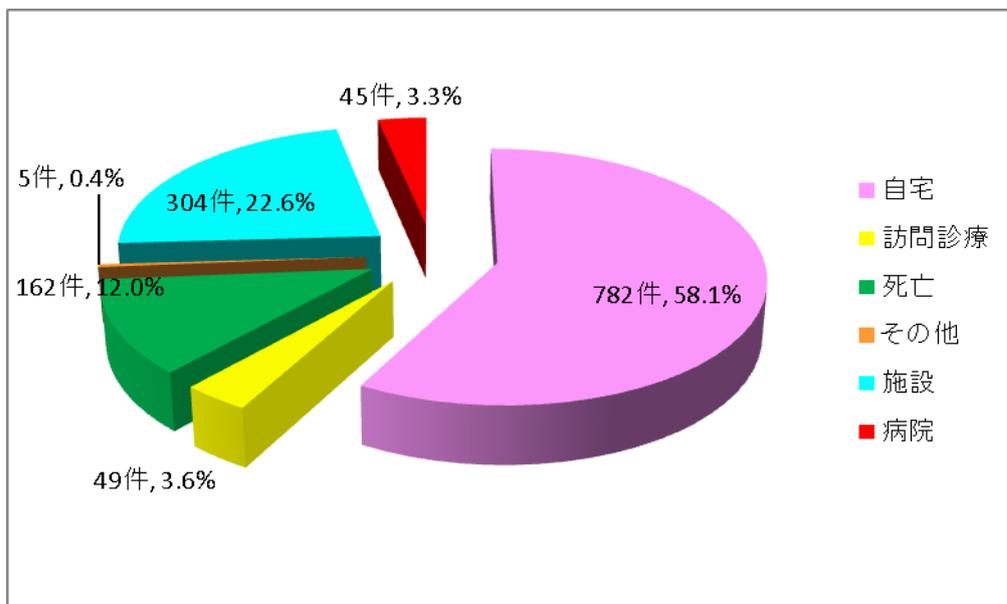
ベットコントロール看護師長から入院の連絡を受け、入院時よりADL、介護環境、介護保険状況の情報などを収集しスクリーニングを行い早期介入につなげた。介入の必要な患者には、本人・家族面談、退院前訪問、「ケア会議」を実施し病院と地域の橋渡しを行っている。

介入患者の退院先は半数以上が自宅となっており、自宅外のうち三浦市内の施設退院は67%で、33%は三浦市外の施設となっている。

(ア) 相談、介入状況



(イ) 介入患者顛末 (退院先)

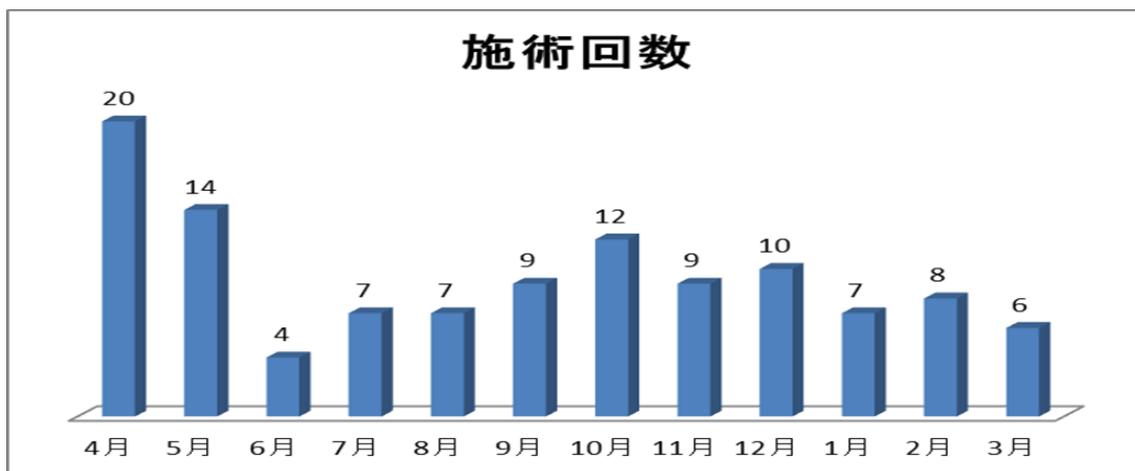


ウ リンパ浮腫外来

(単位: 件)

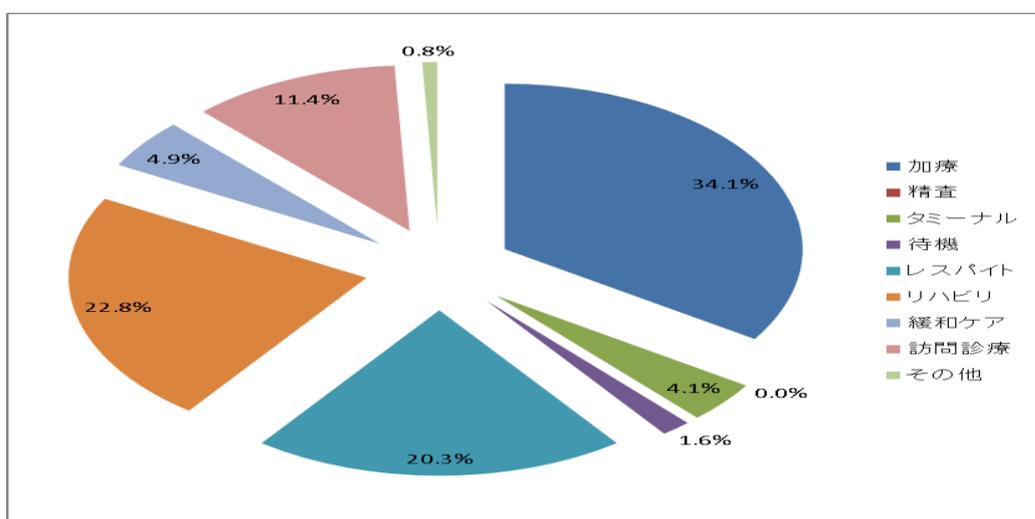
総患者数	総施術回数	施術回数			診療科			性別		部位						施術場所			終了顛末			
		一人あたりの年間平均	最多者	最少者	内科	外科	婦人科	男性	女性	右上肢	左上肢	両上肢	右下肢	左下肢	両下肢	顔面	外来	病棟	在宅	退院	着衣購入	死亡
13名	113回	8.69回	53回	1回	4	4	5	2	11	2	1	0	1	1	8	0	9	4	0	1	1	3

(単位：件)



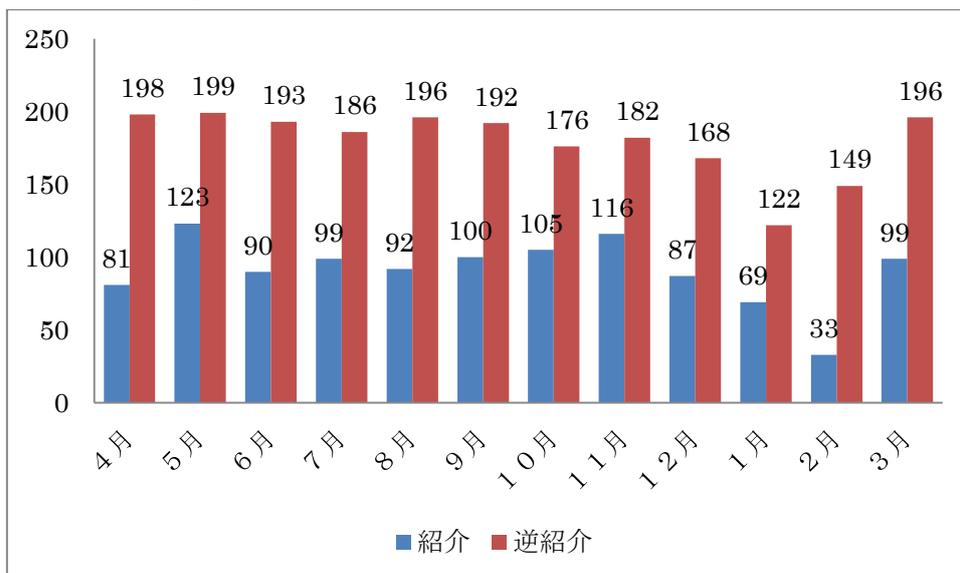
エ 転院相談・受入れ

(単位：件)



オ 紹介・逆紹介

(単位：件)



カ 「三浦ならでは」の高齢者医療・介護連携の確立のための調査研究

保険・医療・福祉の一体化を具現化した「三浦ならでは」の地域医療の確立を目指し、平成24年度は、市内診療所へのアンケート調査、特別養護老人ホーム利用者ご家族へのアンケート調査、特別養護老人ホーム管理者へのインタビュー調査及び訪問看護ステーションへのインタビュー調査を行い、その結果からみえてきた課題について考察し、「高齢者の医療と介護の連携にかかる提言・提案」を報告書にまとめた。

平成25年度は、市内介護予防支援施設及び居宅介護支援施設のケアマネージャーさん並びに介護付き有料老人ホーム、住宅型有料老人ホーム、介護老人保健施設、グループホーム及びサービス付き高齢者住宅の高齢者向け入居型介護施設に調査対象を拡大し、特に「在宅看取り」に焦点を当て、昨年度に続いて課題の抽出、分析、提言・提案をさせていただいた。また、この調査研究と並行して行った「在宅看取りを考える」～みんなと一緒に考える～シンポジウムを開催したが、こ

こにお集まりいただいた多くのご来場者を見ると、あらためてその関心の高さを認識するとともに、市民のための病院として、引き続き追求すべきテーマであると再認識した。報告書の詳細は、下記の三浦市立病院のホームページをご参照いただきたいが、その一部を紹介する。

《三浦市立病院ホームページ_該当情報URL》

<http://www.city.miura.kanagawa.jp/byouin/shomu/kaigorenkei.html>

医療・介護の連携のかたち (地域密着型)



【ケアマネージャーアンケート調査結果抜粋】

質問2 市立病院から退院される患者様の、退院時の連携について、カンファレンスや病院スタッフとの情報共有、必要書類の内容等につき、お気づきの点、改善すべき点等ございましたら、ご記入ください。

No.	主な回答内容	回答数	構成比
1	退院予定に関し、なるべく早めの情報提供がほしい。	8	22.2%
2	退院予定日については、正確な情報がほしい。	1	2.8%
3	カンファレンス前に患者情報を（書面で）提供いただきたい。	2	5.6%
4	手術後退院で患者の身体情報が不十分だったが、十分な情報提供がほしい。	1	2.8%
5	介護支援連携指導書と退院時サマリーと内容が違う時がある。	1	2.8%
6	介護支援連携指導書に皮膚のケア・処置の必要性についての記載がほしい。	1	2.8%
7	入院中に退院に向けての準備（食事）などがほしい。	1	2.8%
8	地域医療科とはいろいろ相談でき、助かっている。	1	2.8%
9	地域医療科だけでなく病棟Nsやリハ担当者とも連携しやすくなった。	1	2.8%
10	地域医療科と病棟の連携が取れていない時がある。	1	2.8%
11	退院時の連携は重要だが、回数は少なくしてほしい。	1	2.8%
12	退院時調整時には、本人や家族の意向を十分に把握しておいてほしい。	2	5.6%
13	カンファレンスにおいて看護師の出席や看護情報の提供がほしい。	1	2.8%
14	栄養指導を家族や介護事業者にする機会を設けてほしい。	1	2.8%
15	診療情報提供書の書式統一、内容の充実、質の確保をしてほしい。	2	5.6%
16	診療情報提供書に日常生活自立度判定基準の評価を記載してほしい。	1	2.8%
17	現場でリハスタッフの話を聞いて、とても勉強になった。	1	2.8%
18	長期入院の定期的ケア会にケアマネにも参加させていただきたい。	1	2.8%
19	退院前カンファレンスは、多職種との情報交換にとっても有効。	2	5.6%
20	内科、整形外科のDrには退院後の相談ができ、助かっている。	1	2.8%
21	退院前カンファレンスの日程をケアマネと相談してほしい。	3	8.3%
22	病院からケアマネ関与なしで直接施設入所できる仕組みがほしい。	1	2.8%
23	退院後すぐに再入院のケースがあり、適切な退院判断をしてほしい。	1	2.8%
	計	36	100.0%

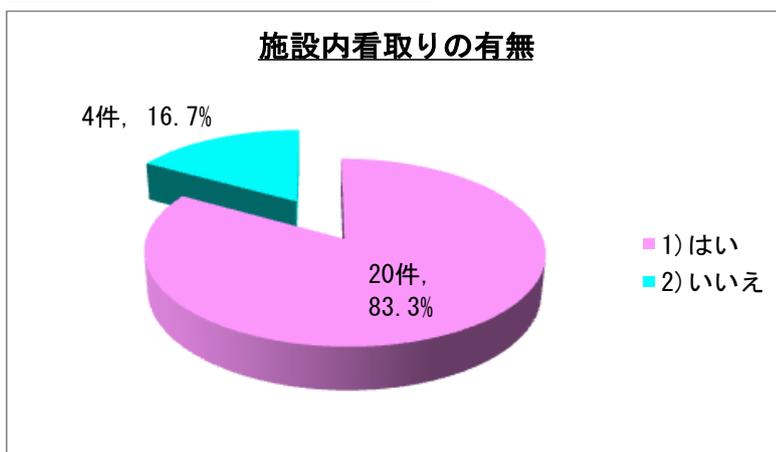
質問3 平成25年度より開始した市立病院の訪問リハビリについて、要望等ございましたらご記入ください。

No.	主な回答内容	回答数	構成比
1	広報をして認知度を高める必要がある。	3	11.5%
2	訪問リハができる基準を教えてください。	1	3.8%
3	拡充してほしい。	15	57.7%
4	訪問リハの開始はとても喜ばしい。	1	3.8%
5	訪問リハは重要であるが、入院中のリハの充実を望む。	1	3.8%
6	狭き門で、利用しづらく、提案もし難い。	2	7.7%
7	ホームページに利用方法、空き情報などの広報がほしい。	1	3.8%
8	市立病院を退院した人に限らず、気軽に利用できるようにしてほしい。	2	7.7%
	計	26	100.0%

【高齢者向け入居施設アンケート調査結果抜粋】

質問6：貴施設では看取りを行っていますか。

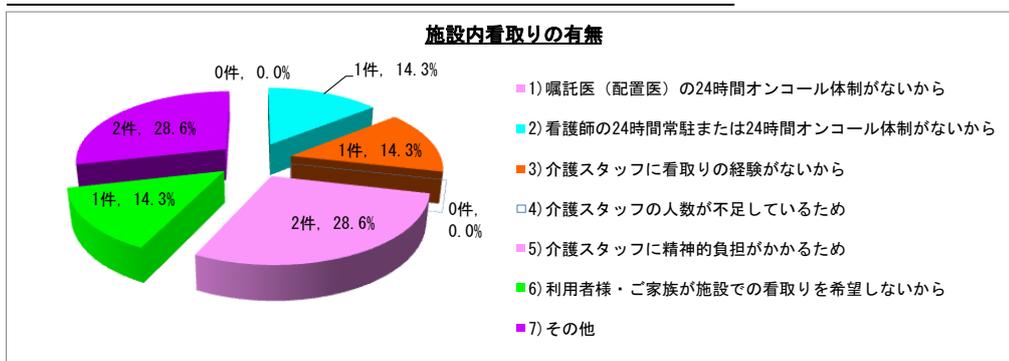
回答内容	回答数	構成比
1) はい	20件	83.3%
2) いいえ	4件	16.7%
計	24件	100.0%



質問7：6.で「いいえ」と回答された方にお尋ねします。

貴施設で看取りを行っていない理由につき、あてはまるものにチェックをつけてください。

回答内容	回答数	構成比
1) 嘱託医（配置医）の24時間オンコール体制がないから	0件	0.0%
2) 看護師の24時間常駐または24時間オンコール体制がないから	1件	14.3%
3) 介護スタッフに看取りの経験がないから	1件	14.3%
4) 介護スタッフの人数が不足しているため	0件	0.0%
5) 介護スタッフに精神的負担がかかるため	2件	28.6%
6) 利用者様・ご家族が施設での看取りを希望しないから	1件	14.3%
7) その他	2件	28.6%
計	7件	100.0%



質問9 入所者の方の健康管理や状態変化時・緊急時の対応等でお困りの点、市立病院への要望等ございましたら、ご記入ください。

No.	主な回答内容	回答数	構成比
1	もう少し親切な対応や受け入れをしてほしい。	2	9.5%
2	認知症患者について丁寧な受け入れをお願いしたい。	1	4.8%
3	看護師の冷たく強い口調が辛い。コミュニケーションもとりにくい。	1	4.8%
4	頼れる病院として、良い人間関係を作してほしい。	1	4.8%
5	連携室が以前のように機能されていないのでは・・・？と感じている。	2	9.5%
6	訪問診療枠を増やしてほしい。	1	4.8%
7	訪問診療対象者以外でも緊急時の受け入れをしてほしい。	1	4.8%
8	緊急時の待ち時間が長く、スタッフの負担になっている。	4	19.0%
9	ホームに退院する場合、退院時の状況が解りにくい。	1	4.8%
10	緊急時の受け入れを快く行っていただき、感謝している。	5	23.8%
11	病院⇄園との連携が取れてきていることを実感している。	2	9.5%
	計	21	100.0%

質問10 市立病院から貴施設へ退院される患者様の、退院時の連携について、情報共有やカンファレンス、必要書類等につき、何かお気づきの点、改善すべき点等ございましたら、ご記入ください。

No.	主な回答内容	回答数	構成比
1	園を信頼して情報を提供してくれるため助かっている。	1	9.1%
2	診療情報提供書、看護サマリー、リハビリサマリーはありがたい。	3	27.3%
3	不明な点は電話で対応してくれるため、情報不足で困ったことはない。	1	9.1%
4	退院時カンファレンスに同席できありがたい。	1	9.1%
5	施設スタッフ参加の医師の退院時病状説明がありがたい。	3	27.3%
6	地域連携室を通じて退院の目安をお知らせいただき助かる。	1	9.1%
7	施設から入院のとき施設が準備すべきもの等、事前指示いただきたい。	1	9.1%
	計	11	100.0%

【「在宅看取りを考える」～みんなで一緒に考える～シンポジウム 結果報告抜粋】

○開催概要：

- (1) 日時：平成26年3月15日（土）14:00～16:20
- (2) 場所：三浦市民ホール（うらり2F）
- (3) 主催：三浦市
- (4) 共催：三浦市医師会・神奈川県保健福祉事務所
- (5) プログラム

ア 開 会 14:00～14:05

イ 主催者あいさつ 14:05～14:15

三浦市長 吉 田 英 男

三浦市医師会副会長 矢 島 眞 文

ウ 基調講演 14:15～15:00

テーマ：「在宅看取りを考える」

講 師：兒 玉 末（こだま こずえ）

エ 休 憩 15:00～15:10

オ パネルディスカッション 15:10～15:55

テーマ：「在宅看取りと医療・介護連携」

コーディネーター：小澤幸弘（三浦市立病院総病院長）

パネラー：徳山宏基（三浦市医師会・徳山診療所院長）

青木芳隆（三浦ケアマネージャー連絡会会長）

草間理子（せいれい訪問看護ステーション油壺所長）

井上政江（特別養護老人ホームはまゆう施設長）

兒玉 末（三浦市立病院内科医師・地域医療科担当医長）

カ 閉 会 15:55～16:00

神奈川県三崎保健福祉事務所長 八 ッ 橋 良 三



○来場者数：

公表来場者数：360名（このほか約40名のスタッフが参加、会場は満員状態であった。）

区分	出席者数	構成比
1 医療関係者	15	4.5%
2 介護事業所関係者	39	11.8%
3 ケアマネージャー	25	7.6%
4 行政・議会関係者	19	5.8%
5 一般	232	70.3%
三崎地区	120	51.7%
南下浦地区	45	19.4%
初声地区	32	13.8%
居住地域		
横須賀市	20	8.6%
その他県内	15	6.5%
県外	0	0.0%
小計	232	100.0%
合計	330	100.0%

※右の表は受付で記帳された来場者を集計しているが、記帳せずに来場された方もおり、公表数値には合わない。

○司会者が直接会場の観衆に問かけるアンケート：

テーマである「在宅看取りを考える」～みんなで一緒に考える～について、来場者全員に2つのテーマについて基調講演前と閉会前に質問し、来場者の「最期」に関する意識とその変化を調査した。



アンケート結果は次のとおりで、開会時の総回答者数と閉会時の総回答者数の差は、途中退出者であり、質問2の開会時の総回答者数366が公表来場者数360人を上回っているのは、スタッフの一部が会場アンケートに参加した結果であると推測する。

質問項目	開会		閉会		差引	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
質問1 地元のまち、ご自分の住み慣れたまちで最期を迎えたいと思われる人	319	96.1%	282	96.9%	△ 37	+0.8
	13	3.9%	9	3.1%	△ 4	△0.8
	計	332	100.0%	291	100.0%	△ 41
質問2 自宅でご家族に看取られて最期を迎えたいと思われる人	288	78.7%	259	88.7%	△ 29	+10.0
	78	21.3%	33	11.3%	△ 45	△10.0
	計	366	100.0%	292	100.0%	△ 74

○事前準備した用紙によるアンケート：

質問	回答数	構成比
自分の最期を考えると、もっとも不安に思うこと	—	—
1 最期を迎えるまで介護してくれる人がいないこと	70	14.2%
2 介護してくれる人がいても、その人に負担をかけてしまうこと	169	34.3%
3 最期を迎えるまでの医療費や施設に係る経費などの経済的負担	116	23.6%
4 残される家族の将来	47	9.6%
5 最期を迎えるまで健康でいられないと思うこと	78	15.9%
6 その他	9	1.8%
7 無回答	3	0.6%
小計	492	100.0%
自分の最期を考えると、医療機関に期待すること	—	—
1 最期まで手術などできる限りの医療的処置をしてもらうこと	31	12.0%
2 手術など負担になる医療的処置はせず苦痛をとる処置のみをしてもらうこと	210	81.1%
3 その他	12	4.6%
4 無回答	6	2.3%
小計	259	100.0%
施設入所した場合、その施設に期待すること	—	—
1 最期はその施設で静かに看取ってもらうこと	183	70.7%
2 最期は病院に入院して医師・看護師に看取ってもらうこと	47	18.1%
3 その他	18	6.9%
4 無回答	11	4.2%
小計	259	100.0%
シンポジウムの感想	—	—
1 たいへん参考になった	149	57.8%
2 参考になった	96	37.2%
3 あまり参考にならなかった	1	0.4%
4 まったく参考にならなかった	1	0.4%
5 その他	6	2.3%
6 無回答	5	1.9%
小計	258	100.0%

【高齢者の医療と介護の連携にかかる提言・提案抜粋】

○外来待ち時間の短縮について

電子カルテシステムが本格稼働し、曜日別、診療科別などの待ち時間に関する傾向を分析するための資料が整った。市立病院ではすでにこの分析作業に着手しているが、院内待ち時間等の短縮に大いに寄与するものと期待しているところであり、効率的な診療と外来待ち時間の短縮工夫を電子カルテシステムを媒体として図りたいと考えている。

○院内付添いの時間等負担の軽減について

「院内ボランティアの養成」という具体的提案もいただいた。ボランティアは、自主性が大原則で“募集”には馴染まず組織化が難しいことなどの課題が残るが、ボランティア養成の要望は強く、行政と市立病院が連携し、院内ボランティアの組織化に向けた具体的方針を本年度中に明確にすることとする。

○施設内看取りの課題と対処について

嘱託医（配置医）や看護師の人的体制が必ずしも十分ではないこと、施設内看取りに関する介護スタッフの不安の払拭の2つが、高齢者向け入居施設アンケートからみえた施設内看取りに関する課題と言えるが、前者は、市立病院を核とした「三浦ならでは」の地域医療や地域包括ケアシステムの確立という地域全体の問題として、少しでも解決できるものについて、引き続き検討を重ねることとしたい。後者については、市立病院地域医療科が主催する「研修のためのネットワーク」の公開講座の枠組みの中で取り組むことが可能で、継続的なテーマとしてターミナルケアを取り上げ、平成26年度においても、可能な限り多くの回数の公開講座を開催することとする。

○院内接遇について

接遇向上委員会の機能強化と研修の充実を引き続き行い、不断の努力を行う以外の具体的な方策を列挙することは難しいが、今後も来院者からいただく貴重なご意見の一つひとつ丁寧に対応し、信頼される病院を目指したい。

○訪問診療枠の拡大に関すること

医師の確保（増員）が必要であるが、難しい現状である。いずれにしろ、市立病院は「三浦ならでは」の地域医療の確立を目指しており、訪問診療はその重要な要素であり、可能な限り体制の充実を図っていきたいと考えている。

○入院に関する支援について

「後方支援（退院支援）」は充実している一方、「前方支援（入院支援）」は改善の余地があるということだと言える。このことは地域医療科の人的体制の拡充により解決できると思われるが、臨時職員の採用や担当制の見直しなどにより、可能な限り体制の充実を図っていきたいと考えている。

○在宅看取りの課題と対処について

市地域全体の問題へとシフトさせることが重要であると考えているが、立病院を地域医療のデータバンクとし、電子カルテシステムを媒体としてその情報を地域で

共有するネットワークの構築は、地域包括ケアシステムの具体的ツールとなり得ると考えており、平成26年度に精力的な検討を進めることとする。

また、市立病院が行う公開講座でターミナルケアを取り上げることで、施設職員等の不安の払拭に寄与したいと考えている。

○退院前カンファレンス（担当者会議）について

退院前カンファレンス（担当者会議）について、一部に回数が多すぎるという意見もあるが、病院と訪看の情報共有ができて有効であり、今後も積極的に開催することとし、病棟看護師が出席できるよう徹底を図ることとする。

○公開講座について

市立病院、訪看双方で有効性の確認をし、引き続き積極的な対応をする。なお、公開講座のほか、市立病院と訪看双方が関わったケースのカンファレンス、ケーススタディを行うことが有効であるという意見があり、実施のための具体的検討を行うこととした。

○レスパイト健診について

介護者が忙しく、健診を受診できない状況で癌などを発病し、要介護者より先に逝くケースがある。市立病院としてはこれを回避するため、要介護者の入院を受け入れ、その間に介護者が健診を受診する仕組みである“レスパイト健診”について、平成26年度実施を目指すこととした。

○訪問リハビリテーションの介護保険料一部負担金の徴収方法について

市立病院の徴収方法（現金納付）と他の介護事業者の徴収方法（自動引き落とし等）の違いにより、患者や患者家族に混乱があるとの指摘があり、利用者の利便性を考慮し、市立病院において介護保険料一部負担金の徴収方法の検討を行うこととした。

(18) 研修医



診療部長 木谷 勇一

○活動状況

(1) 平成25年度のトピックス

平成25年度は、横須賀共済病院より16名の研修医の方々が、地域医療研修のため当院に来院されました。医療資源に限りある当院で、いかに地域医療教育の材料を研修医の皆様を提供できるかを日々考えさせられた感じでした。なるべく興味をもっていただき、暇な時間がない様に研修していただいたつもりです。基本的には研修医の先生方は、研鑽しに来られたので、病院の労働力としては扱いませんでした。その点、上級医の方々に多大な労力負荷をかけたと思われまふ。今年度の研修医の皆様も、例年の如く優秀な方ばかりで、当院で記憶に残る研修を行ったと思われまふ。

また残念ながら、今年度は横浜市大よりの研修医の地域医療研修はありませんでした。

(2) 平成25年度研修医一覧

平成25年度	伊東 寛哲	油座 築	高橋 充	増田 晴彦
	水澤 真文	井口 健太	飯田 真太郎	石井 改
	杉山 裕美子	清水美菜子	川崎 泰輔	大坪 加奈
	土屋 雄介	颯田 稔久	熊谷 泰雅	矢嶋 優
	以上横須賀共済より			

2 看護科



(1) 看護科

看護担当部長 佐藤 清江

○活動状況

(1) 平成25年度トピックス

ア 「三浦ならではの」の地域医療の構築

三浦市の疾病構造から言えることは糖尿病患者が多く、糖尿病疾病管理が十分に行われていないと判断し、週2回の糖尿病専門外来となる。外来のみでは不十分であり糖尿病教育入院を3階病棟からすべての病棟で受け入れられるようにした。並行して毎週フットケア外来を行っている。

イ 地域連携の推進

院内においては、亜急性病床をもつ4階病棟と地域医療との連携を密にして、退院調整の機能を充実させる努力をしている。他院の紹介患者の入院や地域医療科の訪問診療も増加の傾向にある。感染・緩和ケアの公開講座・出張講座も行い地域に貢献した。

ウ 看護職のスペシャリスト育成

患者や高齢者を中心とした緩和ケアを2名の緩和ケア認定看護師中心に入院・在宅でサービス提供している。リンパ浮腫の患者には専門の看護師がリンパドレナージを実施している。感染管理認定看護師を専従とし、病院内を横断的に活動し、職員全体の感染に対する意識の向上に貢献している。

(2) 看護職員状況

ア 看護職人員確保(平成25年度)

(単位:人)

	看護師 常勤	看護師 非常勤	准看護師 常勤	准看護師 非常勤	看護助手 非常勤	合計
採用	8	3	0	3	6	20
退職	5	3	0	4	5	17

イ 資格構成（平成25年4月1日現在）

（単位：人）

区分	総看護師長	主幹	看護師長	主任看護師	看護師	准看護師	看護助手	合計
職員	1	1	6	8	63	1	0	80
非常勤	0	0	0	0	6	14	30	50
計	1	1	6	8	69	15	30	130

ウ 年齢別構成（平成25年9月1日現在）常勤

（単位：人）

区分	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55歳以上	平均年齢
看護師	7	5	9	13	18	11	10	6	
准看護師	0	0	0	0	0	1	0	0	
合計	7	5	9	13	18	12	10	6	40.9歳

エ 看護科の事業計画と評価

（ア）一人一人が接遇向上に心掛け、クレームを少なくする。

個別的に指摘を受けることがなくなった。接遇の研修会の参加者も多くなり、感謝の言葉も聞かれるようになった。退院患者のアンケートでは評価は高い。

（イ）リスクをなくし、安全・安心の療養環境を提供する。

ベテラン看護師のマンネリ化を防止する為に、人事異動に心掛けた。レベル4・5はゼロであったが、レベル1～3については薬品と転倒転落の内容が多い。

（ウ）患者・家族に対して丁寧なICを心がける。

医師だけでなく、看護職も患者家族に対してわかりやすく説明をして、入院治療を同意・納得して受けていただくように努めた。しかし、医療者と患者家族の立場の違いから、数件再度説明を求められることがあった。

（エ）ベッドコントロールで占床率90%（122床）を維持する。

結果的に占床率は79%で一日平均入院患者107.7名であった。冬は136床満床になる日もあった。入院の必要性のある人に対して、快く受け入れる体制は出来ている。

（オ）電子カルテ導入に向けての準備をし、スムーズに移行できる。

平成26年1月13日スタートを目標に、9月以降全職員が電子カルテシステム導入に向けて努力した。導入後数日は混乱が見られたが、その後は運用について話し合いをしながら、それぞれ教え合い電子カルテの操作をマスターして行った。

(カ) 看護職としてのキャリアアップをして、看護・医療の質向上に貢献し、信頼される病院づくりをする。

褥瘡委員会を中心に、患者の褥瘡予防・睡眠の確保・ごみの減量等を目標にオムツの材質を変更した。また、看護部の感染対策委員会のリンクナースが講義を担当して発表するなど、院内においてもキャリアアップを図り医療・看護の質を向上させるための努力をした。また、サードレベル1名受講、医療安全管理者養成講習会2名受講、看護必要度研修会2名受講とリーダー格の看護職の研修にも力を注いだ。

(2) 2階病棟



看護師長 中條 郁代

○活動状況

(1) 平成25年度のトピックス

特色

H25年4月1日 看護師長1名 主任看護師 2名 看護師 17名

非常勤看護師 1名 非常勤看護助手 5名

H26年3月31日 看護師長 1名 主任看護師 2名 看護師16名

非常勤看護師 2名 非常勤看護助手 5名

外科系急性期病棟 42床 (HCU2床)

入院対象は主に外科・整形外科の急性期・眼科

外科系疾患は主に 胃癌・胆道系疾患・ヘルニア・乳癌・イレウス・化学療法目
大腸癌・外傷・急性腹症など752名であった。今年度、大腸内視鏡検査入院は、
約264名(32.7%)日帰り化学療法は、65名であった。

整形外科入院302名中、骨折の入院は 約154名。大腿骨頸部骨折・胸腰椎圧
迫骨折の割合は、約123名(40%)であった。

眼科入院317名は、全て白内障手術目的であった。

内科123名の入院があった。

H26年1月13日より電子カルテに移行になった。

(2) 業務実績

H25年度総入院数は、1,494名で平均患者数は35.5名/日。うち、
外科752名(50.4%) 整形外科302名(20.2%) 眼科317名(21.2%)
内科123名(8.2%)であった。

1,494名中 90歳以上66名(4.4%)、80歳以上90歳未満416名
(27.8%)、70歳以上80歳未満540名(36.1%)、60歳以上70歳未満294
名(19.6%)であった。

昨年同様60歳以上が、1,316名(87.9%)と大幅に占めており、昨年とほぼ同
じである。

(単位：人)

区分	9歳以下	10~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80~89歳	90歳以上	計
外科	1	5	4	14	35	62	184	266	165	16	752
内科	0	1	2	4	4	4	14	32	51	11	123
整形	1	1	2	6	11	12	36	80	120	33	302
眼科	0	0	0	0	4	5	60	162	82	4	317
計	2	7	8	24	54	83	294	540	418	64	1,494

(3) 病棟目標評価

H25年度2階病棟看護目標

『外科系急性期病棟としての機能を発揮する』

＊昨年の評価をもとに同じ目標を具体化し検討する。

ア 周手術期を安心して順調な経過をたどれるように統一した看護を提供する

(ア) 個別性を踏まえた受持ち看護を実践する

<具体策>

- ・日々の清潔ケアを充実する事で患者情報を取り関係構築を図る。
- ・看護計画の評価を徹底する。(週1回評価する。)

<評価>

- ・電子カルテ導入があり、年間を通して継続出来なかった。記録、看護計画など記載方法の切り替えに困惑してしまい共有することが出来なかった。
- ・入退院が早く十分な関わりができなかった。

(イ) チームで患者に関わる事ができる

<具体策>

- ・深夜からの引継ぎ時チームカンファレンスを行い、事例検討ができる。
- ・週1度、事例検討を行い、情報共有・振り返り・実践に繋げることができる。

<評価>

- ・チームカンファレンスを行い情報共有まで行えたが、実践、記録、評価に反映できない場合が多かった。
- ・週1回の集まりも困難であった。

(ウ) 記録の充実を図る

<具体策>

- ・看護計画に沿い日々の記録を充実させる。(SOAP 記入)
- ・ナンバリング、サイン漏れをなくす為、チームで声かけ意識付けを行う。
- ・看護計画の評価を定期的に行う。(1回/週)

<評価>

- ・看護記録・指示のチェック漏れは、完全に無くなってはいないが、お互いの指摘があり改善傾向にある。
- ・時間設定が、(タイムスケジュール) うまくいかず看護計画の評価が困難であった。

(3) 3階病棟



看護師長 三輪 睦

○活動状況

(1) 平成25年度トピックス

特色

3階病棟は内科を中心に入院患者を受け入れる急性期内科病棟です。市内に唯一の公立病院として24時間体制で緊急入院を受け入れており入院してくる患者は軽症から重症と幅広く専門的知識と技術が必要で日々高度な医療と看護を提供している。

職員構成は看護師長1名 主任看護師1名 看護師21名 准看護師1名
非常勤看護師1名 非常勤准看護師1名(看護学生) 非常勤看護助手5名

病床数 : 47床 (HCU2床 個室6床 特室1床 4人部屋40床)

入院対象 : 急性期内科 (24時間救急患者入院対応)
ベットコントロールにて外科・整形患者の受入れも実施

看護方式 : 固定チームナーシング : AB2チーム制、継続受け持ち看護方式
を取り入れ、準夜・深夜ともに看護師3名体制で質の高い看護を
提供

(2) 業務実績

ア 入院患者の状況

区分	H25	
	入院患者数(人)	構成比(%)
内科	1,085	98.7%
外科	10	0.9%
整形	4	0.4%
眼科	0	0.0%
合計	1,099	100.0%

イ 入院患者の年齢別状況

(単位：人)

区分	9歳 以下	10～ 19歳	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60～ 69歳	70～ 79歳	80～ 89歳	90～ 99歳	100歳 以上	合計
内科	0	4	10	12	30	56	126	247	383	209	8	1,085
外科	1	0	0	0	1	0	2	4	2	0	0	10
整形	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	4
眼科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳鼻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1	4	10	12	31	56	130	252	386	209	8	1,099

(ア) 主な疾患

肺炎・脳梗塞・心不全・糖尿病・尿路感染症・脱水・溺水・心肺停止後蘇生・腎盂腎炎・眩暈・肝機能障害・肺癌・憩室炎・急性扁桃炎・肝癌・イレウス・胆石・胆のう炎

(イ) 対象手術

永久ペースメーカー挿入術・MRIポート挿入術・胃瘻造設術・大腸ポリープ切除術

ウ 平成25年度3階病棟看護目標

(ア) 思いやりのある接遇

日頃のコミュニケーションを良好にし、患者・家族から信頼される対応を目指します。

(イ) 安全で安心できる療養環境

同じインシデントは繰り返さない。アクシデント0を目指します。

(ウ) 病院経営を意識する

円滑なベットコントロールにより入院依頼を100%受けます。

(エ) 専門職としてのキャリアアップ

内科急性期病棟の看護師としてのキャリアアップに努め個々のレベルを向上します。

エ 目標に対する評価

- (ア) 接遇委員会を中心に「優しい言葉使い」「身だしなみチェック」を実施し日々の看護業務で実践した。
- (イ) インシデント発生時、医療安全管理者を中心に分析と対策(事故要因)を明にして周知徹底、事故再発防止に努めた。
- (ウ) 診療材料検討委員会を中心に高額な医療材料・診療材料の在庫状況、定数の見直しを実施しコスト削減に取り組んだ。
- (エ) 固定キャリアラダー導入によりスタッフが年間教育計画に添い目標を設定し取り組み個々のキャリアアップに努めた。教育担当の協力で院内研修・院外研修・長期研修に積極的に参加できる環境となった。

(4) 4階病棟



看護師長 (H26.3.31 現在) 金子 美香

○活動状況

(1) 平成25年度トピックス

特色

平成25年4月1日 看護師長1名 主任看護師2名 看護師12名 准看護師0名
非常勤看護師1名 准看護師2名 (うち1名看護学生)

看護助手 8名 (うち1名看護学生)

平成26年3月31日 看護師長1名 主任看護師1名 看護師11名

准看護師1名 非常勤看護師2名

准看護師3名 (うち2名看護学生) 看護助手 6名

慢性期・亜急性期病棟 47床 (うち亜急性病床20床) (HCU2床)

入院対象は急性期治療が終了した患者

(2) 統計

平成25年度総入院患者数は452名 うち内科293名 (65%) 外科2名 (0.5%) 整形 157名 (34%)。入院患者は80歳以上が65%を占めていた。今年度より亜急性ベッド数は20床となった。使用者数は297名、1日平均利用者数は14.1人、退院160名 (うち自宅100名 32.6%・施設49名 16.6%・急性期移行12名 4%) でした。

3月末日現在数 (単位:人)

区分	20 ~29歳	30 ~39歳	40 ~49歳	50 ~59歳	60 ~69歳	70 ~79歳	80歳 以上	合計
内科	0	1	5	1	25	67	194	293
外科	0	0	0	0	0	1	1	2
整形外科	0	2	2	2	10	40	101	157

(3) 病棟看護目標

クロスSWOT分析にて以下の目標を設定した。

平成25年度4階病棟看護目標

ア 固定チームナーシングの確立

看護の質向上⇒早期退院へつなげる。

チームカンファレンスの充実⇒看護計画・実施・アセスメントの充実
(チームリーダー・サブリーダー)

イ 退院支援看護師、病棟看護師、地域医療科、リハビリテーション科等と連携強化し、スムーズな退院調整ができる。

ウ 糖尿病教育入院の受入れと在宅への連携

市民全体に増加しつつある糖尿病に対し、予防対策の一つに参画し、リピーター患者の看護展開や訪問看護師との連携を意識し、実践する。

エ 5年・10年後のなりたい自分を目標として、達成するためのキャリア計画を立案し、実施へつなげる(業務をこなすだけでなく、自分のキャリアを考える)。

(ア) 毎日カンファレンスを実施し記録に残し共有していく。

(イ) インシデント分析を行い対策を考えるとともに、業務の見直しや予測・予防ができるようにする。

*評価 昼カンファレンスの時間を使用分析してアクシデントに移行しないよう対策をしっかりと立て共有した。転倒事例では共有したがリハビリ段階の患者には厳しい状況だった。他事例では統一した行動ができるようにした。今年度のアクシデントは“0”であった。

(4) 評価

ア 各チームへ1冊ずつ本を購入し、各自予習をした後チーム編成から実施した。

日々のリーダーが必要以上の業務を抱え、負担が大きくなっていた。スタッフへの仕事配分に頭を抱えることも見られ、多くの仕事を抱えてしまい業務量での時間内終了が困難な事もあった。毎日のカンファレンスと振り返りをする事で、少しずつ体制と考え方が定着してきた。電子カルテの導入に伴い、情報の共有がしやすくなったこともあり、アセスメントの充実も期待され適切なプランに繋げていけるようにしたい。

イ 連携はスムーズになったがイコール「スムーズな退院」に結びつかないことも多かった。本人や家族の意向を大切にすあまり、退院の時期を逃してしまい余病のリスクが増えるなど、うまく運ばないケースもあった。

ウ 教育入院の受入れはスムーズになり、内容の把握や責任インスリンの計算にも慣

れた。慢性期病床の病棟での教育入院には課題もある。ADL 自立の患者が多い事もあり、時間を多くとっての教育は満足できるところまでとはいかなかった。今後は糖尿病教育をどのように進めていくか、課題の一つである。

エ 少しずつなりたい自分や取得したい資格、学びたいことが見えてきた。今後はそれを達成するために何を学んだらいいのか考え実行していく事が必要である。スタッフ同士また主任・師長が良い相談相手になれるよう、皆努力をしていく必要がある。

○ 4階本来の役割を土台とし、様々な症例に向き合いながら今後新しく導入する地域包括ケア病床に向け、病棟全員で取り組んでいきたい。

(5) 外来



看護師長 園田 恵美子

○活動状況

(1) 平成25年度のトピックス

ア 診療科：内科（循環器科 呼吸器科 糖尿病） 外科 整形外科 眼科 耳鼻咽喉科 産婦人科 小児科 神経内科 脳神経外科 泌尿器科 皮膚科
内視鏡 フットケア外来 リンパ浮腫外来

イ 救急外来：24時間体制（地域医療科・手術室・病棟師長の応援体制あり）

ウ 人員： 看護師長 1名
主任看護師 1名
看護師 7名
非常勤看護師 3名
非常勤准看護師 10名
非常勤看護助手 11名 （合計 33名）

(2) 業務実績

ア 患者数 106,038人／年
平均患者数 435人／日

イ 健診業務：国保・なごみ・特定・一般健診 564件
市職・船員・その他事業所等の健診 971件
土曜日健診（毎月第2土曜日）癌検診と国保等健診を行う。

ウ 予防注射：インフルエンザ（院内）1,115件
インフルエンザ（出張）328件
破傷風・HBワクチン 97件

エ 平成25年度科別患者数

(単位：人)

区分	内科	神経 内科	外科	整形 外科	産婦 人科	小児科	眼科	耳鼻咽 喉科	脳神経 外科	泌尿 器科	皮膚科
4月	3,189	175	911	2,278	159	199	589	370	173	202	178
5月	3,412	159	923	2,263	189	208	624	424	120	207	155
6月	3,200	159	904	2,332	192	252	636	344	157	188	177
7月	3,394	160	964	2,733	186	286	707	372	126	191	191
8月	3,550	188	1,031	2,727	251	252	631	356	171	178	151
9月	3,162	147	940	2,385	128	183	460	313	126	177	164
10月	3,627	199	1,074	2,768	265	262	716	362	142	219	205
11月	4,230	168	861	2,582	43	290	640	382	150	176	146
12月	3,774	187	800	2,466	27	302	609	325	134	198	178
1月	3,378	145	801	2,475	5	284	463	323	122	191	139
2月	3,242	148	760	2,296	89	230	516	282	150	178	94
3月	3,430	172	783	2,420	115	285	567	352	135	202	120
計	41,588	2,007	10,752	29,725	1,649	3,033	7,158	4,205	1,706	2,307	1,898

(3) 外来目標及び評価

『外来看護師に求められる専門性・役割が理解でき、患者様に安全・安心・安楽な看護を提供する』

ア 看護師が、個々の役割を意識、報告・連携・相談の徹底ができる

→朝のミーティングで情報交換を行う事で応援体制ができた。

各科日々タイムスケジュールを共有する事で協力体制が取れた。

イ 患者様及び家族の状況を理解し、相手の立場に立って考える看護ができる

→特に接遇面に注意し、患者様・家族の立場になり接することができてきた。今後も継続する。

ウ 作業環境を整え、感染予防・医療事故なしに努める

→片付け、清掃の徹底をお互い心がけることができ、事故の予防ができた。

エ 看護師が、患者に寄り添える専門外来を行うことができる

→糖尿病外来・フットケア外来では対象の患者に関わりを多く持つことができた。

他の外来においても余裕のある態度で接していきたい。

オ 一般外来・検診外来の環境整理を行い、スムーズな受診・検診ができる
→電子カルテ導入により、当初混乱が予想されたが、日々に起こる問題に対し、
解決されていっており、今後はマニュアルの整備が課題と思われる。

(6) 手術室・中央材料室



看護師長 下地 福子

○活動状況

(1) 平成25年度のトピックス

ア 個々の強みを生かし、より良いチームワークでパワーと活気のある職場環境を目指す

(ア) 専門識を生かし患者優先・患者中心の看護を実践する。

- ・術前訪問を実践し手術を受ける患者の不安軽減に努める。
- ・情報を共有し各自が責任を持ち手術室看護を実践する。

○評価 入院患者術前訪問100%実施できた。術前訪問で得た情報をミーティングで共有した。

(イ) エビデンスに基づいた看護業務の見直し・改善を実施する。

- ・問題意識を持ち業務改善・コスト削減に取り組む。
- ・日々進化する医療に対し前向きに柔軟な対応をする。

○評価 在庫の見直しをかけた。また、コスト削減に向け定数の見直しをした。

(ウ) 病院組織・看護科組織を理解し目標を持ち業務に取り組む。

- ・役割を理解し各自がキャリア開発に取り組む。
- ・組織における報告・連絡・相談の重要性とルールを理解する。

○評価 役割分担することにより責任を持った行動ができた。

イ 清潔な手術室の環境管理と滅菌物の取り扱い管理は、各自が日々の役割から責任を持ち保障する。

(ア) 手術室の清掃は徹底し行き清潔な環境を維持し感染防止に努める。

(イ) 手術機械の展開は清潔操作を厳守し段取り良く短時間で行う。

(ウ) 医療機器・備品の点検は日々行き大切に扱う。

(2) 業務実績

ア 手術室・中央材料室

(ア) 業務実績

平成25年度の手術件数は590件でした。内訳は外科116件、整形外科129件、眼科339件、内科6件で前年度より33件減であった。

中央材料室では院内で使用する医療機器の洗浄から滅菌まで一括業務を行っている。単包化により滅菌有効期限の延長が向上した。

職員構成は、看護師長1名 看護師4名 看護助手1名の6名体制です。日々医療機器・備品点検を行い安全に手術が行えるようにまた、術前訪問を実施し患者の不安軽減に努めている。術前訪問は100%実施できている。

(イ) 手術件数状況

(単位：件)

区分	外科	整形外科	眼科	内科	婦人科	その他	計
手術	116	129	339	6	0	0	590
緊急手術	6	8	1	0	0	0	15

(7) 教育担当



看護師長 舘林 美加子

○活動内容

(1) 平成25年度のトピックス

公開講座 4コース

- (ア) 感染管理
- (イ) 看取り
- (ウ) 褥瘡管理
- (エ) リハビリテーション

(2) 業務実績

ア 院内研修

(ア) 新採用職員研修及び新人看護師研修

	月 日	内容	講師・担当	受講者
新 採 用 者 研 修	25年4月1日 2日 8:30~17:15	オリエンテーション ・辞令交付式・職務義務・公務員 倫理・接遇 社会人としての心得・看護部の概要・院内教育について 専門職、看護師としての心得・厚生制度・共済制度 公務災害・仕事の基本「報・連・相」について ・総病院院長講和	市役所職員	新採用 8名
	4月4日 13:30~15:00	・感染防止の技術 スタンダードプリコーション	感染管理認定看護師 杉崎絵美	新採用 8名
	4月5日 9:00~11:00	・記録の演習 記録の概論 POS・SOAP について ・プリセプター合同研修 「性格判断」	鈴木三恵子	新採用 8名 プリセプター 5名
	4月8日 13:00~16:00	市の地理と歴史（市内見学）	市役所職員	新採用 8名
	4月9日 9:00~11:30 13:00~17:00	災害について トリアージについて 院内の避難方法に ついて ・N95 マスクの取り扱いについて 市の施設見学	原美智子 感染管理認定看護師 杉崎絵美	新採用 8名

	月 日	内容	講師	受講者
新採用者研修	25年4月10日 9:00~11:30	・オーダーリングについて ・クリティカルパスについて ・地域医療の役割について ・固定チームナーシングについて	園田恵美子 嘉山静子 柴田弘子 舘林美加子	新採用 8名
	13:00~17:00	市の施設見学		
	4月11日 9:00~11:00 13:00~17:15	災害看護 ・避難経路 非常食管理 免震構造見学	舘林美加子	新採用 8名 リハビリ 4名
		・与薬・各薬剤取り扱いについて 抗癌剤について ・安全と事故対策 抑制について ・当院のラダー教育システム・プログラムについて	猪崎薬局長 医療安全後藤令子 舘林美加子	新採用 8名
	4月12日 13:30~17:15	技術演習 清潔・衣生活援助技術・看護技術 薬剤準備（輸液交換 刺入部固定方法 点滴管理・輸液量計算）・シリンジ・輸液ポンプ管理	舘林美加子 プリセプター7名	新人看護師 8名
	4月17日 9:00~11:00 13:30~17:15	・フットケアについて ・糖尿病外来 入院について ・創傷ケア ポジショニング ストマについて ・静脈採血・静脈点滴をする際の注意点・法律について	長田泰代 萩原京子 長島好美 舘林美加子	新人看護師 8名
	4月9日 9:00~11:30 13:00~17:00	災害について トリアージについて 院内の避難方法について ・N95 マスクの取り扱いについて 市の施設見学	原美智子 感染管理認定看護師 杉崎絵美	新採用 8名
	4月19日 9:00~11:00	・トロッカーについて P T C D C Vの介助について ・イレウス管 胃管の介助・静脈採血 腕モデル実践①	山本浩文 下里未来 高西かな子	新人看護師 8名
	4月24日 13:30~17:15	・看護必要度について ・静脈採血 腕モデル実践②	柴田弘子 舘林美加子	新人看護師 8名
	4月26日 13:30~16:00	・高齢者疑似体験 ・体幹抑制 ミトン抑制 体験（安全管理）	舘林美加子 高西かな子	新人看護師 8名
	5月1日 15:00~16:00	・デュロテップの取り扱い	猪崎薬局長	新人看護師 8名
	5月9日 13:30~17:15	・口腔ケア ・パニック値について	三崎保健福祉事務 所歯科衛生士 長島聡美 鈴木検査技師長	新人看護師 8名

新 採 用 者 研 修	月 日	内 容	講 師	受 講 者
	25年5月10日 13:30～17:15	・呼吸器について ・呼吸器回路の取り扱いについて	IMI 平山典子	新人看護師 8名
	5月14日 14:00～16:00	・静脈採血③	舘林美加子	新人看護師 8名
	5月16日 13:30～16:00	・救急救命 BLSについて ・急変の看護	救急救命士2名 高西かな子	新人看護師 8名
	5月22日 13:30～17:00	・パイパップの使い方 ・静脈採血④ 静脈注射	帝人 舘林美加子	新人看護師 8名
	5月31日 13:30～17:15	・静脈注射 最終テスト ・夜間のリーダー業務について	舘林美加子	新人看護師 8名
	6月6日 13:30～17:00	・心電図について ・フィジカルアセスメントについて	高西かな子 原 高橋 平山	新人看護師 8名
	6月26日	・エンゼルケアについて	柴田弘子	新人看護師 8名
	10月17日	・多重課題 シミュレーション (プリセプター合同)	舘林美加子 山本浩文 プリセプター6名	新人看護師 8名
	12月5日 13:30～17:15	・看護展開 ・9ヶ月フォローアップ	山崎静枝 舘林美加子	新人看護師 8名
	26年2月27日 13:30～17:15	・12ヶ月フォローアップ	舘林美加子	新人看護師 8名
	3月20日 17:15～18:00	「1年の振り返りと今後の課題」 リーダーI-1 新人基礎コース終了式	舘林美加子	新人看護師 8名

(イ) キャリアラダー

レベル	研修講座名	内 容	担 当	受 講 者
I-Ⅱ	25年6月6日	ケースレポート導入講義	園田恵美子 高西かな子 山本浩文	25名
	25年7月18日	ケースレポート グループワーク		25名
	25年7月26日			
	25年10月25日	ケースレポート 経過報告会		22名
	26年3月6日	発表		8名

レベル	研修講座名	内 容	担当	受講者
I—III	25年6月27日	再構成導入講義（9月30日レポート提出）	中條郁代	8名
	25年10月18日	再構成グループワーク	三輪睦	7名
	26年1月31日	看護観 再構成 レポート提出	柴田弘子	7名
II	25年6月19日	看護研究 導入講義	嘉山静子	9名
	25年7月31日	看護研究計画書提出	市川夏実	9名
	25年11月2日	進行状況確認 相談		9名

(ウ) 選択コース

コース	日程	担当	受講者
看護倫理	①25年6月12日導入講義 ②10月2日グループワーク ③11月27日まとめ 発表	金子美香 原美智子 鈴木三恵子	3名
看護理論	①25年6月12日看護理論とは ②7月24日 グループワーク ③10月30日グループワーク ④12月3日まとめ ⑤26年1月16日発表	嘉山静子 柴田弘子	4名
ナラティブ	①25年7月2日ナラティブとは ②9月3日グループワーク ③11月12日課題提出	下地福子 杉崎絵美	4名
感染	①25年7月9日スタンダードプリコーション ②9月9日 ③9月10日感染経路別予防策 ④11月18日 ⑤11月19日針刺し切創血液事故防止	感染管理認定看護師 杉崎絵美	11名
看取り	①25年6月4日 看取りのケア ②8月31日レポート提出 ③10月9日グループワーク ④12月11日エンゼルメイク ⑤26年1月22日エンゼルメイク演習	緩和ケア認定看護師 柴田弘子	11名
リーダーシップ	①25年6月13日リーダーシップとは ②9月12日多重課題1 ③12月11日多重課題2 ④26年2月7日グループワーク	舘林美加子 鈴木三恵子	6名
心電図	①25年6月26日 ②8月1日 ③8月8日 ④8月27日 ⑤9月26日 ⑥10月10日 ⑦11月21日 ⑧26年1月23日 ⑨3月18日	鈴木検査技師長	20名

(エ) 公開講座

コース	日程	内容	講師	受講者
感染管理	25年5月21日	手洗いと手指消毒	感染管理認定看護師	23名
	25年7月16日	疥癬について	杉崎絵美	23名
	25年9月24日	ノロウイルスについて		22名
	25年11月5日	インフルエンザについて		23名
緩和ケア（看取り）	25年7月8日	良き死について	緩和ケア認定看護師	36名
	25年11月8日	エンゼルケアについて	柴田弘子	16名
	26年2月12日	地域の中の看取り		20名
褥瘡管理	25年6月14日	褥瘡の原因と予防	長島好美	37名
	25年9月20日	褥瘡に使用する薬剤 褥瘡管理	福本哲也 長島好美	27名
	25年12月10日	褥瘡対策 耐圧分散について	長島好美 ケープ	16名
リハビリテーション	25年7月3日	基本動作移乗動作の介助方法	理学療法士 藤井信行	19名
	25年10月16日	転倒予防教室	作業療法士 浅田浩宜	8名
	26年2月26日	高次機能障害について	作業療法士 竹内晃雄	14名

(オ) 院内研修会・伝達講習会

院内 研 修 会	月 日	研修内容	講師	受講者
	25年4月16日	胃がんと化学療法	医師：青山徹	13名
	25年4月25日	呼吸器勉強会（レジェンドエア）	IMI 株式会社	15名
	25年5月28日	クレキサンの使用方法について	科研製薬株式会社	6名
	25年5月29日	BELA 呼吸器使用方法について	IMI 株式会社	15名
	25年6月5日	摂食嚥下訓練	NST（クリニコ株式会社）	21名
	25年6月29日	BELA 呼吸器使用方法について	IMI 株式会社	15名
	25年6月18日	外科手術における医療安全の取り組み	医師：青山徹	30名
	25年6月20日	輸液・シリンジポンプの正しい使い方	舘林美加子	7名
	25年7月3日	責任インスリンとは	医師：瀧端正博	14名
	25年7月10日	血ガスの取り扱いについて	シーメンス株式会社	15名
	25年7月11日	麻薬の取り扱いについて	薬局長：猪崎佐和子	19名
	25年7月15日	肺ケアについて	山田智仁	5名
	25年7月25日	睡眠導入剤 向精神薬の適正使用について	薬剤師：加藤慈	24名

院内 研 修 会	月 日	研修内容	講師	受講者
	25年7月29日	パーキンソン氏病について	医師：植松絵里	18名
	25年7月30日	トロッカーについて CVの介助方法	山本浩文 下里未来	7名
	25年9月19日 24日27日	BELA呼吸器 病棟での取り扱いについて	IMI株式会社	70名
	25年10月3日	水と電解質について (NST)	大塚製薬	20名
	25年10月24日	脳卒中について	医師：東山	21名
	25年11月20日	クレーム対応について	看護部長：佐藤清江	39名
	25年11月26日	在宅の看取りについて	医師：兒玉末	34名
	25年11月23日	院内感染対策講習会	感染リンクナース	28名
	25年12月4日	責任インスリン不安定プログラムについて	医師：瀧端正博	27名
	26年2月19日	クレキササン薬剤の使用について	科研製薬株式会社	20名
	26年2月13日	モビプレップの薬剤使用について	薬局長：猪崎佐和子	22名
	26年2月28日	医薬品使用におけるリスクマネジメント	薬局長：猪崎佐和子	15名
	26年3月11日	講談：「堪忍袋」「横須賀ゆかり小栗上野介」	神奈川県保健福祉大学大 学院看護学科教授 加納佳代子	37名
	26年3月14日	伝達講習会	嘉山美樹 野村香織	12名
	26年3月24日	抗菌剤について	薬剤師：今村里絵	23名
	26年3月25日	電話対応について	看護部長：佐藤清江	24名
26年3月27日	伝達講習会	萩原京子 高橋さつき	13名	

(カ) 助手研修

助 手 研 修	月 日	研修内容	講師	受講者
	25年5月29日・30日	疑似体験	館林美加子・高西かな子	19名
	25年7月19日・23日	ポジショニングについて	長島好美	15名
	25年10月15日・18日	感染防止対策 針刺し事故について	感染管理認定看護師杉崎絵美	14名
25年12月12日・13日	医療安全について	医療安全：後藤令子	17名	

イ 院外研修

(ア) 出張研修・自己研修 参加状況

月 日	研修テーマ	開催場所	受講者
25年4月21日	神奈川県消化器内視鏡技師研究会	横浜市教育会館	石黒菜穂
25年5月18日	第5回日本静脈経腸栄養学会	藤沢市民会館	宮村純子
25年5月18日 25年11月16日 26年2月1日	神奈川県看護協会他施設合同研修 新人職員研修	神奈川県総合医療会館	西ノ園由貴 鈴木未来 能隅智子 岡野恵美 秋間真衣 石渡綾子 田中絵利香 川平朝克
25年5月23日	横須賀市民病院 公開講座摂食嚥下	横須賀市民病院 7階	高西かな子
25年5月29日	神奈川県看護協会 がんばれ！新人ナース！	神奈川県民ホール	西ノ園由貴 鈴木未来 能隅智子 岡野恵美 秋間真衣 石渡綾子 田中絵利香 川平朝克
25年5月31日	災害ナースのためのスキルアップ研修	神奈川県総合医療会館	原美智子 池田安弘
25年6月7日	平成25年度通常総会 全国看護師交流会Ⅰ	幕張メッセイベントホール	館林美加子
25年6月7日8日	第10回日本褥瘡学会関東甲信越地方会	幕張メッセ国際会議場	長嶋好美
25年6月7日	看護協会A群 摂食嚥下障害研修	神奈川県総合医療会館	三橋良重
25年6月14日～ 17日	スキルアップ研修リンパ浮腫指導管理	明治安田生命ラジオ日本ビル	中川恵
25年6月15日	看護協会A群 看護記録の本質	神奈川県総合医療会館	沼田夏季
25年6月8日 25年8月31日	神奈川県看護協会他施設合同研修 新人職員研修	横浜市病院協会看護専門学校	西ノ園由貴 鈴木未来 能隅智子 岡野恵美 秋間真衣 石渡綾子 田中絵利香 川平朝克
25年6月16日	明日から使える救急サバイバル術	関内新井ビル	石黒菜穂
25年6月22日～ 24日	第29回神奈川ストーリーリハビリテーション 講演講習会	横浜市立大学部付属病院	長嶋好美
25年6月17日	明日からできる退院支援と退院調整	神奈川県総合医療会館	鈴木三恵子 中尾裕子 平山典子 中川恵
25年6月21日	横須賀・三浦 院内感染フォーラム	横須賀市文化会館	杉崎絵美

月 日	研修テーマ	開催場所	受講者
25年6月23日	メディカルアロマセラピー	横須賀市総合福祉会館	鈴木安代
25年6月27日	看護協会 A 群 わかるできる自信が付く 手術看護	神奈川県総合医療会館	小川渚
25年6月27日	看護協会横須賀支部大会・講演会	職員厚生会館	金子美香 瀬古澤和子
25年6月27日	国際モダンホスピタルショウ2013	東京ビックサイト	館林美加子 山本浩文
25年6月29日	明日からの医療安全活動を変える	ハロー会議室 茅場町	大林嬢子
25年6月30日	こころの日講演会「認知症とうつ」	ウィリング横浜	藤田あずさ
25年7月6日	輸液の基礎知識	ハロー会議室 茅場町	大林嬢子
25年7月9日	看護協会 看護師職能会・講演会	神奈川県総合医療会館	高橋さつき
7月12日13日	救急臨床医学会	東京国際フォーラム	高杉有希子
25年7月16日	認知症キャラバンメイト養成研修会	神奈川県民センター	加藤素子
25年7月17日	第10回神奈川県糖尿病足病変カンファレンス	ホテルプラム	長田泰代
25年7月18日	難病患者在宅ケア従事者研修会	神奈川県合同庁舎	平山典子
25年7月16日 25年10月19日	神奈川県看護協会他施設合同研修 実地指導者研修コースII	神奈川県総合医療会館	小川渚 藤田あずさ 崎山美緒 沼田夏季 安田佳恵
25年7月26日	看護協会 A 群 褥瘡予防ケアの実際	神奈川県総合医療会館	野村香織
25年8月5日	CAPE 褥瘡セミナー	日石横浜ホール	長島好美
25年8月17日	看護協会 医療安全講演会 安全対策の 落とし穴	神奈川県総合医療会館	金子美香 君島恵子 高西かな子
25年8月28日	看護協会 2年目ナース研修	神奈川県総合医療会館	嘉山美樹 一ツ谷麻衣子
25年8月29日～9 月5日	小規模施設職員のキャリア形式支援研修	神奈川県総合医療会館	山崎静枝
25年9月8日	「わかる」「診える」「できる」褥瘡ケア	ニューピアホール	長島好美
25年9月8日	糖尿病における動脈硬化 糖尿病の最近の治療	新都市ホール	萩原京子

月 日	研修テーマ	開催場所	受講者
25年9月8日	秋の睡眠講座	ベルサール九段	阿部久美子
25年9月10日 11日	リーダーナースのためのフィジカルアセスメント	神奈川県総合医療会館	原かおり
25年9月14日 15日	感染管理認定看護師のディベロップメント講座	花王すみだ事業所	杉崎絵美
25年9月19日 20日	看護協会 B 群 主任看護師に求められる看護管理	神奈川県総合医療会館	山本浩文
25年9月24日	看護協会 中堅看護師研修	神奈川県総合医療会館	原かおり
25年9月30日	看護協会 B 群 教育担当研修①	神奈川県総合医療会館	館林美加子
25年10月4日	看護協会 B 群 教育担当研修②	神奈川県総合医療会館	館林美加子
25年10月10日	看護協会 2年目ナース研修	キャリア支援研修センター藤沢	上田峰子
25年10月12日	第8回関東地方会 固定チームナーシング	すみだリバーサイドホール	柴田弘子
25年10月20日	第19回埼玉内視鏡技師研究会	ラフレさいたま櫻ホール	石黒菜穂
25年10月25日	看護協会 B 群 教育担当研修③	神奈川県総合医療会館	館林美加子
25年10月28日 29日	看護協会 B 群 がん化学療法における看護の役割	神奈川県総合医療会館	原美智子
25年11月9日	中堅看護職研修	東海大学伊勢原キャンパス	君島恵子
25年11月15日	看護協会 C 群 褥瘡予防のケア	神奈川県総合医療会館	長島好美
25年11月15日	第20回横須賀三浦院内感染フォーラム	横須賀市文化会館	杉崎絵美
25年11月17日	第32回関東甲越糖尿病セミナー	はまぎんホール	高久乙華
25年11月18日	横須賀市民病院 公開講座褥瘡セミナー	横須賀市民病院	長島好美
25年12月10日	看護協会 C 群 めざせ！安全な医療現場	神奈川県総合医療会館	杉崎絵美 大林嬢子
25年12月20日	看護協会 C 群 初めての実地指導者研修	神奈川県総合医療会館	萩原京子
25年12月17日	看護協会 中堅看護研修	神奈川県総合医療会館	岸田美智子 池田安弘
26年1月16日	慢性看護研究発表会	神奈川県福祉大学	萩原京子
26年1月20日	看護協会 C 群 初めての学ぶ KYT	神奈川県総合医療会館	長田泰代
26年1月29日	平成25年度 地域包括医療・ケア会議	KFC ホール	中川恵

月 日	研修テーマ	開催場所	受講者
26年1月27日28日	看護協会D群がん緩和ケアにおける看護の役割	神奈川県総合医療会館	崎山美緒
26年1月7日~10日	平成25年度 病院と在宅をつなぐ研修会	神奈川県総合医療会館	君島恵子
26年1月17日~20日		キャリア支援研修センター 一藤沢	原かおり
26年2月12日	糖尿病セミナー食とインスリンを極める	新都市ホール	萩原京子
26年2月12日	看護協会D群 初めての実地指導研修	神奈川県総合医療会館	高橋さつき
26年2月14日	第29回日本環境感染学会総会	グランドプリンス高輪	杉崎絵美
26年2月16日	平成26年神奈川県内視鏡機器取り扱い	横浜市教育会館	嘉山美樹
26年2月18日	横須賀共済病院 感染対策講習会	横須賀共済病院	杉崎絵美
26年2月25日	看護協会 教育計画事業説明会	神奈川県総合医療会館	館林美加子
26年3月2日	第12回人工呼吸器セミナー	パシフィコ横浜	萩原京子
26年3月30日	ナースがおこなう浮腫のケア	国際ファッションセンター	渡辺みゆき

(イ) 看護管理研修会

期間	研修テーマ	開催場所	受講者
25年7月3日	平成25年度七市公立病院 師長・主任研修	藤沢労働会館	佐藤清江 嘉山静子 金子美香 園田恵美子 中條郁代 三輪睦 下地福子 原美智子 館林美加子 市川夏美 杉崎絵美 山本浩文 鈴木三恵子 高西かな子
25年4月~7月	医療福祉の連繋と総合化~地域包括ケアシステム	国際医療福祉大学	金子美香
25年6月~12月	医療安全管理者養成研修	山野美容専門学校	金子美香
25年5月~9月	ファーストレベル研修	神奈川県立保健福祉大学実践教育センター	柴田弘子
25年9月20日	平成25年度院管理研修	神奈川県総合医療会館	中條郁代
25年10月~ 26年3月	サードレベル研修	神奈川県立保健福祉大学実践教育センター	嘉山静子

日時	研修テーマ	開催場所	受講者
25年10月15日	平成25年度病院管理研修	神奈川県総合医療 会館	中條郁代
25年12月19日	看護管理研修 看護の評価とマネジメント	ホギメディカル	園田恵美子

(ウ) 全国自治体病院協議会研修

日時	研修テーマ	開催場所	受講者
25年7月26日27日	東京「ラーニングスクエア新橋」	ベルサール9段	足助里美 原田左和子
25年8月7日～9日	平成25年度 看護管理研修	ベルサール神田	下地福子
25年11月3日	看護必要度評価者養成研修	ベルサール神田	中條郁代 三輪睦
26年2月7日	医療安全研修会	剛堂会館	舘林美加子 大林嬢子

(エ) 院外講師

月 日	研修テーマ	訪問者
25年7月 26年2月	H25年度看護協会 教育研修 A群 災害看護実務編① D群 災害看護実務編②	原美智子

(オ) 学校訪問

月 日	学校名	訪問者
26年7月13日	小田原看護専門学校・湘南平塚看護専門学校 神奈川県平塚看護専門学校	佐藤清江 嘉山静子
26年7月23日	横浜創英短期大学・横浜医師会保土ヶ谷看護専門学校	佐藤清江 嘉山静子
26年7月30日	横須賀市立看護専門学校 歯科大学短期大学部 看護学科	佐藤清江 嘉山静子

ウ 院内発表会

(ア) 新人看護師発表者 26年3月20日

テーマ	発表者
「1年間を振り返って学んだこと 2年目の課題について」	田中絵利香 能隅智子 西ノ園由貴 岡野恵美 川平朝克 秋間真衣 鈴木未来

参加者 20名

(イ) ラダーⅠ－Ⅱ ケースレポート発表会 26年3月6日

所属	発表者	テーマ
2階	瀬古澤 和子	ターミナル期にある患者に対する援助の難しさ～日々の援助から学んだこと～
地域医療	中川 恵	リンパ浮腫ケアの効果
2階	三橋 良重	言葉の内面に気付く大切さ～癌告知を受け人工肛門を造設した患者と関わって学んだこと～
2階	渡辺 みゆき	終末期の倦怠感患者との関わり～緩和ケアについて再度考えさせられた事例～
2階	大井 雪子	習得困難な糖尿病患者への指導を振り返る～すべては出来なくても自信を持って退院できるための援助～
3階	長谷川 嘉寛	嚥下障害患者の経口摂食維持のための関わり～食事摂取に対する意欲が強いが誤嚥を繰り返す患者へのアプローチ～
4階	池田 安弘	不定愁訴のある患者の看護～共感と信頼関係～
4階	神田 尚代	自宅介護困難な患者への退院指導を通して学んだこと～高齢な夫への指導にあたって～

参加者 23名

(ウ) 看護研究 院外発表

日程	開催地	テーマ	発表者
25年5月25日	第63回神奈川県国保健康保険 団体連合診療施設部会研修 (小田原市)	責任インスリン導入にあたり、みえてきたこと	平山典子
		三浦市立病院における院内感染対策	杉崎絵美
25年10月4日 5日	第53回全国国保地域医療学会 (島根県)	インスリンアルゴリズム法を取り入れた糖尿病入院の試み	沼田夏季
25年11月16日	第31回神奈川県看護協会 横須賀支部看護研究発表会	インスリンアルゴリズム法を取り入れた糖尿病入院の試み	竹内馨

エ 職場体験・1日看護体験

職場体験日	体験者数	担当者
26年1月15日 16日	上原中学校 3名	舘林美加子 鈴木未来 川平朝克
26年1月23日 24日	初声中学校 4名	舘林美加子 西ノ園由貴 川平朝克
26年1月30日 31日	長井中学校 3名	舘林美加子 野村香織 川平朝克
26年2月5日 6日	南下浦中学校 4名	舘林美加子 小川渚
25年7月25日	高校生 8名	高橋さつき 川平朝克
25年7月26日	高校生 5名	平山典子 西ノ園由貴 小川渚

3 薬局



薬局長 猪崎 佐和子

○活動状況

(1) 平成25年度のトピックス

ア 院内医薬品在庫管理

経費削減のため、各科定数配置薬見直し実施。ここ数年、各科定数配置薬の見直しを継続しており、今年度は救急カートの配置台数の検証を行い、使用頻度及び配置場所等を考慮して内科救急カートを廃止し、計6台とし、業務の効率化また、経費削減に繋がる院内配置薬の見直しを進めた。医薬品の期限切れ廃棄を回避するよう院内で医薬品を回転させたことにより、医薬品資産減耗費は703,619円で昨年度に比べ15%減となった。これらのことから、医業収益対薬品費(%)は年々減少し、今年度は6.1%であった。院内医薬品の在庫管理が適切かつ迅速に実施されている証であり、職員及びSPDスタッフの日々の努力によるものである。

当院防災計画の改正により、救護活動を円滑に進めるため、災害時医療資機材等の備蓄及び整備を行い、医薬品については内服、注射及び外用薬を含め800,336円(税抜き)を新たに配置した。

イ 6年生薬学生実務実習(11週間)

2名受入れ。6年生薬学生受け入れ2年目である。当院では実施していない業務においては多施設からの協力をいただいている現状であるが、薬学生を指導することにより職員の更なる知識及び技術の向上並びに意識改革に繋がっていると考える。

(2) 業務実績

ア 調剤業務

区分	処方箋枚数		調剤数			入院屯用処方箋枚数		院外処方
	外来		入院	外来	入院	枚数	剤数	疑義照会
	院内処方	院外処方						件数
年間	2,311	64,099	14,510	3,742	34,277	2,899	4,967	3,045

イ 薬剤管理指導業務

区分		内科	外科	整形外科	産婦人科	眼科	小児科	耳鼻科	計
服薬指導患者数		300	353	211	0	0	0	0	864
総服薬指導件数		945	837	747	0	0	0	0	2,529
算定件数	380点	325	298	269	0	0	0	0	892
	325点	148	169	234	0	0	0	0	551
麻薬加算件数									100
退院時薬剤情報加算件数									1,575

薬剤管理指導業務及び無菌調整加算を含め、6,161,650円となり昨年度に比べ70%ほどに減じている。しかしながら持参薬の有効利用、処方支援等病棟薬剤業務は活発に行ってきており来年度は当業務加算所得は可能であろう。

ウ 注射剤混合業務

区分	無菌調剤処方件数		無菌調整件数（中心静脈）	調整本数
年間	2,502		1,626	2,103
	化学療法 調整	入院	180	427
		外来	7	

エ 麻薬管理業務

区分	処方箋枚数		
	内服	外用	注射
年間	240	149	1,173

オ 血液製剤管理業務

区分	件数
年間	23

カ 院内製剤業務

区分	件数
年間	152

4 給食



管理栄養士 嘉山 有太

○活動状況

(1) 平成25年度のトピックス

ア 電子カルテの導入及び給食システムの変更

今年度は、平成26年1月からの電子カルテ導入へ向け力を入れた1年であった。電子カルテ導入に伴い給食システムの変更も行われたため、それぞれのマスタ作成、運用確認などに多くの時間を費やした。現状大きなトラブルはなく電子カルテ及び給食システムの運用はできおり、業務の効率化につながっている。

(2) 業務実績

ア 栄養食事指導

(ア) 業務実績

今年度は指導件数が減少したため、今後は電子カルテを有効活用し件数の増加へつなげたい。

(イ) 栄養食事指導実績数表

(単位：件)

区分 \ 年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
入院患者	88	122	86
外来患者	67	44	43
合計	155	166	129

イ 給食業務

(ア) 業務実績

近年の傾向は特別食の増加と経管栄養の減少である。特別食の増加は患者個々に応じた適切な栄養管理を行うためであり、経管栄養の減少は胃瘻造設患者の減少によるものと考えられる。

(イ) 年度別食数表

(単位：食)

区分		年度		
		平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
患者給食数	一般食	73,488	76,529	71,696
	特別食	13,028	15,513	20,176
	経管栄養	6,526	4,440	2,464
	小計	93,042	96,482	94,336
患者外給食数		2,673	2,208	2,321
合計		95,715	98,690	96,657

(ウ) 平成 25 年度 月別食数表

(単位：食)

区分 月	患者給食数				患者外 給食数	合計
	一般食	特別食	経管栄養	小計		
4 月	6,260	1,364	96	7,720	180	7,900
5 月	5,720	1,505	197	7,422	186	7,608
6 月	5,104	1,951	114	7,169	180	7,349
7 月	5,959	2,061	158	8,178	202	8,380
8 月	6,062	1,907	218	8,187	205	8,392
9 月	5,757	1,417	124	7,298	211	7,509
10 月	5,789	1,695	266	7,750	207	7,957
11 月	5,658	1,863	333	7,854	199	8,053
12 月	5,693	1,535	235	7,463	204	7,667
1 月	6,918	1,640	229	8,787	186	8,973
2 月	6,430	1,544	276	8,250	173	8,423
3 月	6,346	1,694	218	8,258	188	8,446
合計	71,696	20,176	2,464	94,336	2,321	96,657

5 事務局



副管理者 石渡 秀朗

○活動状況

(1) 平成25年度のトピックス

ア 庶務担当業務

三浦市立病院改革プランに基づき各種経営効率化の取組を実施した。この結果、三浦市立病院改革プランの収支計画の目標である単年度資金収支の黒字化及び経常損益の黒字化を平成23年度から3年連続で達成した。

イ 医事担当業務

電子カルテ導入を含む病院業務医療情報システムを導入することにより、診療業務の安全性及び効率性の向上を図った。また、当該システムと連動する電子情報案内板を設け、診察の順番や院内アナウンスをわかりやすく表示し、待ち時間に関するストレスを少しでも軽減することに努めた。

(2) 業務実績

ア 経理

(ア) 業務実績

本年度の事業収益は、2,478,248,635円で、これに対して事業費用は、2,383,257,786円となり、収入、支出差引き94,990,849円の黒字である

事業収益2,478,248,635円の内容は、医業収益2,344,199,453円、医業外収益134,049,182円である。

一方、事業費用2,383,257,786円の内容は、医業費用2,259,115,016円、医業外費用110,692,660円、特別損失13,450,110円である。

(イ) 事業収益に関する事項

区分	平成25年度
医業収益	2,344,199,453 円
医業外収益	134,049,182 円
事業収益	2,478,248,635 円

(ウ) 事業費用に関する事項

区分	平成 25 年度
医業費用	2,259,115,016 円
医業外費用	110,692,660 円
特別損失	13,450,110 円
事業費用	2,383,257,786 円

イ 医療機器

(ア) 業務実績

医療機器等については、診療の安全性及び効率化を図るため、超音波白内障手術装置、患者送迎車、人工呼吸器（2台）、CT撮影装置一式、病院業務医療情報システム、財務会計システム、訪問看護・訪問リハビリテーション用軽自動車、血圧脈波検査装置、画像処理装置DR-200X、病院医療情報システム機器追加等の整備を図った。

(イ) 器械備品取得の概況

購入年月日	品名	金額（円）	購入先
平成 25 年 8 月 19 日	超音波白内障装置	16,254,500	協和医科器械(株)横浜支店
平成 25 年 9 月 17 日	患者送迎車	2,490,600	(有)丸石製作所
平成 25 年 9 月 25 日	人工呼吸器（2台）	3,515,400	アイ・エム・アイ(株)
平成 25 年 9 月 30 日	CT撮影装置一式	49,121,625	東芝メディカルシステムズ(株)
平成 25 年 12 月 13 日	病院業務医療情報システム	330,996,298	都築電機(株)神奈川支店
平成 25 年 12 月 16 日	財務会計システム	6,911,100	都築電機(株)神奈川支店
平成 25 年 12 月 25 日	訪問看護・訪問リハビリテーション用軽自動車	1,297,800	木村自動車工業(株)
平成 26 年 1 月 17 日	血圧脈波検査装置	1,260,000	メディカルサイエンス(株)
平成 26 年 2 月 8 日	画像処理装置 DR-2000X	3,500,000	(株)日立メディコ
平成 26 年 3 月 14 日	病院医療情報システム機器追加	1,454,260	都築電機(株)神奈川支店

Ⅲ 委員会の状況

1 三浦市立病院リスクマネジメント委員会



委員長 石渡 秀朗（副管理者）

○活動状況

（1）委員会設置の目的

委員会は、次に掲げる事項を所掌し、必要な施策等の立案、意見調整、審議決定、情報共有及び実施を行う。

- ア 医療事故防止対策に関すること。
- イ 医療事故の分析及び再発防止策に関すること。
- ウ 訴訟及び和解に関すること。
- エ その他医療事故に関すること。

（2）活動実績

① 委員会の開催

ア 第1回「リスクマネジメント部会」

- a 開催日時及び場所
平成25年4月23日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
指差し確認及びダブル確認の徹底を確認した。
- c 参加人数 14名

イ 第2回「リスクマネジメント部会」

- a 開催日時及び場所
平成25年5月28日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
報告の迅速性に資すること。
- c 参加人数 12名

ウ 第3回「リスクマネジメント部会」

- a 開催日時及び場所
平成25年6月25日 三浦市立病院会議室

- b 活動内容
胃カメラの同意書は、初回と入院中の1回に限り作成することが決定した。
 - c 参加人数 15名
- エ 第4回「リスクマネジメント委員会」
- a 開催日時及び場所
平成25年7月23日 三浦市立病院会議室
 - b 活動内容
7月1日付新体制の報告
 - c 参加人数 17名
- オ 第5回「リスクマネジメント委員会」
- a 開催日時及び場所
平成25年8月27日 三浦市立病院職員食堂兼会議室
 - b 活動内容
休日リハビリにおける緊急時対応マニュアル素案の提出
 - c 参加人数 9名
- カ 第6回「リスクマネジメント委員会」
- a 開催日時及び場所
平成25年9月24日 三浦市立病院会議室
 - b 活動内容
休日リハビリにおける緊急時対応マニュアルについて承認した。
院内暴力対策マニュアルの整備について検討した。
 - c 参加人数 11名
- キ 第7回「リスクマネジメント委員会」
- a 開催日時及び場所
平成25年10月22日 三浦市立病院会議室
 - b 活動内容
院内暴力対策マニュアルについて承認した。
 - c 参加人数 12名
- ク 第8回「リスクマネジメント委員会」
- a 開催日時及び場所
平成25年11月26日 三浦市立病院会議室

- b 活動内容
入院案内における転倒のインフォメーションについて、冊子の変更を検討した。
転倒とリハビリの因果関係について、詳しく調査することが決定した。
 - c 参加人数 12名
- ケ 第9回「リスクマネジメント委員会」
- a 開催日時及び場所
平成25年12月24日 三浦市立病院会議室
 - b 活動内容
入院案内の冊子について、差込形式のご案内を追加することが決定した。
 - c 参加人数 14名
- コ 第10回「リスクマネジメント委員会」
- a 開催日時及び場所
平成26年1月28日 三浦市立病院会議室
 - b 活動内容
医療材料スターレットの不具合に対する勧告
レポート提出の迅速性に資すること。
 - c 参加人数 12名
- サ 第11回「リスクマネジメント委員会」
- a 開催日時及び場所
平成26年2月25日 三浦市立病院会議室
 - b 活動内容
インシデントレポート・医療事故報告等の運用について、通知を出すことが決定した。
 - c 参加人数 13名
- シ 第12回「リスクマネジメント委員会」
- a 開催日時及び場所
平成26年3月25日 三浦市立病院会議室
 - b 活動内容
事例報告、分析及び対策防止策についての検討
 - c 参加人数 11名

② 研修

ア 新入職者研修

- a 開催日時及び場所
平成25年4月12日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
テーマ「医療安全について」
講師 医療安全管理担当
- c 参加人数 23名

イ 薬学部実習生研修

- a 開催日時及び場所
平成25年5月16日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
テーマ「医療安全について」
講師 医療安全管理担当
- c 参加人数 1名

ウ 第1回 院内研修

- a 開催日時及び場所
平成25年6月18日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
テーマ「外科手術における医療安全の取り組み」
講師 外科医師 青山徹先生
- c 参加人数 30名

エ 第1回 看護助手研修

- a 開催日時及び場所
平成25年12月12日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
テーマ「看護助手の医療安全について」
講師 医療安全管理担当
- c 参加人数 10名

オ 第2回 看護助手研修

- a 開催日時及び場所
平成25年12月13日 三浦市立病院会議室

- b 活動内容
テーマ「看護助手の医療安全について」
講師 医療安全管理担当
- c 参加人数 10名

カ 第2回 院内研修

- a 開催日時及び場所
平成26年2月28日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
テーマ「薬剤（医薬品）使用におけるリスクマネジメント」
講師 薬局長
- c 参加人数 15名

2 三浦市立病院感染対策委員会（ICC）



委員長 小澤 幸弘（総病院長）

○活動状況

（1）設置目的

平成25年7月1日に要領の改正を行い、名称を院内感染対策部会から感染対策委員会に改めるとともに、所掌事項等の見直しを行った。

当委員会は、医療関連感染に対する感染防止対策に関し、組織を横断して行うべき施策の立案、意見調整、審議決定、情報共有及び実施のため設置されているが、院内にとどまらず地域の感染防止対策にも注力し、次に掲げる任務を遂行している。

- ア 院内感染発生時及び発生が疑われる際の患者への対応に関すること。
- イ 院内感染の発生原因の分析、改善策の立案、実施及び見直し並びに病院職員に対する周知に関すること。
- ウ 地域の医療機関、保健福祉施設等からの医療関連感染に関する支援に関すること。
- エ 感染対策チーム（ICT）への助言及び支援に関すること。
- オ その他感染対策に関すること。

当委員会の下部組織として、医療関連感染対策上の実践チームである感染対策チーム（ICT）及び臨床現場の役割モデルとしての感染対策リンクナース会を設置し、院内感染対策や職業感染防止などに関連する知識、技術等の職員への周知を実施している。

（2）活動実績

① 委員会の開催

ア 第1回院内感染対策部会

a 開催日及び場所

平成25年4月5日（金） 三浦市立病院2階会議室

b 議事

- ・M一覧3月（2013年）について
- ・抗MRSA薬品使用患者リスト（H25.3）について
- ・面会制限について
- ・感染症職員/患者報告
- ・感染管理情報（インフルエンザ・針刺し切創）

- ・院内感染対策部会設置要領の一部改正等について

c 出席人数 9人

イ 第2回院内感染対策部会

a 開催日及び場所

平成25年5月17日(金) 三浦市立病院2階会議室

b 議事

- ・M一覧4月(2013年)について
- ・抗MRSA薬品使用患者リスト(H25.4)について
- ・院内感染対策部会設置要領の一部改正案について
- ・鳥インフルエンザ(H7N9)を疑う患者対応について
- ・感染管理情報(結核疑い)
- ・研修について
- ・リハビリテーション科からの提案(環境クロス・ハンドクリーム)
- ・風しんの抗体価検査等について
- ・地域連携におけるインフルエンザに関する情報提供

c 出席人数 10人

ウ 第3回院内感染対策部会

a 開催日及び場所

平成25年6月7日(金) 三浦市立病院2階会議室

b 議事

- ・M一覧5月(2013年)について
- ・抗MRSA薬品使用患者リスト(H25.5)について
- ・感染管理情報(レジオネラ症)
- ・抗体価検査について
- ・感染症連絡会議の報告について
- ・リハビリテーション科からの提案(環境クロス)

c 出席人数 9人

エ 第4回感染対策委員会

a 開催日及び場所

平成25年7月12日(金) 三浦市立病院医事DPC室

b 議事

- ・M一覧6月(2013年)について

- ・抗 MRSA 薬品使用患者リスト (H25.6) について
- ・抗体価検査について
- ・院内感染対策サーベイランスについて
- ・三浦市立病院感染対策組織図の一部改正について
- ・針刺し事故報告について
- ・公開講座について

c 出席人数 10人

オ 第5回感染対策委員会

a 開催日及び場所

平成25年8月2日(金) 三浦市立病2階会議室

b 議 事

- ・M一覧7月(2013年)について
- ・抗 MRSA 薬品使用患者リスト (H25.7) について
- ・感染症患者報告
- ・MRSA 患者の割合・MRSA 感染率について
- ・手足口病について
- ・麻疹・風疹の抗体価検査について
- ・中心静脈カテーテルのマニュアルについて
- ・カンファレンスの予定について
- ・薬剤師会での講義について

c 出席人数 8人

カ 第6回感染対策委員会

a 開催日及び場所

平成25年9月5日(木) 三浦市立病院医事DPC室

b 議事

- ・M一覧8月(2013年)について
- ・抗 MRSA 薬品使用患者リスト (H25.8) について
- ・使用制限抗菌薬チェック表 (H25.8月) について
- ・結核及び結核疑い患者の面会制限について
- ・薬剤師会での講義について
- ・公開講座について
- ・麻しん・風しん抗体価検査及びMRワクチン接種について

c 出席人数 12人

キ 第7回感染対策委員会

a 開催日及び場所

平成25年10月4日(金) 三浦市立病院2階会議室

b 議事

- ・M一覧9月(2013年)について
- ・抗MRSA薬品使用患者リスト(H25.9)について
- ・使用制限抗菌薬チェック表(H25.9月)について
- ・接触者健診の実施(マニュアル)について
- ・感染管理情報(血液曝露)
- ・麻しん・風しん抗体価検査及びMRワクチン接種について
- ・伝達講習実施報告
- ・公開講座の実施について
- ・感染院内研修の実施について

c 出席人数 7人

ク 第8回感染対策委員会

a 開催日及び場所

平成25年11月8日(金) 三浦市立病院地下食堂

b 議事

- ・M一覧10月(2013年)について
- ・抗MRSA薬品使用患者リスト(H25.10)について
- ・使用制限抗菌薬チェック表(H25.10月)について
- ・マニュアルの追加について
- ・ノロウイルスマニュアルの改訂について
- ・感染管理情報(疥癬)
- ・院内研修の実施について
- ・横須賀・三浦院内感染フォーラムの開催について
- ・針刺し後のフォローについて

c 出席人数 12人

ケ 第9回感染対策委員会

a 開催日及び場所

平成25年12月18日(水) 三浦市立病院地下食堂

b 議事

- ・M一覧11月(2013年)について
- ・抗MRSA薬品使用患者リスト(H25.11)について

- ・使用制限抗菌薬チェック表（H25.11月）について
- ・インフルエンザの対応について
- ・感染管理情報（針刺し切創）
- ・院内研修報告について
- ・角化型疥癬の対応について

c 出席人数 10人

コ 第10回感染対策委員会

a 開催日及び場所

平成26年1月17日（金） 三浦市立病院2階会議室

b 議事

- ・M一覧12月（2013年）について
- ・抗MRSA薬品使用患者リスト（H25.12）について
- ・使用制限抗菌薬チェック表（H25.12月）について
- ・感染管理情報（針刺し切創）

c 出席人数 11人

サ 第11回感染対策委員会

a 開催日及び場所

平成26年2月7日（金） 三浦市立病院2階会議室

b 議事

- ・M一覧1月（2014年）について
- ・抗MRSA薬品使用患者リスト（H26.1）について
- ・使用制限抗菌薬チェック表（H26.1月）について
- ・新型インフルエンザ対策における帰国者・接触者外来設置医療機関の指定について
- ・感染症患者/職員の報告
- ・使用制限抗菌薬使用届出書の一部変更について
- ・アンチバイオグラムについて

c 出席人数 11人

シ 第12回感染対策委員会

a 開催日及び場所

平成26年3月7日（金） 三浦市立病院2階会議室

b 議事

- ・M一覧2月（2014年）について

- ・抗 MRSA 薬品使用患者リスト (H26.2) について
- ・使用制限抗菌薬使用患者リスト (H26.2 月) について
- ・感染症患者/職員の報告
- ・感染管理情報 (麻疹疑い患者)
- ・平成 26 年度職業感染対策としての抗体価検査及びワクチン接種勧奨の提案
- ・角化型疥癬の経過について まとめ②

c 出席人数 12人

② 研修

ア 院内全体研修

- a 平成 25 年 11 月 28 日 (木)「平成 25 年度 第 1 回 院内感染対策講習会」
対象者：病院職員 テーマ「ウイルス性肝炎・血液媒介感染症について」
講師：三浦市立病院 感染対策リンクナース
参加者：30名
- b 平成 26 年 3 月 24 日 (月)「平成 25 年度 第 2 回 院内感染対策講習会」
対象者：病院職員 テーマ「抗菌薬について」
講師：三浦市立病院 ICT 薬局 今村里絵
参加者：24名

イ 感染対策公開講座

- a 平成 25 年 5 月 21 日 (火)
テーマ「手洗いと手指消毒」
参加者：27名 (院外 20名・院内 7名)
- b 平成 25 年 7 月 16 日 (火)
テーマ「疥癬について」
参加者：24名 (院外 7名・院内 17名)
- c 平成 25 年 9 月 24 日 (火)
テーマ「ノロウイルスについて」
参加者：22名 (院外 14名・院内 8名)
- d 平成 25 年 11 月 5 日 (火)
テーマ「インフルエンザについて」
参加者：23名 (院外 13名・院内 10名)

ウ 感染対策出前講座（健康宅配便）

- a 平成25年8月5日（月） 会場：佐藤薬局初声店
対象者：三浦市薬剤師会薬剤師他 テーマ「疥癬について」
参加者：20名

- b 平成25年10月22日（火） 会場：上宮田小学校内学童保育とびうおクラブ
対象者：学童保育指導員
テーマ「ノロウイルス・インフルエンザウイルス感染対策」
参加者：13名

- c 平成25年11月15日（金） 会場：油壺マリーナヒルズ
対象者：油壺マリーナヒルズ職員 テーマ「疥癬について」
参加者：18名

③ その他の活動

ア 感染防止対策カンファレンス

- a 平成25年5月10日（金）「ICT 合同カンファレンス」
会場：横須賀共済病院
参加施設：横須賀共済病院、三浦市立病院

- b 平成25年7月5日（金）「ICT 合同カンファレンス」
会場：横須賀共済病院分院
参加施設：横須賀共済病院、横須賀共済病院分院、三浦市立病院

- c 平成25年9月6日（金）「ICT 合同カンファレンス」
会場：横須賀共済病院
参加施設：横須賀共済病院、横須賀共済病院分院、聖ヨゼフ病院、湘南病院、
三浦市立病院

- d 平成25年11月1日（金）「ICT 合同カンファレンス」
会場：横須賀共済病院
参加施設：横須賀共済病院、横須賀共済病院分院、聖ヨゼフ病院、湘南病院、
自衛隊横須賀病院、三浦市立病院

- e 平成26年1月31日（金）「感染防止対策カンファレンス」

会場：三浦市立病院

参加施設：横須賀共済病院分院、三浦市立病院

イ 地域連携相互評価

- a 平成25年10月30日（水）「感染防止対策相互評価」

会場：衣笠病院

評価施設：三浦市立病院

- b 平成25年11月27日（水）「感染防止対策相互評価」

会場：三浦市立病院

評価施設：衣笠病院

ウ 演題発表

平成25年5月25日（土）

第63回（平成25年度）神奈川県国民健康保険団体連合会 診療施設部会

会場：小田原お堀端コンベンションホール

演題：「三浦市立病院における院内感染対策—院内にいるすべての人が感染しない・させないために—」

演者：杉崎 絵美（看護科）

エ サーベイランス

- a 厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業（JANIS）全入院患者部門

目的：全入院患者を対象とし、主要な薬剤耐性菌による感染症患者の発生率に関するデータを継続的に収集・解析し、医療機関における薬剤耐性菌による感染症の発生状況を明らかにする。

評価：耐性菌の検出は MRSA のみであり、その感染症患者数は月平均 1.08 人であり、MRSA 感染率は年平均 2.96%であった。対象医療機関 495 施設の平成 24 年の MRSA 感染率は年平均 4.38%であり、比較をすると低い値である。当院は、病床数が他の対象医療機関と比べ少ないため、感染症患者 1 名の増加が感染率に大きく影響を及ぼすこととなる。

※1 感染症患者数 = (新規感染症患者数) + (継続感染症患者数)

※2 感染率 (%) = (感染症患者数) ÷ (総入院患者数) × 1000

- b 厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業（JANIS）SSI 部門

目的：術後に発生する手術部位感染（SSI）のリスク因子ごとの発生率やその原因菌に関するデータを継続的に収集・解析し、医療機関における SSI

の発生状況を明らかにする。

評価：平成25年の対象医療機関351施設の手術件数と比較をすると、当院の手術件数は10パーセントから25パーセントに近い値をとる。また、SSI発生率（%）は、25パーセントから90パーセントの範囲に分布し、当院における件数の少ない術式によるSSI発生は、他の対象医療機関と比べてより大きい感染率になっているといえる。これらを総合的に勘案すると当院のSSI発生率は高値であるとはいえない。

- ※1 JANIS SSI 部門 公開情報2013年年報をもとに作成
- ※2 対象期間は、平成25年1月1日～12月31日
- ※3 全体のSSI発生率＝（集計対象医療機関のSSI件数合計）÷（集計対象医療機関の手術件数合計）×100

オ ICT ラウンド

週1回 ICT ラウンドを実施した。実施内容は、基本的に院内の環境ラウンドを実施としたが、それ以外でも必要に応じて耐性菌ラウンドや抗菌薬ラウンドを実施した。また、ATP モニタリングシステムを利用して、院内各所の高頻度接触表面や物品の汚染度を数値化し、意識を高める取組も行った。

カ 職業感染対策の充実

病院職員に対する職業感染対策の中で、流行性ウイルス疾患に対する対策の充実を図った。全国的な風疹の流行も考慮し、職員健康診断で麻疹・風疹抗体価検査を実施し、対象の職員に対してMRワクチン接種の勧奨を行った。

キ 三浦市立病院アンチバイオグラム

治療にあたる医師が抗菌薬の選択に役立たせること及び抗菌薬適正使用の実施を目的として、「三浦市立病院アンチバイオグラム」を作成した。

3 三浦市立病院褥瘡対策委員会



委員長 石田 良太 (医師)

○活動状況

(1) 委員会設置の目的

褥瘡の予防等に関し、三浦市立病院において組織を横断して行うべき施策等の立案、意見調整、審議決定、情報の共有及び実施のため、三浦市立病院褥瘡対策委員会を設置する。

(2) 活動実績

① 委員会の開催

ア 第1回 褥瘡対策委員会会議

a 開催日 平成25年4月4日

b 場所 2階会議室

c 活動内容

(a) 褥瘡回診について

- ・担当医師が多忙になり同行できない場合でも担当看護師でラウンドを実施していく。
- ・回診時以外に、デブリが必要な時は、担当医師（石田 Dr）宛てに併診依頼するか患者の状況報告し依頼する。

(b) エアーマットの管理について

- ・エアーマットの稼働状況の把握

現在21台あり、褥瘡ラウンド時に使用状況をチェックしPCへの入力を行う。

参加者 7名

イ 第2回 褥瘡対策委員会会議

a 開催日 平成25年5月2日

b 場所 2階会議室

c 活動内容

(a) TENA導入について

- ・5月1日よりTENA導入。半年間は試用期間。
オムツの着用方法、漏れないおむつの当て方等の説明と演習実施

1 週間はT E N A 担当者が一緒にラウンドしながら指導に入る。

参加者 6名

ウ 第3回 褥瘡対策委員会会議

a 開催日 平成25年6月6日

b 場所 2階会議室

c 活動内容

(a) T E N A のオムツ使用し手の各階の状況

- ・ 2階 痩せている人のオムツの漏れが目立つ。皮膚トラブルも見られてきている。
- ・ 3階 オムツシートの記入方法の変更、再教育を実施して取り組んでいる。マキシの多用は控えるようにして合うものを使用するようにしている。
- ・ 4階 トラブルはあまりない

参加者 4名

エ 第4回 褥瘡対策委員会会議

a 開催日 平成25年7月4日

b 場所 2階会議室

c 活動内容

(a) T E N A 使用状況についての意見交換

- ・ 2階 漏れはあるがかぶれはない
- ・ 3階 オムツ交換時のルール作成
- ・ 4階 漏れもなくトラブルなし

T E N A からのアドバイス：白癬が出たら、オムツ回数を増やす

参加者 5名

オ 第5回 褥瘡対策委員会会議

a 開催日 平成25年9月5日

b 場所 2階会議室

c 活動内容

(a) エアーマットについて

- ・ 空気が多いので対象者には積極的に使用していく。

(b) 公開講座について

- ・ 9月は2階担当。

(c) モイスキンパッドについて

一番大きいものは定数から除外する。必要時は臨時請求とする。少サイズが新しく導入されたので、使用頻度が高くなるようであれば各セクションでSPDに定数化してもらうこと。

参加者 6名

カ 第6回 褥瘡対策委員会会議

a 開催日 平成25年10月3日

b 場所 2階会議室

c 活動内容

(a) TENA よりウォッシュクリームの商品説明

(b) 電子カルテ導入について

- ・現在使用している褥瘡対策に関する診療計画書の内容について一部OHスケールを導入する予定

参加者 6名

キ 第7回 褥瘡対策委員会会議

a 開催日 平成25年11月7日

b 場所 2階会議室

c 活動内容

(a) 褥瘡回診

- ・褥瘡保有者：6名（2階 3名、3階 2名、4階 1名）

(b) 褥瘡対策に関する診療計画書について

- ・診療計画書の記入にあたり、褥瘡の有無・過去の発生状況など入院時の状況の評価するための手順用紙を作成。

(c) 電子カルテ導入にあたって

- ・電子カルテ導入時は、今回導入するものに入っているものを使用。
- ・H26年4月から当院用に作成した物を使用できるように作成・準備していく

(d) エアーマット使用状況確認

参加者 6名

ク 第8回 褥瘡対策委員会会議

a 開催日 平成25年12月5日

b 場所 2階会議室

c 活動内容

(a) 褥瘡回診

- ・褥瘡保有者：(2階 3名、3階 2名、4階 0名)
- (b) T E N A担当者より
 - ・T E N Aのオムツセットに切り替えてから、現在まで適正に使用され、コストダウン出来てきている。
 - ・スキンケア用品については病院での購入や、柴橋セットへの導入は現時点では厳しい状況にある。

参加者 4名

ケ 第9回 褥瘡対策委員会会議

- a 開催日 平成26年1月16日
- b 場所 地下食堂兼会議室
- c 活動内容

(a) 電子カルテについて

- ・褥瘡管理記録用紙は、現段階では今までの用紙を引き続き使用していく。褥瘡回診したら、電子カルテに褥瘡回診の記録を残しておく。
- ・褥瘡のある患者には褥瘡の看護計画の立案を必ず行う。
- ・今後、褥瘡対策に関する診療計画書も導入していく予定

参加者 4名

コ 第10回 褥瘡対策委員会会議

- a 開催日 平成26年2月6日
- b 場所 2階会議室
- c 活動内容

(a) 看護師による褥瘡ラウンド

- ・褥瘡保有者(2階 0名、3階 2名、4階 2名)

(b) 耐圧分散マットレス不足

- ・体位変換枕40個購入検討

参加者 5名

サ 第11回 褥瘡対策委員会会議

- a 開催日 平成26年3月6日
- b 場所 2階会議室
- c 活動内容

(a) 看護師による褥瘡ラウンド

- ・褥瘡保有者(2階 0名、3階 2名、4階 4名)

(b) 耐圧分散マットレス不足

- ・体位変換枕 50 個購入 各病棟に配布
- (c) 25 年度反省
 - ・褥瘡の公開講座やポジショニングのように実践型のほうが勉強になったという意見があった。次年度は研修内容を変更しわかりやすくしていきたい。
 - ・耐圧分散マット・枕の管理がなかなかできなかった。
来年度の管理をどうしていくか検討していく必要がある。

褥瘡持ち込み 発生率について

(単位：件)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
褥瘡持ち込み	10	6	6	0	2	5	8	2	4	4	3	7
褥瘡院内発生	2	2	1	1	0	1	0	2	0	0	0	0
合計	12	8	7	1	2	6	8	4	4	4	3	7
病床数全体	105.5	102	99.3	106.1	107	101.6	102.6	107	103	119.3	125.8	110.4
持ち込み率	9.4%	5.8%	5.5%		1.8%	4.9%	7.7%	1.8%	3.8%	3.3%	2.3%	6.3%
発生率	1.8%	1.9%	1.0%	0.9%		0.9%		1.8%				

持ち込み率 平均 4.4%

発生率 平均 0.7%

② 研修

ア 第1回 褥瘡研修

a 開催日

平成25年6月14日

b テーマ

褥瘡ケア 褥瘡の原因と予防

講師：看護師 長島好美 場所 三浦市立病院 2階会議室

参加者 37名

イ 第2回 褥瘡研修

a 開催日

平成25年9月20日

b テーマ

褥瘡に使用する外用薬について

褥瘡の管理～創部のケアを中心に

講師：薬局 福本哲也 看護師 長島好美

参加者 27名

ウ 第3回 褥瘡研修

a 開催日

平成25年12月10日

b テーマ

褥瘡対策 耐圧管理について

講師：看護師 長島好美

参加者 16名

③ その他

各病棟 褥瘡患者の回診

褥瘡耐圧分散マット使用状況確認

a 開催日

第1・第3木曜日 15時30分～

b 場所

各病棟

c 活動内容

(a) 褥瘡のある患者の回診を行い、適切な治療が行われること

(b) 記録を残し、情報を共有する

d 参加人数

医師 1名 看護師 6名 薬剤師 1名

4 三浦市立病院接遇向上委員会



委員長 園田 恵美子（看護師長）

○活動状況

（1）委員会設置の目的

（設置）

接遇の向上に関し、三浦市立病院において組織を横断して行うべき施策等の立案、意見調整、審議決定、情報共有及び実施のため、三浦市立病院接遇向上委員会を設置する。

（所掌事項）

委員会は、次に掲げる事項を所掌し、必要な審議、決定、情報交換及び施策を行う。

- ア 相手を大切に思う心を表す対応に関すること。
- イ 表情、言葉づかい、身だしなみ及び態度に関すること。
- ウ 信頼、安心感、納得及び癒しを満たす対応に関すること。
- エ 質の高いサービスに関すること。
- オ 接遇研修に関すること。
- カ その他接遇に関すること。

（2）活動実績

① 委員会の開催

ア 第1回「接遇向上委員会」

- a 開催日及び場所
平成25年5月15日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
担当グループ分け
- c 参加人数 8名

イ 第2回「接遇向上委員会」

- a 開催日及び場所
平成25年6月19日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
平成25年度目標 発表

各担当グループ年間スケジュール作成

アンケート作成

c 参加人数 10名

ウ 第3回「接遇向上委員会」

a 開催日及び場所

平成25年7月17日 三浦市立病院会議室

b 活動内容

接遇ポスター作成

チェックリスト内容の検討

c 参加人数 11名

エ 第4回「接遇向上委員会」

a 開催日及び場所

平成25年9月18日 三浦市立病院会議室

b 活動内容

院内ラウンドについて検討

c 参加人数 4名

オ 第5回「接遇向上委員会」

a 開催日及び場所

平成25年10月16日 三浦市立病院会議室

b 活動内容

担当グループ進行状況報告及び課題

c 参加人数 8名

カ 第6回「接遇向上委員会」

a 開催日及び場所

平成25年11月20日 三浦市立病院会議室

b 活動内容

担当グループ進行状況報告

c 参加人数 8名

キ 第7回「接遇向上委員会」

a 開催日及び場所

平成26年2月19日 三浦市立病院会議室

- b 活動内容
担当グループ進行状況報告及びアンケート集計
- c 参加人数 9名

ク 第8回「接遇向上委員会」

- a 開催日及び場所
平成26年3月19日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
各担当進行報告
- c 参加人数 9名

② 研修

ア 第1回「クレーム対応」

- a 開催日及び場所
平成25年11月20日 三浦市立病院会議室
- b 講師
三浦市立病院看護担当部長
佐藤 清江
- c 参加人数 39名

イ 第2回「クレーム対応」

- a 開催日及び場所
平成26年3月25日 三浦市立病院会議室
- b 講師
三浦市立病院看護担当部長
佐藤 清江
- c 参加人数 24名

5 三浦市立病院 NST 委員会



委員長 来田 亮二 (医師)

○活動状況

(1) 委員会設置の目的

栄養管理を症例個々や各疾患治療に応じて適切に実施すること等に関し、三浦市立病院において組織を横断して行うべき施策等の立案、意見調整、審議決定、情報共有及び実施のため、三浦市立病院NST委員会を設置する。

委員会は、次に掲げる事項を所掌し、必要な施策等の立案、意見調整、審議決定、情報共有及び実施を行う。

- ① 適切な栄養管理法の選択に関すること。
- ② 適切かつ質の高い栄養管理の提供に関すること。
- ③ 早期栄養障害の発見及び早期栄養療法の開始に関すること。
- ④ 栄養療法による合併症の予防に関すること。
- ⑤ 疾患罹患率及び死亡率の減少に関すること。
- ⑥ 病院スタッフへの栄養管理に関する知識の啓蒙及び修得に関すること。
- ⑦ 医療安全管理の確立及びリスクの回避に関すること。
- ⑧ 栄養素材及び資材の適正使用による経費削減に関すること。
- ⑨ 在院日数の短縮及び入院費の節減に関すること。
- ⑩ 在宅治療症例の再入院及び重症化の抑制に関すること。
- ⑪ その他栄養管理に関すること。

(2) 活動実績

① 委員会の開催

ア 第1回「NST委員会」

a 開催日時及び場所

平成25年4月11日 三浦市立病院地下食堂

b 活動内容

昨年度の振り返り、今年度の目標・年間計画・活動内容について

c 参加人数 6人

イ 第2回「NST委員会」

a 開催日時及び場所

平成25年5月1日 三浦市立病院地下食堂

b 活動内容

今年度の目標・年間計画の確認、摂食機能療法について

- c 参加人数 8人

- ウ 第3回「NST委員会」
 - a 開催日時及び場所
平成25年6月5日 三浦市立病院2階会議室
 - b 活動内容
ラウンド報告、摂食機能療法の算定、研修企画について
 - c 参加人数 8人

- エ 第4回「NST委員会」
 - a 開催日時及び場所
平成25年7月3日 三浦市立病院2階会議室
 - b 活動内容
ラウンド、研修について
 - c 参加人数 6人

- オ 第5回「NST委員会」
 - a 開催日時及び場所
平成25年9月4日 三浦市立病院2階会議室
 - b 活動内容
ラウンド報告、勉強会、経管栄養、嚥下訓練について
 - c 参加人数 9人

- カ 第6回「NST委員会」
 - a 開催日時及び場所
平成25年10月2日 三浦市立病院2階会議室
 - b 活動内容
ラウンド報告、勉強会、CV管理票について
 - c 参加人数 9人

- キ 第7回「NST委員会」
 - a 開催日時及び場所
平成25年12月4日 三浦市立病院2階会議室
 - b 活動内容
ラウンド報告、摂食機能療法について

c 参加人数 7人

ク 第8回「NST委員会」

a 開催日時及び場所

平成26年1月22日 三浦市立病院地下食堂

b 活動内容

ラウンド報告、電子カルテ導入後の体制について

c 参加人数 5人

ケ 第9回「NST委員会」

a 開催日時及び場所

平成26年2月5日 三浦市立病院2階会議室

b 活動内容

ラウンド報告、摂食機能療法、回診記録について

c 参加人数 7人

コ 第10回「NST委員会」

a 開催日時及び場所

平成26年3月7日 三浦市立病院地下食堂

b 活動内容

今年度の目標評価、今後の課題について

c 参加人数 7人

② 研修

ア 第1回「NST勉強会」

a 開催日時及び場所

平成25年6月5日 三浦市立病院2階会議室

b 活動内容

テーマ 「摂食嚥下障害の原因と嚥下食について」

講師 株式会社 クリニコ

c 参加人数 21人

イ 第2回「NST勉強会」

a 開催日時及び場所

平成25年10月3日 三浦市立病院2階会議室

b 活動内容

テーマ 「水・電解質輸液と高齢者の脱水」

講師 株式会社 大塚製薬工場

c 参加人数 19人

6 三浦市立病院CS向上委員会



委員長 佐藤 安志（事務長）

○活動状況

（1）委員会設置の目的

Customer Satisfaction つまり、顧客満足を追求・実践することを目的として設置されている。

（2）活動実績

① 委員会の開催

第1回「CS向上委員会」

a 開催日時及び場所

平成25年11月7日 三浦市立病院会議室

b 活動内容

三浦市民まつりでの市立病院ブースでの催事項目及び準備に関する打合せ

c 参加人数 9人

② 健康宅配便

ア 第1回「健康宅配便」

a 開催日時及び場所

平成25年10月1日 初声市民センター

b 活動内容

脱、メタボリアン作戦市民講座「糖尿病が疑われる時」

c 参加人数 31人

イ 第2回「健康宅配便」

a 開催日時及び場所

平成25年10月10日 三浦合同庁舎

b 活動内容

脱、メタボリアン作戦市民講座「糖尿病が疑われる時」

c 参加人数 53人

ウ 第3回「健康宅配便」

a 開催日時及び場所

平成25年10月10日 南下浦市民センター

- b 活動内容
脱、メタボリアン作戦市民講座「糖尿病が疑われる時」
- c 参加人数 50人

エ 第4回「健康宅配便」

- a 開催日時及び場所
平成25年10月22日 学童保育とびうおクラブ保育室
- b 活動内容
感染対策講習会「感染症への対策について」
- c 参加人数 13人

オ 第5回「健康宅配便」

- a 開催日時及び場所
平成25年11月15日 油壺マリーナヒルズ
- b 活動内容
研修会「疥癬について」
- c 参加人数 15人

カ 三浦市民まつり

- a 開催日時及び場所
平成25年11月24日 潮風アリーナ
- b 活動内容
血圧測定、血糖測定、肺年齢測定、糖尿病相談、AED体験、コスプレ撮影等
- c 参加人数 213人

③ 院内コンサート

ア 第1回「院内コンサート」

- a 開催日時及び場所
平成25年9月28日 三浦市立病院1階玄関ロビー
- b 活動内容
ロビー民舞
- c 参加人数 30人

イ 第2回「院内コンサート」

- a 開催日時及び場所

平成25年10月19日 三浦市立病院1階玄関ロビー

- b 活動内容
陽だまりミニコンサート
- c 参加人数 30人

ウ 第3回「院内コンサート」

- a 開催日時及び場所
平成25年12月14日 三浦市立病院1階玄関ロビー
- b 活動内容
クリスマスコンサート
- c 参加人数 50人

エ その他

随時活動している内容として、1階玄関ロビー脇の生け花、内科待合の押し絵の掲示板等を行っている。また、市内小中学校児童・生徒の作品を9月から3月まで内科待合に展示している。

7 三浦市立病院糖尿病疾病管理委員会



委員長 小澤 幸弘（総病院長）

○活動状況

（1）委員会設置の目的

地域が一体となった糖尿病の重症化及び合併症の予防等に関し、三浦市立病院において組織を横断して行うべき施策等の立案、意見調整、審議決定、情報共有及び実施のため、三浦市立病院糖尿病疾病管理委員会を設置した。

（2）活動実績

① 委員会の開催

ア 第1回「糖尿病疾病管理委員会」

a 開催日時及び場所

平成25年4月16日 三浦市立病院会議室

b 活動内容

糖尿病外来、病棟教育入院、フットケア外来、リハビリ、栄養指導、検査及び糖尿病教室についての話し合い

c 参加人数 17名

イ 第2回「糖尿病疾病管理委員会」

a 開催日時及び場所

平成25年5月21日 三浦市立病院会議室

b 活動内容

検査、病棟、フットケア外来及びリハビリについての話し合い

c 参加人数 16名

ウ 第4回「糖尿病疾病管理委員会」

a 開催日時及び場所

平成25年7月16日 三浦市立病院会議室

b 活動内容

検査、糖尿病外来、フットケア外来、リハビリ及び栄養指導についての話し合い

c 参加人数 17名

エ 第5回「糖尿病疾病管理委員会」

- a 開催日時及び場所
平成25年9月17日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
検査、健診、栄養指導、リハビリ及び病棟主治医についての話し合い
- c 参加人数 12名

オ 第6回「糖尿病疾病管理委員会」

- a 開催日時及び場所
平成25年10月15日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
糖尿病教育入院の担当主治医、フットケア外来及び検査についての話し合い
- c 参加人数 14名

カ 第7回「糖尿病疾病管理委員会」

- a 開催日時及び場所
平成25年11月19日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
検査、フットケア外来、リハビリ、常勤医師、当該委員会、病棟及び教育入院の主治医についての話し合い
- c 参加人数 15名

キ 第8回「糖尿病疾病管理委員会」

- a 開催日時及び場所
平成25年12月17日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
検査、糖尿病外来、フットケア外来、リハビリ、栄養指導、在宅診療及び脚のバイパス手術についての話し合い
- c 参加人数 14名

ク 第9回「糖尿病疾病管理委員会」

- a 開催日時及び場所
平成26年1月21日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
検査、糖尿病教育入院、糖尿病外来、来年度の体制及びリハビリについての話し合い

c 参加人数 13名

ケ 第10回「糖尿病疾病管理委員会」

a 開催日時及び場所

平成26年2月18日 三浦市立病院会議室

b 活動内容

検査、糖尿病教育入院、リハビリ、糖尿病外来及び来年度の体制についての話し合い

c 参加人数 13名

コ 第11回「糖尿病疾病管理委員会」

a 開催日時及び場所

平成26年3月18日 三浦市立病院会議室

b 活動内容

検査、糖尿病教育入院、リハビリ、糖尿病外来、フットケア外来及び栄養指導についての話し合い

c 参加人数 13名

8 三浦市立病院薬事委員会



委員長 堀内 俊治（医師）

○活動状況

（1）委員会設置の目的

- ア 院内における医薬品の適正な管理及び運用に関すること。
- イ 医薬品の採用及び削除に関すること。
- ウ 使用医薬品の適正な使用方法（厚生労働省発行の医薬品副作用情報の伝達等）に関すること。
- エ その他薬剤業務に関すること。
以上について必要な施策等の立案、意見調整、審議決定、情報共有及び実施を行う。

（2）活動実績

① 委員会の開催

ア 平成25年度第1回「薬事委員会」

a 開催日及び場所

平成25年4月19日 三浦市立病院2階会議室

b 活動内容

新委員の紹介

新規採用薬及び削除薬の検討により診療の向上及び在庫管理に資すること。

c 参加人数

6名

イ 平成25年度第2回「薬事委員会」

a 開催日及び場所

平成25年7月26日 三浦市立病院2階会議室

b 活動内容

新規採用薬及び削除薬の検討により診療の向上及び在庫管理に資すること。

- ・緑内障点眼薬の整理

c 参加人数 5名

ウ 平成25年度第3回「薬事委員会」

a 開催日及び場所

平成25年10月25日 三浦市立病院2階会議室

b 活動内容

新規採用薬及び削除薬の検討により診療の向上及び在庫管理に資すること。

- ・救急カートの配置部署の検証⇒内科救急カートの廃止

c 参加人数 4名

エ 平成25年度第4回「臨時薬事委員会」

a 開催日及び場所

平成25年11月22日 地下食堂兼会議室

b 活動内容

- ・採用薬等取扱いマニュアルの作成
- ・医薬品申請書の改訂
- ・電子カルテ導入に向けての準採用薬の登録

オ 平成25年度第5回「薬事委員会」

a 開催日及び場所

平成25年1月25日 三浦市立病院2階会議室

b 活動内容

新規採用薬及び削除薬の検討により診療の向上及び在庫管理に資すること。

c 参加人数 5名

(単位：品目)

平成25年度採用・削除状況				
区分	内用	注射	外用	計
新規採用	16	11(1)	5	32(1)
削除	19	6(1)	4(1)	29(2)
新規準採用	104(5)	5(1)	43(6)	152(12)
平成26年3月31日 採用状況				
区分	内用	注射	外用	計
採用薬品数	472(43)	332(43)	181(15)	985(101)
準採用薬品数	496(17)	6	163(17)	665(34)

()は後発品

9 三浦市立病院情報処理委員会



委員長 木谷 勇一（診療部長）

○活動状況

（1）委員会設置の目的

（設置）

I C Tに関し、三浦市立病院において組織を横断して行うべき施策等の立案、意見調整、審議決定、情報共有及び実施のため、三浦市立病院情報処理委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（所掌事項）

委員会は、次に掲げる事項を所掌し、必要な施策等の立案、意見調整、審議決定、情報共有及び実施を行う。

- （1）病院業務医療情報システムの運用等に関すること。
- （2）その他院内の情報処理に関すること

（2）活動実績

① 委員会の開催

ア 第1回「オーダーリング委員会」 ※第5回委員会より名称が変更となる。

a 開催日時及び場所

- ・平成25年4月18日 三浦市立病院地下食堂兼会議室

b 活動内容

- ・各課の報告と問題点に関すること

c 参加人数：5名

イ 第2回「オーダーリング委員会」

a 開催日時及び場所

- ・平成25年5月16日 三浦市立病院地下食堂兼会議室

b 活動内容

- ・各課の報告と問題点に関すること

c 参加人数：6名

ウ 第3回「オーダーリング委員会」

a 開催日時及び場所

- ・平成25年6月20日 三浦市立病院地下食堂兼会議室
 - b 活動内容
 - ・各課の報告と問題点に関する事
 - c 参加人数：6名
- エ 第4回「オーダリング委員会」
- a 開催日時及び場所
 - ・平成25年7月18日 三浦市立病院地下食堂兼会議室
 - b 活動内容
 - ・各課の報告と問題点に関する事
 - c 参加人数：5名
- オ 第5回「情報処理委員会」
- a 開催日時及び場所
 - ・平成25年9月19日 三浦市立病院地下食堂兼会議室
 - b 活動内容
 - ・オーダ枠設定基本方針（案）次期システムにおけるオーダ枠の運用について
 - ・各課報告
 - c 参加人数：5名
- カ 第6回「情報処理委員会」
- a 開催日時及び場所
 - ・平成25年10月17日 三浦市立病院地下食堂兼会議室
 - b 活動内容
 - ・各課報告
 - c 参加人数：6名
- キ 第7回「情報処理委員会」
- a 開催日時及び場所
 - ・平成25年11月28日 三浦市立病院2F会議室
 - b 活動内容
 - ・三浦市立病院情報処理委員会設置要領の改正について
 - ・電子カルテシステム利用者ID・パスワード管理規約（案）について
 - ・システム管理者及びシステム管理担当者の推薦について
 - ・各科課題報告と対処方針についてオーダ枠設定基本方針（案）（次期システムに

おけるオーダ枠の運用) について

- ・各課報告

c 参加人数：7名

ク 第8回「情報処理委員会」

a 開催日時及び場所

- ・平成26年1月16日 三浦市立病院副院長室

b 活動内容

- ・各科課題報告と対処方針について
- ・次回委員会開催日時について
- ・電カル操作に関する習熟度調査結果報告及び今後の研修体制・操作指導体制等について
- ・本稼働時の連絡先について
- ・電カルTOP画面の活用について
- ・三浦市立病院情報処理委員会設置要領の改正について
- ・電子カルテシステム利用者ID・パスワード管理規約(案)について
- ・システム管理者及びシステム管理担当者の推薦について
- ・各科課題報告と対処方針についてオーダ枠設定基本方針(案)(次期システムにおけるオーダ枠の運用)について
- ・各課報告

c 参加人数：7名

ケ 第9回「情報処理委員会」

a 開催日時及び場所

- ・平成26年2月20日 三浦市立病院地下食堂兼会議室

b 活動内容

- ・電カル稼働(H25.12.01)以降のID取得・喪失者について
- ・本稼働問題点管理表と電カルCOPTについて
- ・三浦市立病院電子カルテシステム利用者ID・パスワード管理規約の一部改正について
- ・関連部門ID管理担当者の推薦について
- ・院内共有ホルダの院内LANから電カルLANへの移行について

c 参加人数：7名

コ 第10回「情報処理委員会」

a 開催日時及び場所

- ・平成26年3月20日 三浦市立病院地下食堂兼会議室

b 活動内容

- ・三浦市立病院電子カルテシステム関連部門 I D 管理担当者の一部改正について
- ・尿素呼気検査枠の新設について

c 参加人数：6名

IV 経営状況

1 決算概要

(1) 経常収益比較

区 分		平成25年度	平成24年度	比 較	
				増 減	増 減 率
医業収益	入院収益	円 1,310,715,203	円 1,355,368,088	円 △ 44,652,885	% △ 3.3
	外来収益	709,177,459	703,533,520	5,643,939	0.8
	その他 医業収益	150,150,791	144,188,270	5,962,521	4.1
	他会計負担金	174,156,000	174,627,000	△ 471,000	△ 0.3
医業外収益	他会計負担金	95,552,000	105,547,000	△ 9,995,000	△ 9.5
	その他	38,497,182	44,187,090	△ 5,689,908	△ 12.9
事業収益		2,478,248,635	2,527,450,968	△ 49,202,333	△ 1.9

区 分		平成25年度	平成24年度	比 較	
				増 減	増 減 率
医業費用	給与費	円 1,402,605,356	円 1,321,471,740	円 81,133,616	% 6.1
	材料費	300,393,599	320,548,391	△ 20,154,792	△ 6.3
	経費	420,028,631	405,169,915	14,858,716	3.7
	減価償却費	99,233,130	105,243,424	△ 6,010,294	△ 5.7
	資産減耗費	8,491,448	2,844,518	5,646,930	198.5
	研究研修費	28,362,852	19,909,059	8,453,793	42.5
医業外費用	支払利息 及び企業債 取扱諸費	57,738,225	61,700,875	△ 3,962,650	△ 6.4
	その他	52,954,435	34,961,275	17,993,160	51.5
特別損失		13,450,110	5,357,801	8,092,309	151.0
事業費用		2,383,257,786	2,277,206,998	106,050,788	4.7

(2) 損益計算書

平成25年度三浦市病院事業損益計算書 (平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)

(単位:円)

1	医業収益			
(1)	入院収益	1,310,715,203		
(2)	外来収益	709,177,459		
(3)	その他医業収益	150,150,791		
(4)	他会計負担金	<u>174,156,000</u>	2,344,199,453	
2	医業費用			
(1)	給与費	1,402,605,356		
(2)	材料費	300,393,599		
(3)	経費	420,028,631		
(4)	減価償却費	99,233,130		
(5)	資産減耗費	8,491,448		
(6)	研究研修費	<u>28,362,852</u>	<u>2,259,115,016</u>	
	医業利益			85,084,437
3	医業外収益			
(1)	受取利息配当金	49,736		
(2)	他会計負担金	95,552,000		
(3)	患者外給食収益	94,565		
(4)	その他医業外収益	<u>38,352,881</u>	134,049,182	
4	医業外費用			
(1)	支払利息及び企業債取扱諸費	57,738,225		
(2)	患者外給食材料費	34,590		
(3)	雑損失	<u>52,919,845</u>	<u>110,692,660</u>	<u>23,356,522</u>
	経常利益			108,440,959
5	特別損失			
(1)	過年度損益修正損	950,110		
(2)	その他特別損失	<u>12,500,000</u>	<u>13,450,110</u>	<u>13,450,110</u>
	当年度純利益			94,990,849
	前年度繰越欠損金			<u>1,640,743,017</u>
	当年度未処理欠損金			<u>1,545,752,168</u>

(3) 貸借対照表

(平成26年3月31日)

(単位：円)

	資	産	の	部					
1	固	定	資	産					
(1)	有	形	固	定	資				
	イ	土	地		34,032,902				
	ロ	建	物	1,941,179,995					
		建物減価償却累計額	474,566,183	1,466,613,812					
	ハ	建物附属設備	1,708,547,153						
		建物附属設備減価償却累計額	438,658,853	1,269,888,300					
	ニ	構	築	物	28,538,421				
		構築物減価償却累計額	15,091,862	13,446,559					
	ホ	器	械	備	品	1,309,626,944			
		器械備品減価償却累計額	823,763,372	485,863,572					
	ヘ	車	両	8,488,092					
		車両減価償却累計額	2,935,158	5,552,934					
		有形固定資産合計			3,275,398,079				
(2)	無	形	固	定	資				
	イ	電	話	加	入	権	443,100		
		無形固定資産合計			443,100				
(3)	投	資							
	イ	長	期	貸	付	金	69,350,000		
		投資合計			69,350,000				
		固定資産合計				3,345,191,179			
2	流	動	資	産					
(1)	現	金	預	金	292,866,922				
(2)	未	収	金						
	イ	医	業	未	収	金	360,760,768		
	ロ	医	業	外	未	収	金	13,049,339	
	ハ	そ	の	他	未	収	金	43,021,741	416,831,848
(3)	貯	蔵	品		9,647,175				
(4)	前	払	費	用	1,742,700				
(5)	前	払	金		258,500				
(6)	そ	の	他	流	動	資	産	2,645,120	
		流動資産合計			723,992,265				
		資産合計			4,069,183,444				

(単位：円)

		負債の部		
3	固定負債			
(1)	企業債			
	イ 公立病院特例債	227,171,878		
	ロ 退職手当債	53,034,083	280,205,961	
	固定負債合計			280,205,961
4	流動負債			
(1)	未払金			
	イ 医療未払金	124,398,919		
	ロ 医療外未払金	1,900		
	ハ その他未払金	25,991,573	150,392,392	
(2)	前受金		4,572,292	
(3)	預り金		12,609,192	
(4)	その他流動負債		1,000,000	
	流動負債合計			168,573,876
	負債合計			448,779,837
		資本の部		
5	資本金			
(1)	自己資本金			
	イ 固有資本金	67,852,672		
	ロ 繰入資本金	1,109,518,523	1,177,371,195	
(2)	借入資本金			
	イ 企業債	3,014,673,690		
	借入資本金合計		3,014,673,690	
	資本金合計			4,192,044,885
6	剰余金			
(1)	資本剰余金			
	イ 受贈財産評価額	5,277,452		
	ロ 寄附金	28,387,708		
	ハ 国庫補助金	214,030,866		
	ニ 県補助金	17,507,000		
	ホ 市補助金	708,907,864		
	資本剰余金合計		974,110,890	
(2)	欠損金			
	イ 当年度未処理欠損金			
	繰越欠損金年度末残高	1,640,743,017		
	当年度純利益	94,990,849		
	欠損金合計		1,545,752,168	
	剰余金合計			△ 571,641,278
	資本合計			3,620,403,607
	負債資本合計			4,069,183,444

2 三浦市立病院改革プラン及び実施状況

団 体 名		神奈川県三浦市					
プ ラ ン の 名 称		三浦市立病院改革プラン					
策 定 日		平成 21年 3月 25日					
対 象 期 間		平成 21年度 ～ 平成 25年度					
病院の現状	病 院 名	三浦市立病院					
	所 在 地	神奈川県三浦市岬陽町4番33号					
	病 床 数	一般病床136床					
	診 療 科 目	内科 神経内科 外科 整形外科 眼科 耳鼻いんこう科 小児科 産婦人科 リハビリテーション科 麻酔科、脳神経外科					
公立病院として今後果たすべき役割(概要) (注)詳細は別紙添付 □		<ul style="list-style-type: none"> 公立病院として地域医療の基幹的な役割を果たす 市内唯一の総合病院として、民間医療機関で担うことのできない高度・専門医療を提供するとともに、救急告示病院として、一次及び二次救急を担う。 自己完結型から地域完結型に転換 それぞれの医療機関や福祉施設が、得意分野を生かして機能や役割を分担するとともに、地域的なネットワークにより、医療、介護サービスを提供できるような仕組みを目指し、地域完結型医療への転換を図る。 ネットワークで安全、安心の医療を提供 病々、病診の連携を強化し、地域のネットワークにより、安全、安心の医療を提供する。 市民全員の生涯的・統一的健康管理 健康管理データの一元化を図り、市民の生涯的・統一的健康管理を行う。 					
一般会計における経費負担の考え方(繰出基準の概要) (注)詳細は別紙添付		<ul style="list-style-type: none"> 救急医療の確保に要する経費(特別交付税措置分相当額+所要人件費及び物件費相当額からその収入を差し引いた分) 病院事業会計に係る共済組合追加費用の負担に要する経費の45% 地方公営企業職員に係る基礎年金拠出金に係る公的負担に要する経費 保健衛生行政事務に要する経費のうち、医療相談等保健衛生派遣費用 高度医療に要する経費(高度医療に係る所要人件費及び物件費相当額からその収入を差し引いた分) 研修研究費 リハビリテーション医療に要する経費(所要人件費及び物件費相当額からその収入を差し引いた分) 地方公営企業職員に係る児童手当に要する経費 病院事業債元利償還金の2/3(14年度以前分)ないし1/2(15年度以降分)相当額 病院の建設改良に要する経費の1/2(起債分を除く) 					
経営効率化に係る計画	財務に係る数値目標(主なもの)	19年度実績	20年度	21年度	22年度	23年度	備考
	経常収支比率	79.6	80.7	91.5	96.8	102.4	
	職員給与費比率	62.5	60.8	58.0	54.9	52.7	
	病床利用率	80.0	73.2	83.9	88.2	92.0	
	患者1人1日当たり診療収入(入院)	29,550	30,012	31,616	30,762	29,929	単位(円)
	患者1人1日当たり診療収入(外来)	5,528	5,553	5,786	6,014	6,035	単位(円)
上記目標数値設定の考え方		<p>計画3ヶ年度目に当る平成23年度に経常黒字化を目指す。 任意項目としては、医療提供の内容を反映し患者単価に直接結びつく指標を選択した。 (経常黒字化の目標年度:23年度)</p>					

公立病院としての医療機能に係る数値目標(主なもの)		19年度実績	20年度	21年度	22年度	23年度	備考
	年延入院患者数	39,821	36,338	41,641	43,783	45,817	年間延べ件数
	年延外来患者数	114,615	108,926	120,711	124,313	126,910	年間延べ件数
	紹介件数	972	1,217	1,462	1,707	1,952	年間延べ件数
	逆紹介件数	1,032	1,277	1,522	1,767	2,012	年間延べ件数
数値目標達成に向けての具体的な取組及び実施時期	民間的経営手法の導入	<ul style="list-style-type: none"> ○平成2年4月1日から医事事務を完全委託化。 ○平成20年4月1日から病院給食業務の民間委託実施。 ○平成20年4月1日から、民間病院等経営経験の民間人を任期付き一般職員(事務長)として採用し経営改革に着手。 					
	事業規模・形態の見直し	○平成22年度から地方公営企業法全部適用を前提に制度等の検討を進める。					
	経費削減・抑制対策	<p>【人件費】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1.業務量及び業務内容を判断し、事務職員の適正配置を心がけ、最低限必要な人数で機能するよう非常勤職員の活用を積極的に図る。 2.(H20.7.1実施)平成20年度中の人事異動を進め、平成20年3月31日現在の12名の事務局職員を平成20年9月1日において8名とした。(年間効果額3,900万円) 3.(H20.7.1実施)看護師祝日勤務時間外勤務手当の振替休日シフト。(年間効果額1,200万円) 4.(H20.9.1実施)常勤医師確保による非常勤当直医師数の削減による影響額。(年間効果額2,080万円) 5.(継続的に)常勤医師確保による非常勤医師賃金の減(年間効果額約3,200万円) <p>【委託料】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1.(H20.5.1実施)医事業務委託の複数年契約(年間効果額380万円) 2.(H20.10.1実施)院内医事システムSE駐在委託の見直し(年間効果額460万円) 3.(H20.9.1実施)面会受付業務の見直し(年間効果額200万円) 4.(H20.10.1実施)生活習慣病管理料採用による長期投与見直し(年間効果額2,600万円) <p>【SPD関連経費】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1.SPDシステムによる在庫管理を徹底するため、専門業者への委託化を進める。(年間効果額2,400万円) 					
	収入増加・確保対策	<ul style="list-style-type: none"> 1.(H20.7.1実施)良質な医療の提供と収益性の向上を図るため、入院基本料7対1を実施(年間効果額4,500万円) 2.(H20.9.1実施)糖尿病教育入院の実施(年間効果額400万円) 3.(H20.8.1実施)亜急性期病床の算定実施(年間効果額2,400万円) 4.(H20.7.1実施)診療報酬精度調査による診療報酬請求の向上(実施効果額5,800万円) 5.(H20.10.1実施)脳神経外科外来の実施による、入院・外来の増(年間効果額1,800万円) 6.(H20.10.1実施)生活習慣病管理料採用による長期投与見直し(年間効果額3,700万円) 7.(H20.9.1～実施)開業医との連携による検体検査受託(年間効果額3,600万円) 					
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ○CS(患者満足度)、ES(職員満足度)の向上による職員の意識改革及びインフォームドコンセントの適切な対応、接遇向上による「信頼される病院」として接遇マニュアルの見直しを毎年実施 ○職員研修計画に基づき、認定看護師及び専門看護師の養成を目指し、院内における看護技術の向上を図る ○医療クラークの養成により、医師が診療に専念できる体制づくりを行う 					
各年度の収支計画		別紙のとおり					
その他の特記事項	病床利用率の状況	17年度	87.9%	18年度	90.0%	19年度	80.0%
	病床利用率の状況を踏まえた病床数等の抜本見直し、施設の増改築計画の状況等	当面、亜急性期13床を含む136床で運営する計画。					

再編・ネットワーク化に係る計画	二次医療圏内の公立病院等配置の現況	当院が所在する神奈川県横須賀三浦保健医療圏には、公立病院が4病院所在。 (横須賀市立うわまち病院、横須賀市立市民病院(横須賀市840床)、国立病院機構久里浜アルコール症センター(横須賀市100床)、三浦市立病院(三浦市136床)※いずれも一般・療養病床の合計を記載)	
	都道府県医療計画等における今後の方向性	公立病院間、同一医療圏地域内病院間等におけるネットワーク化を中心とする連携について検討を行う。	
	再編・ネットワーク化計画の概要及び当該病院における対応計画の概要 (注) 1 詳細は別紙添付 2 具体的な計画が未定の場合は、①検討・協議の方向性、②検討・協議体制、③検討・協議のスケジュール、結論を取りまとめる時期を明記すること。	<時期> 平成21年度	<内容> ○公立病院間、同一医療圏地域内病院間等におけるネットワーク化を中心とする連携について、県及び関係市が協調して取り組む。 ○「県関係市連絡会議」等により県、関係市と協議等を進め、地域における検討(「地域検討会議」設置)の必要性について、結論を得る。
経営形態見直しに係る計画	経営形態の現況 (該当箇所)		
	経営形態の見直し(検討)の方向性 (該当箇所) 討中の場合は複数可)		
	経営形態見直し計画の概要 (注) 1 詳細は別紙添付 2 具体的な計画が未定の場合は、①検討・協議の方向性、②検討・協議体制、③検討・協議のスケジュール、結論を取りまとめる時期を明記すること。	<時期> 平成22年4月	<内容> ・平成22年度から地方公営企業法全部適用を前提に制度等の検討を進める。また、平成23年度末において、24年度以降、経常利益を安定して出せる見込みが立てられない場合は、他の経営形態への移行を前提に取組みを進めていく。
点検・評価・公表等	点検・評価・公表等の体制 (委員会等を設置する場合その概要)	点検・評価・公表等の手段としては、 ア ホームページに掲載するとともに、意見募集ボタンを設定し閲覧者からの意見を集約する方法を取り入れたい。平成21年4月から運用開始できるよう、市統計情報課と協議しホームページ上の対応を実施していく。 イ 市議会の病院を審議する「都市厚生常任委員会」及び「財政健全化対策特別委員会」に報告し、意見等を集める方法を講じる。 ウ 市広報紙「三浦市民」を活用し、市民に公表するとともに意見等の募集窓口を知らしめ、電話・郵送による意見募集を行う。	
	点検・評価の時期(毎年〇月頃等)	毎年8月頃	
	その他特記事項	今後の収益の確保又は費用の削減について、計画を達成できない場合は、更なる費用の削減、繰入金金の増額等により、別紙1の「単年度資金不足額(※)」の水準(累積ベースの資金不足(別紙1の(H)の額)解消後(24年度以降)は、新たな単年度資金不足を発生させないこと)の達成を図ることとする。	

公営企業経営健全化計画(三浦市立病院改革プラン収支計画) 達成状況

○事業計画に関すること

※計画はH20から

項目	単位	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	
		決算	決算	決算	決算	決算	決算	決算	
入院	患者延数(退院含まず)	(A) 人	37,313	30,655	33,647	36,291	40,633	41,990	39,299
	1日平均患者数	(B) 人	101.9	84.0	92.2	99.4	111.0	115.0	107.7
	1日1人平均診療費	(C) 円	31,536	33,116	33,370	31,078	32,559	32,278	33,352
病床利用率		(D) %	75.0	61.8	67.8	73.1	81.6	84.6	79.2
外来	患者延数	(E) 人	114,615	101,967	104,724	95,461	103,636	103,393	106,038
	1日平均患者数	(F) 人	467.8	416.2	432.7	392.8	424.7	422.0	434.6
	1日1人平均診療費	(G) 円	5,528	5,753	5,922	6,558	6,716	6,804	6,688
職員数	(H) 人		136	(1)	(3)	(3)	(3)	(2)	(2)
	管理者	人	0	0	0	1	1	1	1
	医師	人	13	11	12	12	14	14	14
	事務	人	12	6	7	8	8	7	10
	看護師	人	76	75	70	56	72	73	78
	准看護師	人	10	9	7	4	4	2	1
	医療技術	人	25	20	18	15	15	19	29
	労務	人	0		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)

H25		
計画	決算	決算-計画
42,888	39,299	△3,589
117.5	107.7	△9.8
32,092	33,352	1,260
86.4	79.2	△7.2
128,086	106,038	△22,048
522.8	434.6	△88.2
6,039	6,688	649
	(2)	(2)
142	133	△9
	(0)	(0)
1	1	0
	(0)	(0)
16	14	△2
	(0)	(0)
8	10	2
	(1)	(1)
90	78	△12
	(0)	(0)
10	1	△9
	(0)	(0)
17	29	12
	(1)	(1)
0	0	0

○収支計画に関すること

項目		H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
		決算						
経常損益(経常利益or経常損失)	(U)	△571,957	△562,507	△350,212	△3,750	137,291	255,602	108,441
純損益(純利益or純損失)	(V)	△575,472	△396,103	△20,097	170,175	117,513	250,244	94,991
資本的収支差額	(Y)	△88,959	△90,588	△57,351	△75,469	△217,639	△222,625	△222,236
単年度資金収支額	(Z)	△392,159	329,520	350,339	267,128	18,288	138,957	12,394
地方財政法上の資金の不足額	(7)	561,208	792,888	649,349	382,221	203,097	△98,451	△275,212
解消可能資金不足額	(7)	0	561,200	768,000	768,000	607,164	444,573	280,206
公立病院特例債残高	(エ)	0	561,200	561,200	561,200	450,745	339,405	227,172
退職手当債残高	(イ)	0	0	206,800	206,800	156,419	105,168	53,034
健全化法上の資金の不足額	(ハ) (7)-(イ)	561,208	231,688	△118,651	△385,779	△404,067	△543,024	△555,418

H25		
計画	決算	決算-計画
71,242	108,441	37,199
68,851	94,991	26,140
△203,631	△222,236	△18,605
411	12,394	11,983
△160,966	△275,212	△114,246
229,692	280,206	50,514
229,692	227,172	△2,520
0	53,034	53,034
△390,658	△555,418	△164,760

【計画達成のポイント】 H20年度作成の公営企業経営健全化計画(公立病院改革プラン収支計画)で、以下の3つのポイントを達成出来れば、計画が達成されたものとみなされます。

- (a)、H20年度計画作成以降、毎年必ず単年度資金収支額(Z)を黒字とする。基準外繰入金が見込めないH23年度以降は苦しいが、それでも現金の資金収支は若干でも黒字とし、資金不足額を解消していく。その結果、健全化法上の資金の不足額(ハ)はH21年度に解消され、地方財政法上の資金の不足額(7)もH24年度に解消される。
- (b)、H23年度以降、経常損益(U)の黒字化。→「H23年度末において、H24年度以降、経常利益を安定して出せる見込みが立てられない場合は、他の経営形態への移行を前提に取組みを進めていく。」と記述。
- (c)、健全化法上の資金の不足額(ハ)を、毎年実績で下回らないこととし、H27年度に公立病院特例債の償還を終えること。H27年度には、524,564千円の余剰資金が残り、経営の健全化が図られていること。

公営企業経営健全化計画(三浦市立病院改革プラン収支計画)の概要 決算推移

項目	計算式	単位	H19決算	H20決算	H21決算	H22決算	H23決算	H24決算	H25決算
入院	患者延数(退院含まず)	(A) 人	37,313	30,655	33,647	36,291	40,633	41,990	39,299
	1日平均患者数	(B) 人	101.9	84.0	92.2	99.4	111.0	115.0	107.7
	1日1人平均診療費	(C) 円	31,536	33,116	33,370	31,078	32,559	32,278	33,352
病床利用率	(D)	%	75.0	61.8	67.8	73.1	81.6	84.6	79.2
外来	患者延数	(E) 人	114,615	101,967	104,724	95,461	103,636	103,393	106,038
	1日平均患者数	(F) 人	467.8	416.2	432.7	392.8	424.7	422.0	434.6
	1日1人平均診療費	(G) 円	5,528	5,753	5,922	6,558	6,716	6,804	6,688
年度末職員数 ()は外書で 再任用 短時間勤務職員		(H) 人	(0)	(1)	(3)	(3)	(3)	(2)	(2)
	管理者	人	136	121	114	96	114	116	133
	医師	人	0	0	0	1	1	1	1
	事務	人	13	11	12	12	14	14	14
	看護師	人	12	6	7	8	8	7	10
	看護師	人	76	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
	准看護師	人	70	75	70	56	72	73	78
	医療技術 労務	人 人	10 25	9 20	7 18	4 15	4 15	2 19	1 29

項目	計算式	単位	H19決算	H20決算	H21決算	H22決算	H23決算	H24決算	H25決算		
収益的収支	収益の収入(税抜)	(I) (J)+(M)+(N)	千円	2,233,258	2,247,390	2,555,306	2,396,111	2,492,666	2,527,451	2,478,249	
	医業収益	(J)	千円	2,115,411	1,941,284	2,083,186	2,067,763	2,340,435	2,367,568	2,332,695	
	うち入院収益	(K)	千円	1,176,719	1,015,185	1,122,806	1,127,854	1,322,966	1,355,368	1,310,715	
	うち外来収益	(L)	千円	633,604	586,580	620,216	625,986	696,046	703,534	709,178	
	医業外収益	(M)	千円	117,847	137,088	134,588	144,076	152,231	159,883	145,554	
	基準外繰入(特別利益)	(N)	千円	0	169,018	337,532	184,272	0	0	0	
	収益の支出(税抜)	(O) (P)+(S)+(T)	千円	2,808,730	2,643,493	2,575,403	2,225,936	2,375,153	2,277,207	2,383,258	
	医業費用	(P)	千円	2,643,971	2,477,293	2,427,809	2,081,339	2,248,490	2,175,187	2,259,115	
	うち職員給与費	(Q)	千円	1,322,443	1,260,910	1,279,700	913,206	1,076,409	1,056,313	1,149,282	
	(O)うち退職手当除く		千円	1,248,474	1,118,892	1,057,659	865,898	1,017,890	1,048,920	1,128,629	
	(O)うち退職手当	(R)	千円	73,969	142,018	222,041	47,308	58,519	7,393	20,653	
	医業外費用	(S)	千円	161,244	163,586	140,177	134,250	106,885	96,662	110,693	
	特別損失	(T)	千円	3,515	2,614	7,417	10,347	19,778	5,358	13,450	
	経常損益(経常利益or経常損失)	(U) (I)-(O)-(R)-(S)	千円	△571,957	△582,507	△350,212	△3,750	137,291	255,602	108,441	
純損益(純利益or純損失)	(V) (I)-(O)	千円	△575,472	△396,103	△20,097	170,175	117,513	250,244	94,991		
資本的収支	資本的収入(税込)	(W)	千円	86,727	668,552	49,224	64,369	91,596	98,812	498,839	
	資本的支出(税込)	(X)	千円	175,686	759,140	106,575	139,838	309,235	321,437	721,075	
資本的収支差額	(Y) (W)-(X)	千円	△88,959	△90,588	△57,351	△75,469	△217,639	△222,625	△222,236		
資金収支	単年度資金収支額	(Z)	千円	△392,189	329,520	350,339	267,128	18,288	138,957	12,394	
	地財法	資金の不足額	(7)	千円	561,208	792,888	649,349	382,221	203,097	△98,451	△275,212
		資金不足比率	(7) (7)/(I)	%	26.5	40.8	31.2	18.5	8.7	△4.2	△11.8
	解消可能 資金不足額		(9) 千円	0	561,200	768,000	768,000	607,164	444,573	280,206	
		公立病院特例債残高	(z)	千円	0	561,200	561,200	561,200	450,745	339,405	227,172
	健全化法	退職手当債残高	(f)	千円	0	0	206,800	206,800	156,419	105,168	53,034
資金の不足額		(h) (7)-(9)-(z)-(f)	千円	561,208	231,688	△118,651	△385,779	△404,067	△543,024	△555,418	
	資金不足比率	(h) (h)/(I)	%	26.5	11.9	△5.7	△18.7	△17.3	△22.9	△23.8	

累積欠損金	(7)	千円	1,762,475	2,158,578	2,178,675	2,008,500	1,890,987	1,640,743	1,545,752
-------	-----	----	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------

V 各種統計資料

1 入院患者数実績

(単位：人)

科目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	前期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	後期	合計
内 科	H25	1,863	1,847	1,803	2,010	1,917	1,684	10,924	1,868	1,833	1,718	2,035	2,091	2,064	11,609	22,533
	H24	1,738	2,054	2,098	2,101	1,825	1,778	11,594	1,821	2,099	1,888	1,866	1,840	1,861	11,375	22,969
	比較	△ 75	△ 207	△ 295	△ 91	92	△ 94	△ 670	47	△ 266	△ 170	169	251	203	234	△ 436
神 經 内 科	H25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	比較	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外 科	H25	462	531	453	447	546	570	3,009	526	370	376	521	444	375	2,612	5,621
	H24	929	937	742	857	686	666	4,817	581	587	584	436	448	589	3,225	8,042
	比較	△ 467	△ 406	△ 289	△ 410	△ 140	△ 96	△ 1,808	△ 55	△ 217	△ 208	85	△ 4	△ 214	△ 613	△ 2,421
整 形 外 科	H25	1,038	765	711	833	844	784	4,975	841	993	1,087	1,163	1,011	973	6,068	11,043
	H24	756	719	704	740	959	707	4,585	779	973	1,027	1,191	1,119	1,278	6,367	10,952
	比較	282	46	7	93	△ 115	77	390	62	20	60	△ 28	△ 108	△ 305	△ 299	91
産 婦 人 科	H25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	比較	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小 児 科	H25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	比較	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眼 科	H25	3	5	11	8	5	9	41	7	10	11	5	16	12	61	102
	H24	5	1	4	5	0	2	17	0	4	1	3	2	0	10	27
	比較	△ 2	4	7	3	5	7	24	7	6	10	2	14	12	51	75
耳 鼻 咽 喉 科	H25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	比較	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻 酔 科	H25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	比較	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳 神 経 外 科	H25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	比較	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌 尿 器 科	H25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	比較	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
皮 膚 科	H25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	比較	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	H25	3,166	3,148	2,978	3,298	3,312	3,047	18,949	3,242	3,206	3,192	3,724	3,562	3,424	20,350	39,299
	H24	3,428	3,711	3,548	3,703	3,470	3,153	21,013	3,181	3,663	3,500	3,496	3,409	3,728	20,977	41,990
	比較	△ 262	△ 563	△ 570	△ 405	△ 158	△ 106	△ 2,064	61	△ 457	△ 308	228	153	△ 304	△ 627	△ 2,691
累 計	H25	3,166	6,314	9,292	12,590	15,902	18,949	22,191	25,397	28,589	32,313	35,875	39,299			
	H24	3,428	7,139	10,687	14,390	17,860	21,013	24,194	27,857	31,357	34,853	38,262	41,990			
	比較	△ 262	△ 825	△ 1,395	△ 1,800	△ 1,958	△ 2,064	△ 2,003	△ 2,460	△ 2,768	△ 2,540	△ 2,387	△ 2,691			
合 (+ 退院患者数) 計	退院	253	235	272	296	260	250	1,576	294	265	249	201	221	225	1,455	3,031
	H25	3,429	3,383	3,250	3,594	3,572	3,297	20,525	3,536	3,471	3,441	3,925	3,783	3,649	21,805	42,330
診 療 日 数	H25	30	31	30	31	31	30	183	31	30	31	31	28	31	182	365
	H24	30	31	30	31	31	30	183	31	30	31	31	28	31	182	365
	比較	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1 日 平 均 患 者 数	H25	106	102	99	106	107	102	104	105	107	103	120	127	110	112	108
	H24	114	120	118	119	112	105	115	103	122	113	122	120	116	115	
	比較	△ 8	△ 18	△ 19	△ 13	△ 5	△ 3	△ 11	2	△ 15	△ 10	7	5	△ 10	△ 7	
新 生 児	H25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	比較	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平 日 均 在 院 数	新入院	244	253	265	301	257	245	1,565	310	251	259	217	219	205	1,461	3,026
	退院	263	235	272	296	260	250	1,576	294	265	249	201	221	225	1,455	3,031
	H25	12.5	12.9	11.1	11.1	12.8	12.3	12.1	10.7	12.4	12.6	17.8	16.2	15.9	14.0	13.0
	H24	14.8	14.4	14.5	12.8	13.9	13.3	13.9	12.5	13.1	12.2	12.7	13.1	12.9	12.8	13.3
比較	△ 2.4	△ 1.5	△ 3.4	△ 1.7	△ 1.1	△ 1.0	△ 1.8	△ 1.8	△ 0.7	0.4	5.1	3.1	3.0	1.2	△ 0.3	

2 外来患者数実績

(単位：人)

科目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	前期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	後期	合計	
		H25	H24	比較	H25	H24	比較	H25	H24	比較	H25	H24	比較	H25	H24		比較
内 科	H25	3,189	3,412	3,200	3,394	3,550	3,162	19,907	3,627	4,230	3,774	3,378	3,242	3,430	21,681	41,588	
	H24	3,173	3,360	3,113	3,371	3,590	2,944	19,551	3,518	3,462	3,686	3,325	3,341	21,057	40,608		
	比較	16	52	87	23	△ 40	218	356	△ 98	712	312	△ 308	△ 83	89	624	980	
神 経 内 科	H25	175	159	159	160	188	147	988	199	168	187	145	148	172	1,019	2,007	
	H24	155	165	155	188	155	174	992	154	168	163	146	162	170	963	1,955	
	比較	20	△ 6	4	△ 28	33	△ 27	△ 4	45	0	24	△ 1	△ 14	2	56	52	
外 科	H25	911	923	904	964	1,031	940	5,673	1,074	861	800	801	760	783	5,079	10,752	
	H24	794	929	940	987	961	845	5,456	973	1,004	902	889	846	904	5,518	10,974	
	比較	117	△ 6	△ 36	△ 23	70	95	217	101	△ 143	△ 102	△ 88	△ 86	△ 121	△ 439	△ 222	
整 形 外 科	H25	2,278	2,263	2,332	2,733	2,727	2,385	14,718	2,768	2,582	2,466	2,475	2,296	2,420	15,007	29,725	
	H24	2,090	2,308	2,194	2,532	2,436	1,999	13,559	2,308	2,139	2,138	1,987	1,956	2,151	12,679	26,238	
	比較	188	△ 45	138	201	291	386	1,159	460	443	328	488	340	269	2,328	3,487	
産 婦 人 科	H25	159	189	192	186	251	128	1,105	265	43	27	5	89	115	544	1,649	
	H24	147	192	204	177	222	124	1,066	245	217	189	175	192	176	1,194	2,260	
	比較	12	△ 3	△ 12	9	29	4	39	20	△ 174	△ 162	△ 170	△ 103	△ 61	△ 650	△ 611	
小 児 科	H25	199	208	252	286	252	183	1,380	262	290	302	284	230	285	1,653	3,033	
	H24	273	265	245	269	293	234	1,579	429	406	314	302	247	273	1,862	3,541	
	比較	△ 74	△ 57	77	17	△ 41	△ 51	△ 199	△ 158	△ 116	△ 12	△ 18	△ 17	12	△ 309	△ 508	
眼 科	H25	589	624	636	707	631	460	3,647	716	640	609	463	516	567	3,511	7,158	
	H24	523	552	642	687	631	496	3,531	650	606	534	479	512	646	3,427	6,958	
	比較	66	72	△ 6	20	0	△ 36	116	66	34	75	△ 16	4	△ 79	84	200	
耳 鼻 咽 喉 科	H25	370	424	344	372	356	313	2,179	362	382	325	323	282	352	2,026	4,205	
	H24	429	443	465	458	437	447	2,679	539	469	486	471	468	520	2,953	5,632	
	比較	△ 59	△ 19	△ 121	△ 86	△ 81	△ 134	△ 500	△ 177	△ 87	△ 161	△ 148	△ 186	△ 168	△ 927	△ 1,427	
麻 酔 科	H25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	H24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	比較	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
脳 神 経 外 科	H25	173	120	157	126	171	126	873	142	150	134	122	150	135	833	1,706	
	H24	127	116	146	136	145	109	779	148	121	125	132	140	126	792	1,571	
	比較	46	4	11	△ 10	26	17	94	△ 6	29	9	△ 10	10	9	41	135	
泌 尿 器 科	H25	202	217	188	191	178	177	1,153	219	176	198	191	178	202	1,164	2,317	
	H24	157	173	169	169	172	158	998	182	180	202	172	162	187	1,085	2,083	
	比較	45	44	19	22	6	19	155	37	△ 4	△ 4	19	16	15	79	234	
皮 膚 科	H25	178	155	177	191	151	164	1,016	205	146	178	139	94	120	882	1,898	
	H24	130	152	151	172	113	139	857	140	117	111	103	119	126	716	1,573	
	比較	48	3	26	19	38	25	159	65	29	67	36	△ 25	△ 6	166	325	
合 計	H25	8,423	8,694	8,541	9,310	9,486	8,185	52,639	9,839	9,668	9,000	8,326	7,985	8,581	53,399	106,038	
	H24	7,998	8,655	8,424	9,146	9,155	7,669	51,047	9,484	8,945	8,626	8,542	8,129	8,620	52,346	103,393	
	比較	425	39	117	164	331	516	1,592	355	723	374	△ 216	△ 144	△ 39	1,053	2,645	
累 計	H25	8,423	17,117	25,658	34,968	44,454	52,639		62,478	72,146	81,146	89,472	97,457	106,038			
	H24	7,998	16,653	25,077	34,223	43,378	51,047		60,531	69,476	78,102	86,644	94,773	103,393			
	比較	425	464	581	745	1,076	1,592		1,947	2,670	3,044	2,828	2,684	2,645			
平 日	H25	8,258	8,478	8,324	9,076	9,244	7,960	51,340	9,673	9,462	8,678	7,939	7,697	8,202	51,651	102,991	
	H24																
診 療 日 数	H25	21	21	20	22	22	19	125	22	20	19	19	19	20	119	244	
	H24	20	21	21	21	23	19	125	22	21	19	19	19	20	120	245	
	比較	1	0	△ 1	1	△ 4	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	
平 日 日 数	H25	21	21	20	22	22	19	125	22	20	19	19	19	20	119	244	
	H24																
1 日 平 均 患 者 数	H25	401	414	427	423	431	431	421	447	483	474	438	420	429	449	435	
	H24	400	412	401	436	398	404	408	431	426	454	450	428	431	436	422	
	比較	1	2	26	△ 13	33	27	13	16	57	20	△ 12	△ 8	△ 2	13	13	
1 日 平 均 患 者 数 (平 日)	H25	393	404	416	413	420	419	411	440	473	457	418	405	410	434	422	
	H24																

3 救急患者数実績

(1) 集計期間 平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

(2) 男女別 (単位：人)

区分	男	女	合計
休日	914	893	1,807
平日	1,252	1,378	2,630
合計	2,166	2,271	4,437

(3) 年齢別 (単位：人)

区分	0～9	10～19	20～59	60～	合計
休日	44	88	758	1,073	1,963
平日	60	114	786	1,769	2,729
合計	104	202	1,544	2,842	4,692

(4) 地域別 (単位：人)

区分	三浦市	横須賀市	県内(除： 三浦・横須賀)	県外	合計
休日	1,729	79	64	91	1,963
平日	2,395	143	92	99	2,729
合計	4,124	222	156	190	4,692

(5) 科別患者数 (単位：人)

区分	内科	外科	整形 外科	脳神経 外科	産婦 人科	小児科	眼科	耳鼻咽 喉科	泌尿 器科	皮膚科	その他	合計
休日	1,312	388	246	0	0	4	0	2	11	0	0	1,963
平日	1,834	405	457	1	1	10	2	3	15	0	1	2,729
合計	3,146	793	703	1	1	14	2	5	26	0	1	4,692

(6) 来院手段別患者数

(単位：人)

区分	救急車	パトカー	その他	合計
休日	314	0	1,649	1,963
平日	1,149	0	1,580	2,729
合計	1,463	0	3,229	4,692

(7) 時間帯別患者数

(単位：人)

区分	17~18	18~22	22~24	0~6	6~8	8~8:30	8:30~9	9~17	合計
休日	98	281	65	109	60	49	118	1,183	1,963
平日	229	760	189	202	118	63	111	1,057	2,729
合計	327	1,041	254	311	178	112	229	2,240	4,692

(8) 処置状況

(単位：人)

区分	外来	入院	他医療機関紹介	その他	合計
休日	1,736	209	13	5	1,963
平日	2,000	668	33	28	2,729
合計	3,736	877	46	33	4,692

看 護 師 石 川 智 子

【看 護 科】

総 看 護 師 長 佐 藤 清 江
 主 幹 嘉 山 静 子
 教 育 担 当 師 長 舘 林 美 加 子
 医 療 安 全 管 理 担 当 後 藤 令 子
 感 染 管 理 担 当 杉 崎 絵 美
 総 看 護 師 長 付 竹 内 友 美

(2 階 病 棟)

師 長 中 條 郁 代
 主 任 原 美 智 子
 主 任 高 西 かな 子
 看 護 師 渡 邊 み ゆ き
 看 護 師 中 尾 裕 子
 看 護 師 三 橋 良 重
 看 護 師 松 井 紀 子
 看 護 師 君 島 直 美
 看 護 師 阿 部 久 美 子
 看 護 師 岡 本 雪 江
 看 護 師 高 杉 有 希 子
 看 護 師 長 島 好 美
 看 護 師 瀨 古 澤 和 子
 看 護 師 山 田 智 仁
 看 護 師 原 田 左 和 子
 看 護 師 鈴 木 安 代
 看 護 師 藤 田 あ ず さ
 看 護 師 西 ノ 園 由 貴
 看 護 師 能 隅 智 子

(3 階 病 棟)

師 長 三 輪 睦
 主 任 鈴 木 三 恵 子
 主 任 山 本 浩 文
 看 護 師 吉 田 美 智 子

看 護 師 宮 村 純 子
 看 護 師 足 助 里 美
 看 護 師 大 林 嬢 子
 看 護 師 大 井 雪 子
 看 護 師 沼 田 夏 季
 看 護 師 平 山 典 子
 看 護 師 野 村 香 織
 看 護 師 長 谷 川 嘉 寛
 看 護 師 加 藤 素 子
 看 護 師 竹 内 馨
 看 護 師 萩 原 京 子
 看 護 師 上 田 峰 子
 看 護 師 一 ツ 谷 麻 衣 子
 看 護 師 岡 野 恵 美
 看 護 師 石 渡 綾 子
 看 護 師 秋 間 真 衣
 看 護 師 田 中 絵 利 香

(4 階 病 棟)

師 長 金 子 美 香
 主 任 柴 田 弘 子
 看 護 師 中 尾 フ ミ エ
 看 護 師 森 和 代
 看 護 師 池 田 安 弘
 看 護 師 君 島 恵 子
 看 護 師 石 黒 菜 穂
 看 護 師 山 崎 静 枝
 看 護 師 崎 山 美 緒
 看 護 師 神 田 尚 代
 看 護 師 高 橋 さ つ き
 看 護 師 石 塚 仁
 看 護 師 鈴 木 未 来

(外 来)

師 長 園 田 恵 美 子
 主 任 宮 越 郁 子

主		任	市川 夏実	主	事	補	齋 藤 俊
看	護	師	ラハマシ 史子				
看	護	師	原 かおり				
看	護	師	上田 みどり				
看	護	師	下里 未来				
看	護	師	岸田 美智子				
看	護	師	大竹 民子				
看	護	師	長田 泰代				
看	護	師	高久 乙華				
看	護	師	嘉山 美樹				
看	護	師	佐 藤 誠				

(手 術 室)

師		長	下地 福子
看	護	師	平島 龍一
看	護	師	安田 佳恵
看	護	師	小川 渚
看	護	師	川平 朝克

【薬 局】

薬	局	長	猪崎 佐和子
薬	剂	師	福本 哲也
薬	剂	師	今村 里絵
薬	剂	師	加藤 慈
薬	剂	師	長谷川 澄子

【事 務 局】

事	務	長	佐藤 安志
次		長	矢尾板 昌克
主		査	木賀 恵子
主		査	金枝 晃芳
主		査	佐藤 高弘
主		任	藤嶋 和弘
管	理 栄 養	士	嘉山 有太
労	務	員	石渡 忠芳
主	事	補	吉田 佳代子

VII 編集後記

当院の年報委員会を昨年再編してから、2回目の病院年報をお届けすることとなりました。昨年の編集後記の最後で「本年報の拙い編集作業の経験を活かし、よりより年報の作成に傾注すること」をお約束したのにも関わらず、今回もなぜか紆余曲折、それなりにハードな編集作業を経てようやく完成し、みなさまにお届けすることができました。完成が遅れたことを猛省し、この年報を手にとっていただくみなさまには、衷心よりお詫び申し上げます。

振り返りますと、平成25年度も当院にとって激動の1年であったと感じています。1日当たり約400人の外来患者さん、約110人の入院患者さんに安全で質の高い医療を提供する日々の努力のほか、CTの更新、電子カルテシステムの稼働、訪問リハや土曜日への開始、在宅看取りを考えるシンポジウムなどなど、“「三浦ならでは」の地域医療の確立”のための新たな取組を職員が一丸となって進めて参りました。こうした当院の歴史の1頁を年報に記録することができたことの意味は大きいと自負する一方で、前述の編集の遅延のほか、反省すべき点、改善すべき点が多くあることも事実です。この年報を少しでも多くの方々にご一読賜り、当院の1年の歴史をご理解いただくとともに、この年報のほか、当院の活動に対する叱咤激励を賜れば幸甚に存じます。

来年の編集に当たっては、8月末の完成を目指すことを編集委員全員で確認をしたところですが、来年こそは「本年報の拙い編集作業の経験を活かし、より良い年報の作成に傾注すること」をお約束いたしますので、引き続きご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

末筆ですが、乱筆、乱文、乱調をお詫び申し上げ、編集後記といたします。

三浦市立病院年報委員会

委員長	石渡	秀朗(副管理者)
副委員長	佐藤	清江(看護部)
委員	嘉山	静子(看護部)
	佐藤	安志(事務局)
	矢尾板	昌克(事務局)
	藤井	伸行(リハビリテーション科)
	加藤	大己(放射線科)
	足立	直彦(臨床検査科)
	長谷川	澄子(薬剤科)
	藤嶋	和弘(事務局)

三浦市立病院年報 第 26 号

発 行 日	2014 年 12 月
編 集 発 行	〒238-0222 神奈川県三浦市岬陽町 4 番 33 号 三浦市立病院年報委員会
電 話	046-882-2111
F A X	046-881-7527
発行責任者	副管理者 石渡 秀朗